

EPSON

Endeavor NA511E



ユーザーズマニュアル

Windows 7

ご使用前に

- コンピューターをご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。

情報マップ (知りたい情報はどこにある?)

本機に関する情報は、次の場所で見ることができます。

やりたいこと

購入時

- 本機の添付品を知りたい
- Windowsをセットアップしたい
- 本機を設置したい

使いはじめ

- インターネット/メールをしたい
- Windowsの操作方法を知りたい
- 用語を調べたい
- ソフトウェアの操作方法を知りたい
- 周辺機器(プリンター、デジタルカメラなど)を使いたい

使いつなしたとき

- オプション製品(マウス、ソフトウェアなど)を使いたい

- メモリーカードを使いたい **p.50**
- セキュリティー設定をしたい **p.97**



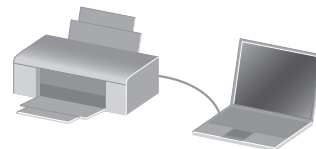
- 無線LANに接続したい(オプション) **p.84**
- Bluetooth機能を使いたい(オプション) **p.91**



- 添付ソフトを知りたい **p.22**
- 省電力で使いたい **p.102**
- メモリーを増設したい **p.113**



- USB機器を接続したい **p.53**



- 再インストール(リカバリー)をしたい **p.147**
- 消去禁止領域のデータをバックアップしたい **p.183**

- 画面表示やサウンドの設定をしたい **p.56、70**
- カメラを使いたい **p.110**
- UEFIの設定を変更したい **p.123**
- HDD/SSD領域を変更したい **p.185**
- 本機の仕様を知りたい **p.192**

困ったとき

- トラブルを解決したい **p.163**
- システム診断をしたい **p.176**

故障したとき

- サポート・サービス情報を知りたい
- 修理を依頼したい



紙マニュアル

紙で添付されている情報です。



PC お役立ちナビ

コンピューターの画面で見る電子の情報です。

情報の場所



『スタートアップガイド』



【お役立ち】



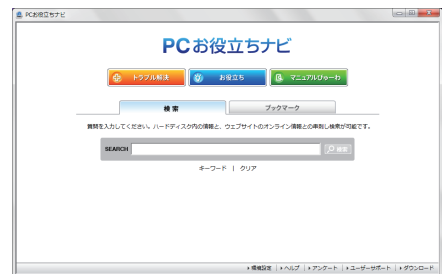
オプション製品のマニュアル



ユーザーズマニュアル(本書)



PCお役立ちナビ p.4



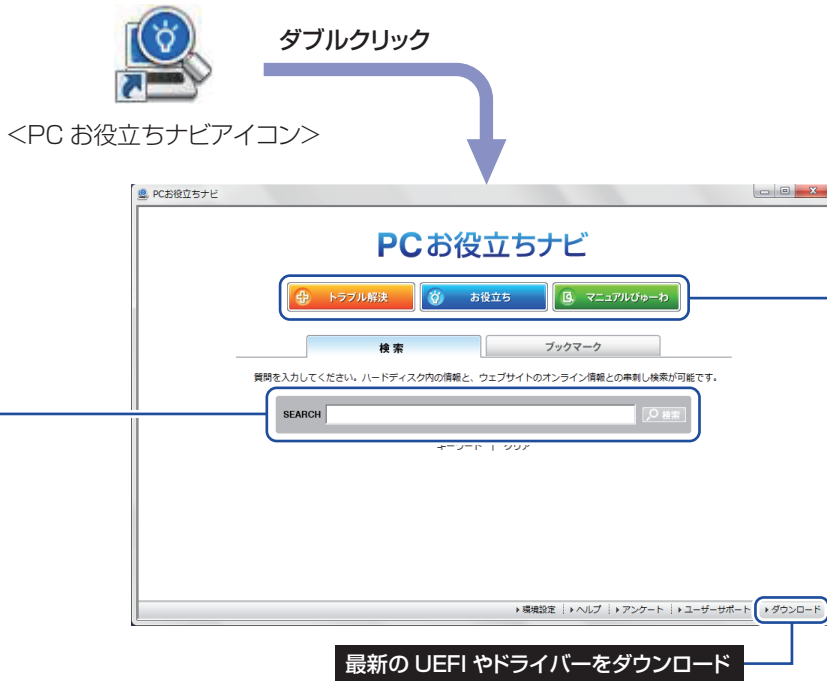
【トラブル解決】



『サポート・サービスのご案内』

知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ

本機には、知りたい情報を簡単に検索できるサポートツール「PC お役立ちナビ」が搭載されています。困ったときや、役立つ情報を知りたいときなどにお使いください。最新のUEFI やドライバーもダウンロードできます。



① 検索をする

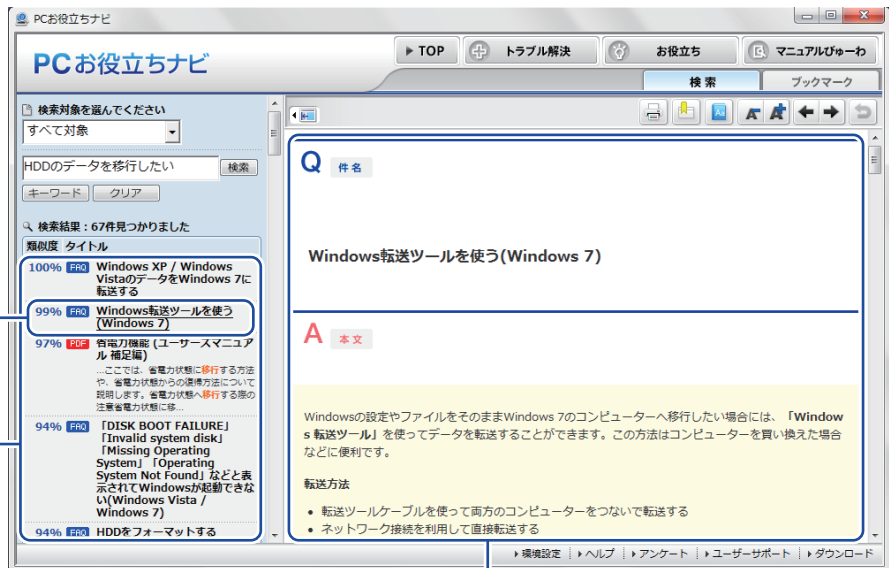
TOPページから
検索実行

本機に収録されている情報+ユーザーサポート
ページのオンライン情報を一度に検索

※本機に収録されている情報 = サポートコンテンツ・マニュアル (PDF)・ヘルプなど
※インターネットに接続していない場合は、本機に収録されている情報のみを検索します。

① 見たい項目
を選択

検索結果



② 内容が表示される

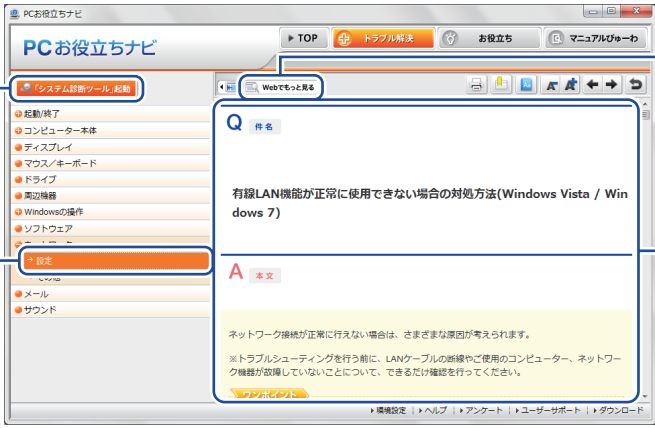
② おすすめコンテンツ・マニュアルを見る

トラブル解決

トラブル解決に役立つ情報や、システム診断ツールを収録しています。

システム診断
を実行

①トラブルの種類
を選択



もっと情報がほしい
とき→Webへ

②内容が表示される

お役立ち

コンピューターの便利な使い方や、役立つ情報を収録しています。

①情報の分類を
選択

②見たい項目を
選択



もっと情報がほしい
とき→Webへ

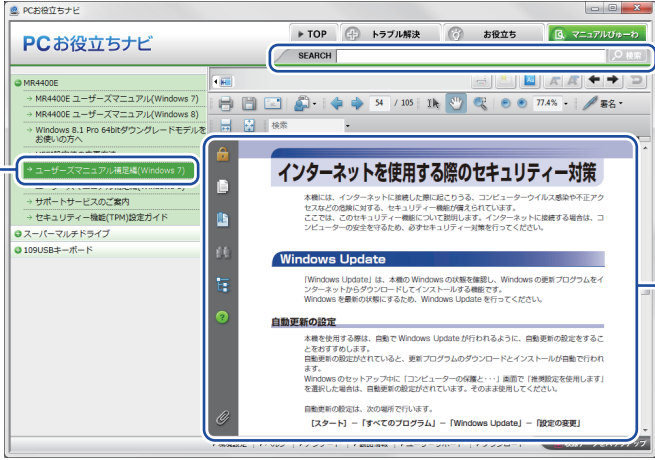
[お役立ち] 内の
情報を検索

③内容が表示される

マニュアルびゅーわ

本機に添付されているマニュアルの PDF データを収録しています。

①見たいマニュアル
を選択



[マニュアルびゅーわ]
内の情報を検索

②マニュアル (PDF)
が表示される

< イメージ >

目次

ご使用の前に

製品保護上の注意.....	10
無線 LAN 使用時のセキュリティに関する注意.....	13
マニュアルの読み方.....	14
各部の名称.....	19
添付されているソフトウェア.....	22

1 コンピューターの基本操作

Windows 操作のヒント.....	26
AC アダプター / バッテリーパックを使う.....	30
タッチパッドを使う.....	38
キーボードを使う.....	43
HDD/SSD の概要.....	48
メモリーカードを使う.....	50
USB 機器を使う.....	53
画面表示機能.....	56
外付けディスプレイを使う.....	59
サウンド機能.....	70
ネットワーク機能 (有線 LAN).....	74
無線 LAN 機能 (オプション).....	84
Bluetooth 機能を使う (オプション).....	91
インターネットを使用する際のセキュリティ対策.....	97
省電力機能.....	102
カメラを使う.....	110
そのほかの機能.....	111

2 装置の増設・交換

増設・交換できる装置.....	114
メモリーの装着.....	115
外付け可能な周辺機器.....	121

3 UEFI の設定

UEFI の設定を始める前に.....	124
UEFI Setup ユーティリティの操作.....	125
UEFI Setup ユーティリティの設定項目.....	138

4

ソフトウェアの再インストール

再インストールの前に.....	148
Windows のインストール.....	151
ドライバー / ソフトウェアのインストール.....	157
再インストール後の作業.....	160

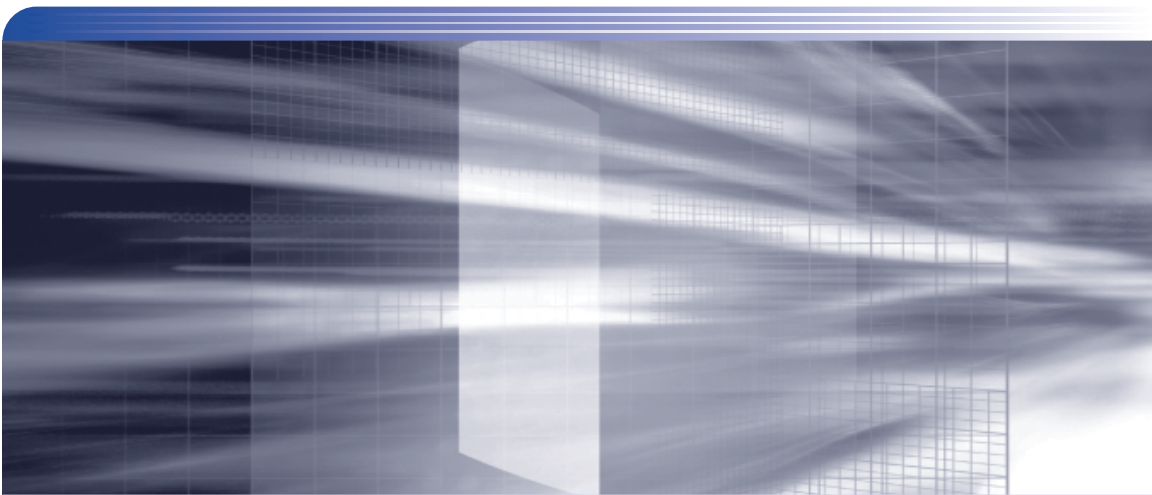
5

困ったときは

トラブルが発生したら.....	164
起動・画面表示できないときは.....	166
トラブル時に効果的な対処方法.....	170

付録

お手入れ.....	180
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化... ..	181
消去禁止領域のデータをバックアップする.....	183
HDD/SSD 領域の変更.....	185
コンピューターを廃棄するときは.....	189
機能仕様一覧.....	192



ご使用前に

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

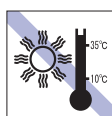
製品保護上の注意.....	10
無線 LAN 使用時のセキュリティーに関する注意...	13
マニュアルの読み方.....	14
各部の名称.....	19
添付されているソフトウェア.....	22

製品保護上の注意

使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。

特に指定のない限り、注意事項は、本体および AC アダプターやバッテリーパックなどの同梱品に適用されます。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。

故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は 10℃～35℃です。



ホコリの多い所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



温度が低い場所から温度が高い場所へ本機を急に移動させると、結露が発生する場合があります。

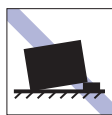
結露したまま本機を使用すると、故障、誤動作の原因となります。

結露が発生した場合は、本機が室温と同じくらいの温度になるのを待ってから、使用してください。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。



不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。

誤動作やデータ破損の原因となることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリーパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えることがあります。



無停電電源装置（UPS）を使用する場合は、正弦波出力の UPS を使用してください。正弦波出力以外の UPS を使用すると、本機が起動できなくなったり、動作が不安定になったりする場合があります。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



本機を落としたり、ぶつけたりして、衝撃を与えないでください。持ち運ぶときは、電源を切り、バッグに入れるなどして衝撃から守るようにしてください。



本機を長期間使わないときは、バッテリーパックを本機に装着したままにしないでください。液漏れを起こすことがあります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けたりしないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。



LCD画面の表面を先の尖ったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。

LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。



キーボードの上などに、物（ボールペンなど）をはさんだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。



本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。

また、開閉可能な最大角度を超えてLCDユニットを開かないでください。ヒンジ部分が破損します。



ACアダプターはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。



ACアダプターの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。

記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

記録メディアの種類



光ディスクメディア

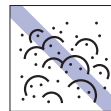


メモリーカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



上に物を載せないでください。



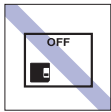
キズを付けしないでください。



クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。

内側から外側に向かって拭いてください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD 専用クリーナーを使ってください。

CD



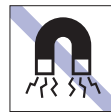
光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングする CD は使わないでください。

CD



金属端子には触れないでください。

MC



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

MC



金属端子にホコリや水を付けしないでください。

シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

MC

マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。



レンズ部分に触れないでください。



落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。

無線 LAN 使用時の セキュリティに関する注意

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線 LAN を使用する前に、必ずお読みください。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線 LAN アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）

- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）

- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）

- コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。


本来、無線 LAN や無線 LAN アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN や無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、または、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

マニュアルの読み方

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、「ユーザーズマニュアル」(本書)とは別に提供されている場合があります。



お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で提供されていますので、ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROM などに収録されている電子マニュアル
- 「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」に収録されている電子マニュアル

マニュアル中の表記










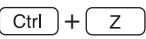


安全に関する記号

本書では次のような記号を使用しています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。




一般情報に関する記号

本書では、次のような一般情報に関する記号を使用しています。

	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
	手順が次ページに続くことを示します。
	 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。  は Enter キーを表します。また、  は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
	+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。 この例では、  を押したまま  を押します。

参照先に関する記号

本書では、次のような参照先に関する記号を使用しています。

	本書内の参照ページを示します。
	別冊子を示します。
「 」	冊子の名称を示します。 例) 『サポート・サービスのご案内』
	サポートツール「PC お役立ちナビ」を示します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
SSD	ソリッドステートドライブ (M.2 SSD を含む)
光ディスクメディア	CD メディア、DVD メディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリーカード	SD メモリーカード、マルチメディアカード

オペレーティングシステム (OS) に関する表記

本書では、オペレーティングシステム (OS) の名称を次のように略して表記します。

Windows 7	Windows [®] 7 Professional 32bit 版 Windows [®] 7 Professional 64bit 版
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------

HDD/SSD 容量の記載

本書では、HDD/SSD 容量を 1GB (ギガバイト) =1000MB として記載しています。

メモリー容量の記載

本書では、メモリー容量を 1GB (ギガバイト) =1024MB として記載しています。

Windows の画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows の画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



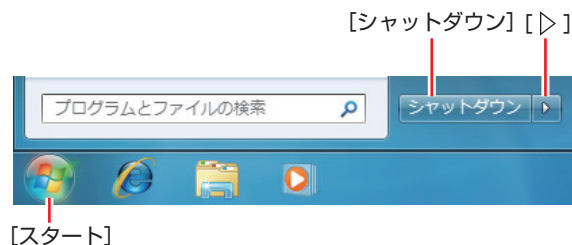
ボタン

ボタンは [] で囲んで記載しています。

例)  : [OK]

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

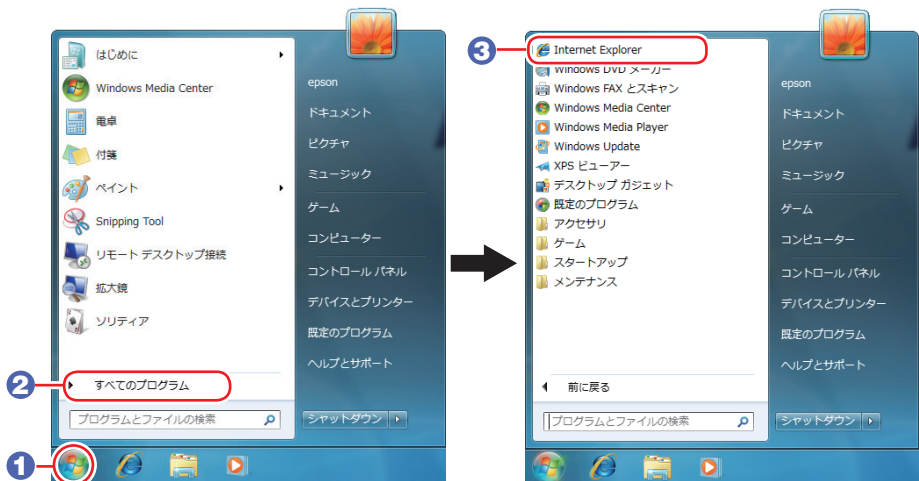
本書では、Windows の画面上で行う操作手順を次のように記載します。

●記載例

〔スタート〕 - 〔すべてのプログラム〕 - 〔Internet Explorer〕 をクリックします。

●実際の操作

- 1 [スタート] をクリックします。
- 2 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
- 3 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



※表示される項目は、システム構成によって異なります。

コントロールパネル

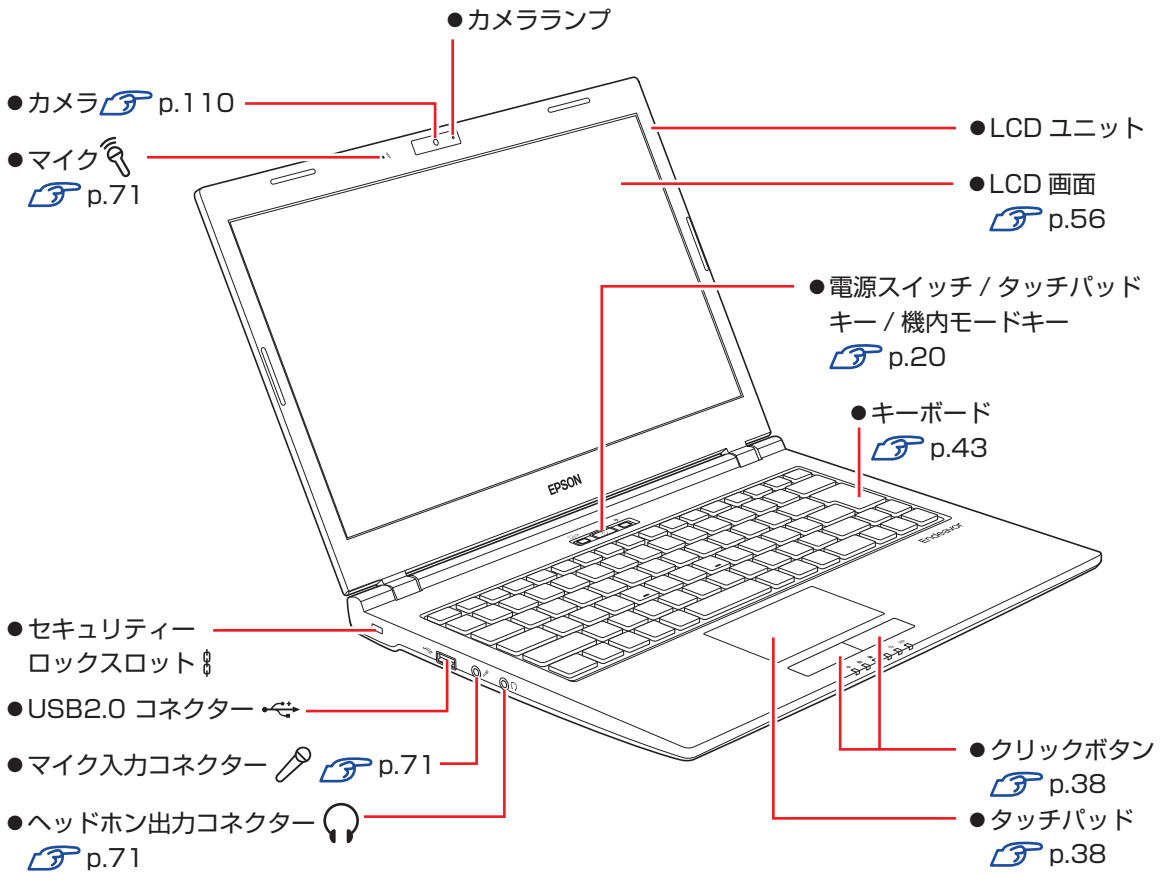
本書では、コントロールパネルの表示が、「カテゴリ」であることを前提に記載しています。



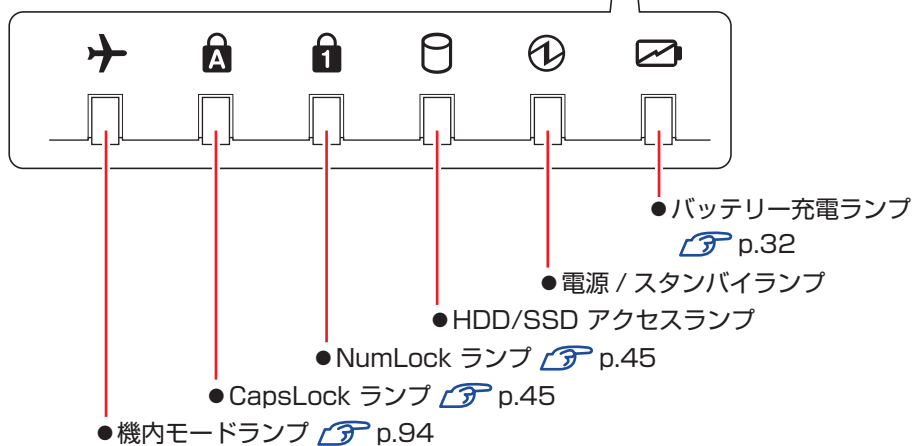
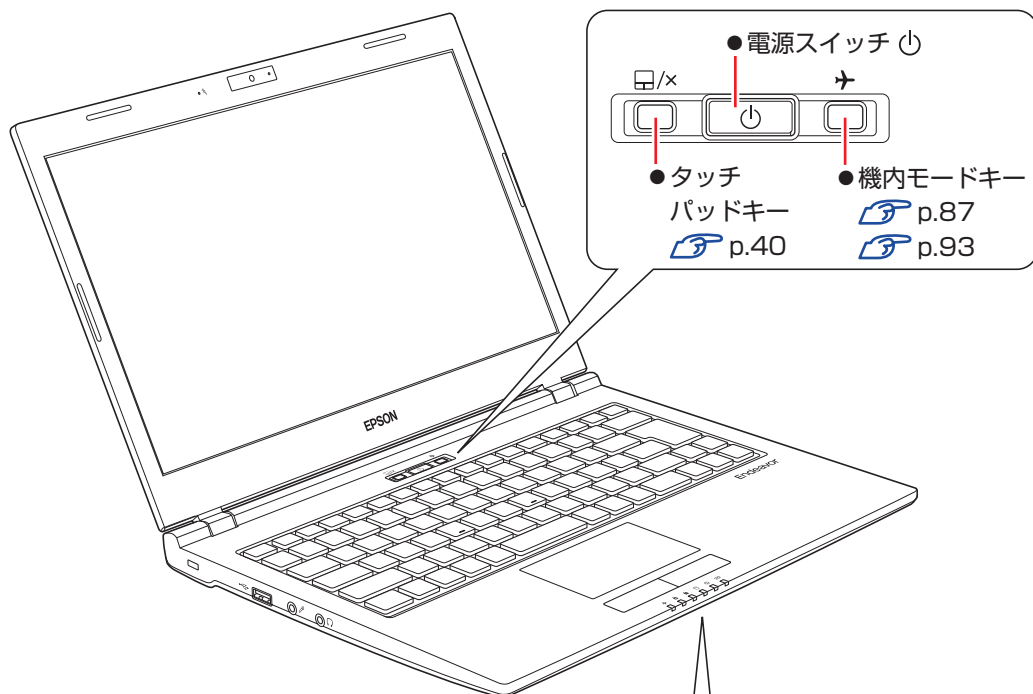
<表示方法：カテゴリ>

各部の名称

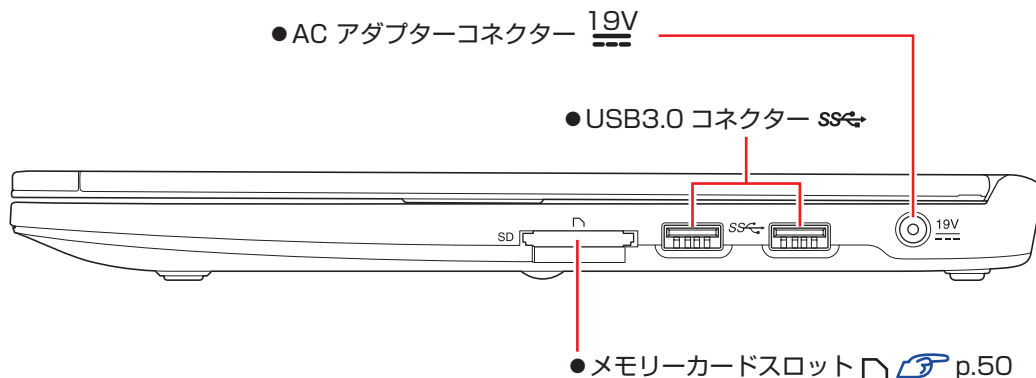
正面・左側面



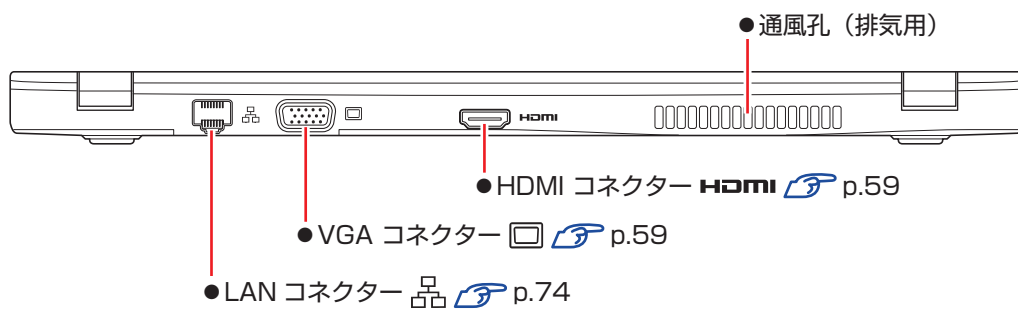
ボタン類 / ステータス表示ランプ



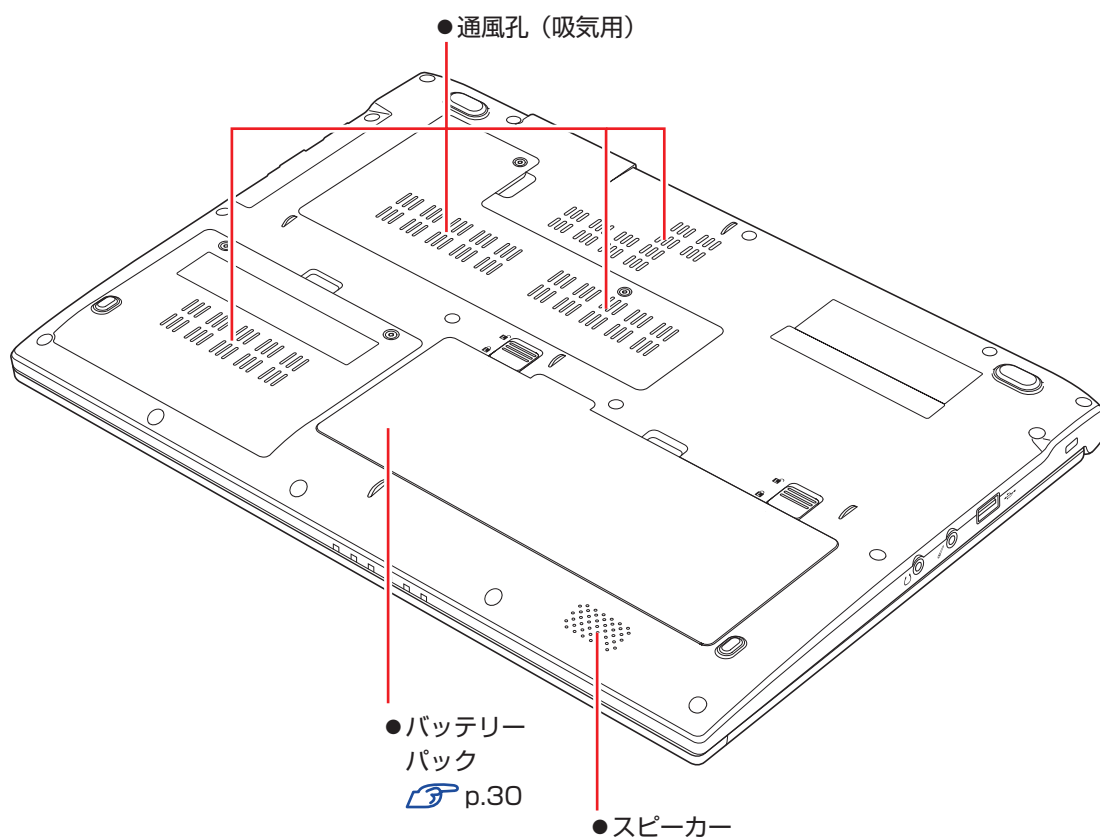
右側面



背面





底面



添付されているソフトウェア

本機に添付されているソフトウェアについて説明します。

表中記号の見方

	ソフトウェアのインストール用データは添付の DVD または CD に収録されています。
	ソフトウェアのインストール用データは HDD/SSD の「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。



参考





消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ




HDD/SSD の「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアは、USB 記憶装置にバックアップすることができます。

 p.183 「消去禁止領域のデータをバックアップする」

本機にインストールされているソフトウェア









次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
●Windows 7 本機のおペレーティングシステム (OS) です。	 Windows 7 リカバリー DVD
●リカバリーツール  p.157、p.183 HDD/SSD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	 リカバリーツール CD
●本体ドライバー <ul style="list-style-type: none">•チップセットドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。•Intel Rapid Storage Technology Windows 上で HDD の状態を確認するためのユーティリティです。•Intel Management Engine ドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。•ビデオドライバー CPU のビデオ機能を使用するためのドライバーです。•カードリーダードライバー メモリーカードスロットを使用するためのドライバーです。•オーディオドライバー 音を鳴らしたり、録音するためのドライバーです。•タッチパッドドライバー タッチパッドを使用するためのドライバーです。	 消去禁止領域

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
<p>●本体ドライバー</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワークドライバー ネットワーク機能（有線 LAN）を使用するためのドライバーです。 • 無線 LAN ドライバー（無線 LAN 機能搭載時） 無線 LAN を使用するためのドライバーです。 • Bluetooth ドライバー（Bluetooth 機能搭載時） Bluetooth を使用するためのドライバーです。 • USB3.0 ドライバー USB3.0 を使用するためのドライバーです。 • 電源管理ユーティリティ バッテリーの充電レベルやピークシフトの設定ができます。 • ホットキードライバー [Fn] と組み合わせて使用する機能キーを使用するためのドライバーです。 • Microsoft .Net Framework 4.5 .Net Framework 4.5 で作成されたアプリケーションなどを使用するためのプログラムです。 	 消去禁止領域
<p>●PC お役立ちナビ  p.4、p.164 コンピューターの情報を簡単に検索できるサポートツールです。システム診断ツールも含まれています。</p>	
<p>●Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。</p>	
<p>●Internet Explorer 11 インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。</p>	
<p>●Windows Essentials  p.28 「Windows Live メール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。</p>	
<p>●Skype インターネット経由で通話やチャットができるソフトウェアです。</p>	

必要に応じてインストールするソフトウェア



次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

必要に応じてインストールするソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ●Intel Smart Connect Technology  p.79 スリープ状態でも、メールの更新などができる機能を使用するためのユーティリティです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ●インテル WiDi ソフトウェア  p.67 (無線機能内蔵時) インテル WiDi (ワイヤレス・ディスプレイ) を使用するためのユーティリティです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●ウイルスバスター クラウド 90 日版*  p.98 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●i-フィルター 6 30 日版*  p.101 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを制限する Web フィルタリングソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●Endeavor 電源プラン設定ツール*  p.108 本機に節電設定を行うためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●ネットワーク切替えツール*  p.77 ネットワークの設定を切り替えるためのユーティリティです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●セキュリティチップユーティリティ  p.181 セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ●ATOK 無償試用版 (30 日間)* 日本語変換に優れた、日本語入力システムです。 	

* 購入時は、「初期設定ツール」からインストールすることができます。

CD から起動するソフトウェア

次のソフトウェアは、CD から起動して実行します。インストールは必要ありません。

CD から起動するソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ●システム診断ツール  p.176 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD/SSD 内のデータを消去することもできます。 	 リカバリーツール CD

1

コンピューターの基本操作

キーボードやタッチパッドの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について記載しています。

Windows 操作のヒント.....	26
AC アダプター / バッテリーパックを使う	30
タッチパッドを使う.....	38
キーボードを使う.....	43
HDD/SSD の概要.....	48
メモリーカードを使う	50
USB 機器を使う	53
画面表示機能	56
外付けディスプレイを使う	59
サウンド機能	70
ネットワーク機能 (有線 LAN).....	74
無線 LAN 機能 (オプション).....	84
Bluetooth 機能を使う (オプション)	91
インターネットを使用する際のセキュリティー対策.....	97
省電力機能	102
カメラを使う	110
そのほかの機能.....	111

Windows 操作のヒント

Windows 操作についてのヒントを記載します。

Windows 7の使用方法

Windows 7 の使用法は、次をご覧ください。

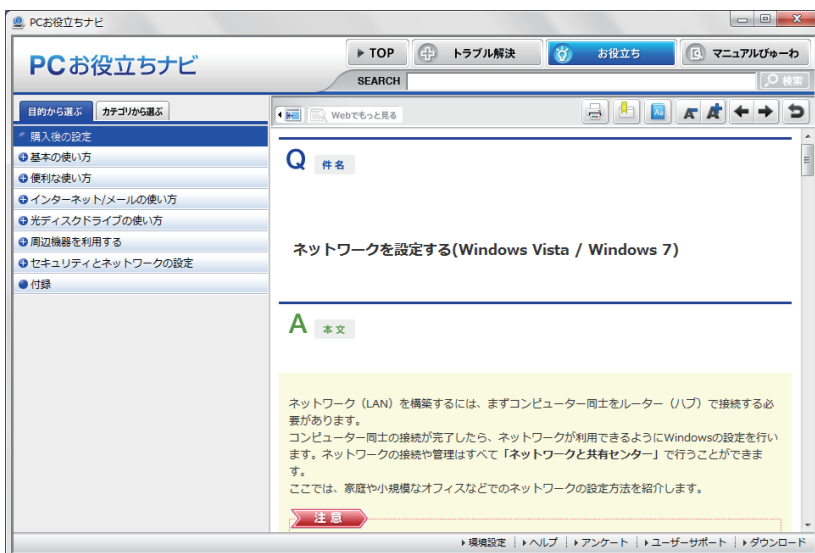
●ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] - 「ヘルプとサポート」

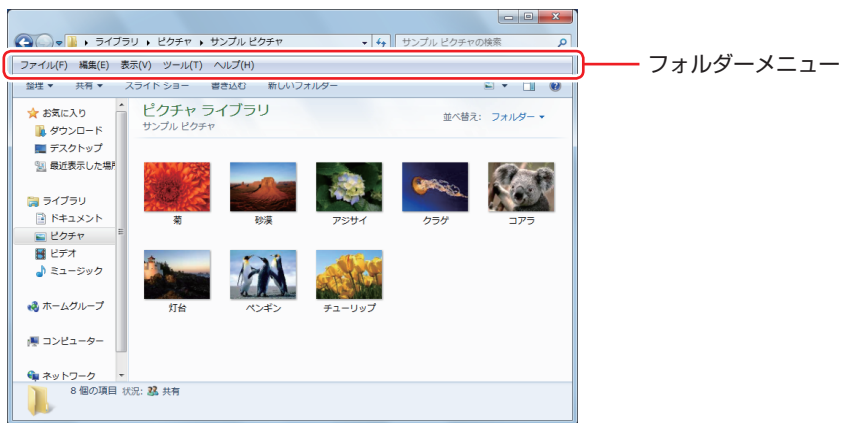


●「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」



フォルダーメニューの表示

「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューは、標準では表示されません。フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]** を押します。もう一度 **[Alt]** を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の場所で設定します。

[スタート] - **[コントロールパネル]** - **[デスクトップのカスタマイズ]** - **[フォルダーオプション]** - **[表示]** タブ - **[常にメニューを表示する]**

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

[スタート] - **[コントロールパネル]** - **[ユーザーアカウントと家族のための安全設定]** - **[ユーザーアカウント]** - **[別のアカウントの管理]** - **[新しいアカウントの作成]**

※ユーザー名は半角英数字を入力してください。

作成時、ユーザーに応じてユーザーアカウントの種類（権限）を設定してください。ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

●管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

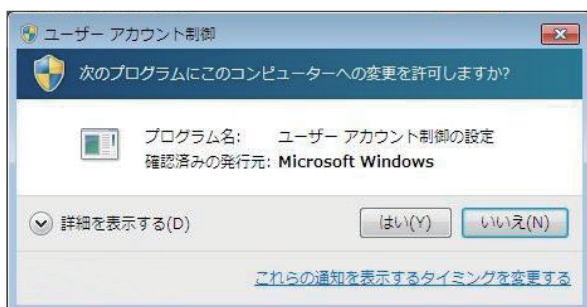
購入時やリカバリー時の Windows のセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

●標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

Windows Essentials

本機には Windows Essentials の以下のソフトウェアがインストールされています。

- フォトギャラリー
- ムービーメーカー
- Windows Live メール
- Windows Live Writer
- OneDrive

起動方法

Windows Essentials の各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- Windows Essentials のヘルプと使い方
<http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows-live/essentials-help-center>

Windows Live ID を作成する

Windows Essentials を使用するには、Windows Live ID (Microsoft アカウント) が必要になります。

サポートについて

Windows Essentials のサポートは、マイクロソフト社で行っています。
サポートの詳細は、次の Web ページをご覧ください。

<http://support.live.com>

AC アダプター / バッテリーパックを使う

本機は、AC アダプターまたはバッテリーパックを取り付けて使用します。
バッテリーパック（以降、バッテリー）は、着脱可能な充電式のリチウムイオン（Li-ion）電池です。

AC アダプターとバッテリーの型番

本機の AC アダプターとバッテリーの型番は、次のとおりです。

- AC アダプター：ADP-40PH
- バッテリー：BT4103-B

ご購入の際は、当社ホームページの「オプション」から本機の AC アダプターまたはバッテリーを選択してください。

<http://shop.epson.jp/>

バッテリーの交換方法は、 p.35 「バッテリーの交換」をご覧ください。

使用時の注意



- 本機には、必ず同梱された電源コード / AC アダプター / バッテリーを使用してください。また、本機の電源コード / AC アダプター / バッテリーは、他の製品に使用しないでください。感電・火傷・火災の原因となります。
- バッテリーを、マニュアルで指示されている以外の方法で充電しないでください。発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
- 本体や付属のバッテリーなどを火中に入れたり、火気に近づけたり、加熱したり、高温状態で放置したりしないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- バッテリーの金属端子をショートさせたり、水・コーヒー・ジュースなどの液体でぬらさないでください。発火・感電・火傷の原因となります。
- 付属の AC アダプターやバッテリーを、分解・改造しないでください。感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。分解・改造した AC アダプターやバッテリー（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
- 小さなお子様の手の届く所にバッテリーを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリーには、落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるなどの衝撃を与えないでください。破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
- バッテリー駆動時間が極端に短くなった場合は、当社指定の新しいバッテリーと交換してください。駆動時間が短くなったバッテリーは、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリーをそのまま使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因となります。





- AC アダプターを毛布や布団で覆わないでください。
火傷・火災のおそれがあります。
- AC アダプターやバッテリーに強い衝撃や振動を与えたり、乱暴に扱ったりしないでください。また、破損した AC アダプターやバッテリーを使用しないでください。
感電・火傷の原因となったり、発熱・発火・破裂のおそれがあります。
万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、AC アダプターやバッテリーが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリーを取り外してください。
- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱を持つため、低温火傷の原因となります。
- AC アダプターの温度の高い部分に、長時間触れないでください。
低温火傷の原因となります。

AC アダプターやバッテリーは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。


● AC アダプターを使用するとき

- AC アダプターを長時間接続して使用すると、AC アダプター本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。
- AC アダプターは頻繁に抜き差ししないでください。

● バッテリーを取り付けて使用するとき

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力状態でも電力が消費されています。
 p.102 「省電力機能」
- バッテリーだけで使用しているときに、動画再生時にコマ落ちしたり、ソフトウェアの動作が遅くなったりする可能性があります。このような場合には、省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.104 「時間経過で移行させない」

● バッテリーを長期間使用しないとき

- 長期間使用していない場合は、バッテリーが完全放電している可能性があります。バッテリーだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリーを長期間充電しないと、過放電になる可能性があります。予防のために定期的に充電をしてください。
 p.37 「バッテリー保管上の注意」



低温環境でのバッテリー性能

低温の環境では、バッテリーの性能が低下します。これは一時的なものであり、常温の環境に戻すと性能が回復します。

バッテリーの使用可能時間

バッテリーだけで本機を使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

バッテリーの使用可能時間* (満充電の場合)	
連続	約 5.6 時間

* JEITA (電子情報技術産業協会) の測定方法 Ver.2.0 に基づいています。

本機をバッテリーだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力の設定を行うと使用可能時間を延ばすことができます。

 p.102 「省電力機能」

バッテリーの充電

バッテリーの充電は、AC アダプター接続時に、本機の電源が入 / 切どちらの状態でも自動的に行われます。

バッテリー残量が 94%以下で充電を開始し、100%で充電完了します。



参考

バッテリー劣化対策とピークシフト

本機には、バッテリー劣化を抑える充電レベルの設定や、電力使用のピーク時間帯は AC アダプター接続時もバッテリーを使用する設定などができる「電源管理ユーティリティ」がインストールされています。

 p.105 「電源管理ユーティリティ」

バッテリー充電ランプの表示

AC アダプター接続時のバッテリー充電ランプ () の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
充電中	点灯 (オレンジ色)
満充電	消灯

正常に充電されていない場合の対処


バッテリーが正常に充電されないときは、次の対処を行ってください。

● バッテリーを外して再度装着し、動作環境で充電する

動作環境 (10 ~ 35°C) 以外では、AC アダプターを接続して 10 時間以上経過すると、バッテリーが正常に充電できなくなります。

● カスタマーサービスセンターに連絡する

動作環境 (10 ~ 35°C) で使用し、バッテリーを装着しなおしても改善しない場合は、バッテリー異常が考えられます。

 別冊 『サポート・サービスのご案内』 をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

充電時間

低バッテリー状態からバッテリーの充電完了までの時間は、約 2.8 時間 * です。

*電源が入っている状態では、コンピューターの使用状況により差があります。



参考

●温度条件について

バッテリーは、化学反応を利用した電池です。このため、動作環境（10～35℃）以外では、充電速度が極端に遅くなる場合があります。その状態で 10 時間以上経っても充電が完了しないと、バッテリーへの充電が中止されます。

●充電レベルやピークシフトの設定

「電源管理ユーティリティー」では、バッテリー充電の開始・停止のレベルや、ACアダプター接続時もバッテリーを使用する設定などを行うことができます。

 p.105 「電源管理ユーティリティー」

バッテリー残量の確認

通知領域の「バッテリー」アイコンの上にポインターを合わせると、バッテリー残量を確認することができます。

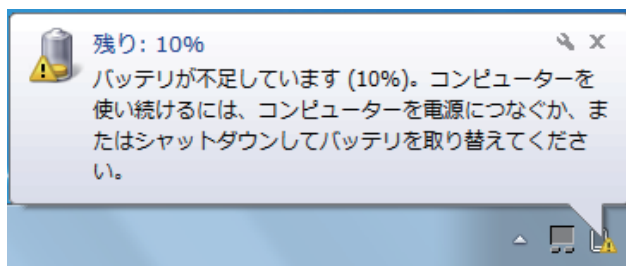


バッテリー残量が少なくなったら

バッテリーの残量が低下した際の通知や対処方法などについて説明します。

バッテリー低下の通知

バッテリー残量が少なくなり、「バッテリー低下」の状態になると、本機は次のように通知（警告）します。



バッテリー残量がさらに低下すると、バッテリー充電ランプ点滅後、本機は休止状態になります。

対処方法

バッテリー残量低下が通知されたら、すぐに次のどちらかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

● AC アダプターを接続する

電源を入れたまま AC アダプターを接続します。

● 電源を切る

作業中のデータを保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。バッテリーを交換する場合も、必ず電源を切ってから行ってください。



AC アダプターを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピューターがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。



AC アダプターを接続しても充電されないときは

「電源管理ユーティリティ」で充電設定やピークシフトを実行している場合、バッテリー残量や時間帯によって、バッテリー充電が行われません。設定内容の確認をおすすめします。

 p.105 「電源管理ユーティリティ」

バッテリーの容量がすぐに低下するときは

バッテリーは、消耗品です。満充電にしても、バッテリー容量がすぐに低下する場合は、バッテリーの寿命が考えられます。また、バッテリーの駆動時間が極端に短くなった場合は、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリーをそのまま使用し続けると、発熱、発火、破裂の原因となります。本機専用の新しいバッテリーに交換してください。



USB 充電機能について

本機右側面、AC アダプターコネクタ側の USB3.0 コネクタは、休止状態や電源 OFF 時でも、接続した携帯電話などの USB 機器に電力を供給する USB 充電機能に対応しています。

USB 充電機能を有効に設定した場合、電源 OFF の状態でも、対応するコネクタに USB 機器を接続していると機器に電力が供給されるため、バッテリー残量は低下します。

 p.55 「USB 充電機能を使う」

バッテリーの交換



複数のバッテリーを交互に使用する場合や、バッテリーが寿命に達した場合は、バッテリーを交換します。

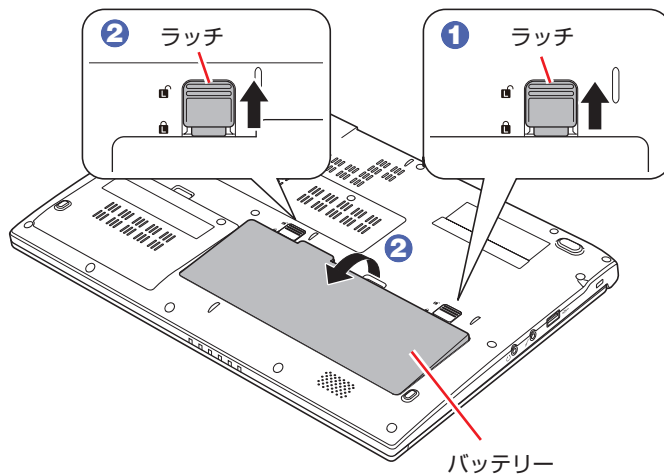
交換用のバッテリーについては、当社のホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/>



バッテリーの交換方法

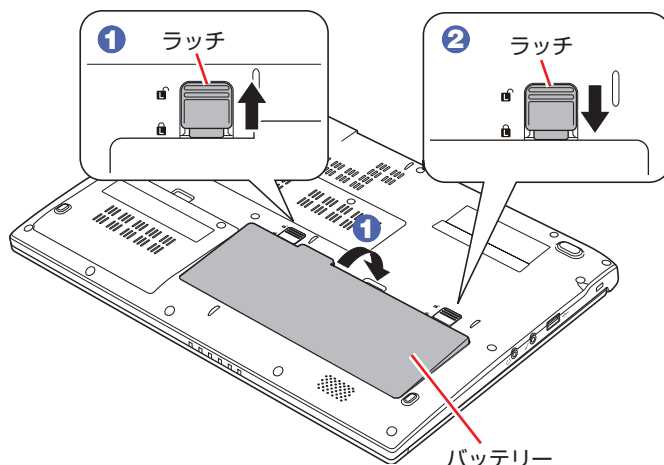
バッテリーの交換方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。AC アダプターが接続されている場合は外します。
- 2** 底面を上にして置きます。
- 3** バッテリーを取り外します。
 - 1** 右側のラッチを  に移動し、ロックを解除します
 - 2** 左側のラッチを  に移動した状態のまま、バッテリーを矢印の方向に引き上げて取り外します。



4 当社指定の新しいバッテリーを取り付けます。

- 1 バッテリーを本機に合わせ、左側のラッチを  に移動した状態のまま、しっかり押し込みます。
- 2 左側のラッチから手を離し、右側のラッチを  に移動します。



バッテリーを長くお使いいただくために

バッテリーは消耗品です。バッテリーの劣化は、使い方や使用環境によって大きく変わります。バッテリーの劣化を抑え、使用可能時間を延ばすため、次の事項に注意してください。


- 高温の環境では、バッテリーの劣化が早まります。本機やバッテリーを、炎天下の自動車の中や暖房機の近くなどで使用したり、放置したりしないでください。
- 低温の環境下では、バッテリーの性能が悪化します。これは一時的なものであり、常温の環境下に戻すと性能が回復します。
- コンピューターを使用する、使用しないにかかわらず、常時 AC アダプターを接続した状態は、バッテリーの劣化を早めます。1 ヶ月に 1 回程度、AC アダプターを外してコンピューターを起動してください。そのまま、バッテリー低下のアラームが通知されるまで使用してバッテリーを放電させた後、AC アダプターを接続してご使用ください。
- リチウムイオンバッテリーパックの場合、約 300 ～ 500 回の放電で、使用可能時間が初期値の約 50 ～ 70% になります。毎日充放電を繰り返すと、1 年程度で寿命となる場合があります。
- 使用可能時間はご使用環境によって変化し、1 年程度で初期値の 50% 以下となる場合もあります。
- 上記数値は充放電回数を保証するものではありません。

※ バッテリーの劣化が早まり、バッテリー駆動での使用時間が短くなった場合は、新品のバッテリーパックをご購入ください。



バッテリー劣化を抑える設定

本機には、バッテリー劣化を抑えるために充電レベルを設定できる「電源管理ユーティリティ」がインストールされています。

 p.105 「電源管理ユーティリティ」

リチウムイオンポリマーバッテリー使用上の注意

本機のバッテリーは、リチウムイオンポリマーバッテリーセルを使用しています。このバッテリーセルは、劣化に伴い、バッテリーセル内部で発生するガスにより、膨張することがあります。これはリチウムイオンポリマーバッテリーセルの特性です。バッテリーセルは密閉されており、外部にガスが漏れることはありません。

製品安全上の問題はありませんが、本機内部のバッテリーが膨らんで、本機が変形している場合は、バッテリーの性能が著しく低下しています。使用を中止し、新品のバッテリーパックをご購入ください。

バッテリー保管上の注意



小さなお子様の手の届く場所にバッテリーを保管しないでください。
なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリーを保管するときは、次の事項を守ってください。

- ・2週間以上の長期に渡ってコンピューターを使用しないときは、コンピューター本体からバッテリーパックを外して保管してください。
- ・ダンボールなどの、電気を通さない箱に入れてください。また、端子をショートさせないために、金属製ネックレスやクリップなどの導電性のものを同梱しないでください。
- ・バッテリーパックは、振動や衝撃がかからないように、安定した場所に保管してください。
- ・満充電状態のままバッテリーパックを放置しておくと劣化を早めます。この劣化は、保存温度が高いほど早く進みます。バッテリーパックを長期間保管するときは、充電容量を50%前後にして、乾燥した冷暗所に保管することをおすすめします。
- ・バッテリーは、使用しなくても自己放電により、蓄えられた電気が徐々に無くなります。過放電となったバッテリーパックは、火災の危険を防止するため、コンピューター本体の充電保護回路が作動して充電することができなくなります。過放電を防止するために、3ヶ月に1回くらいの割合で、50%程度の充電をしてください。

※2週間以上の長期に渡ってバッテリーパックを保管するなどし、バッテリーが完全に放電すると、バッテリーパック内の保護回路が作動し、ある日突然充電できなくなることがあります。その際は、新品のバッテリーパックをご購入ください。

使用済みバッテリーの取り扱い



使用済みのリチウムイオン (Li-ion) バッテリーは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリーリサイクル時の注意

使用済みのバッテリーは、ショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れて、リサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

絶縁しないと、破裂、発熱の原因となります。

バッテリーは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが搭載されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインターなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

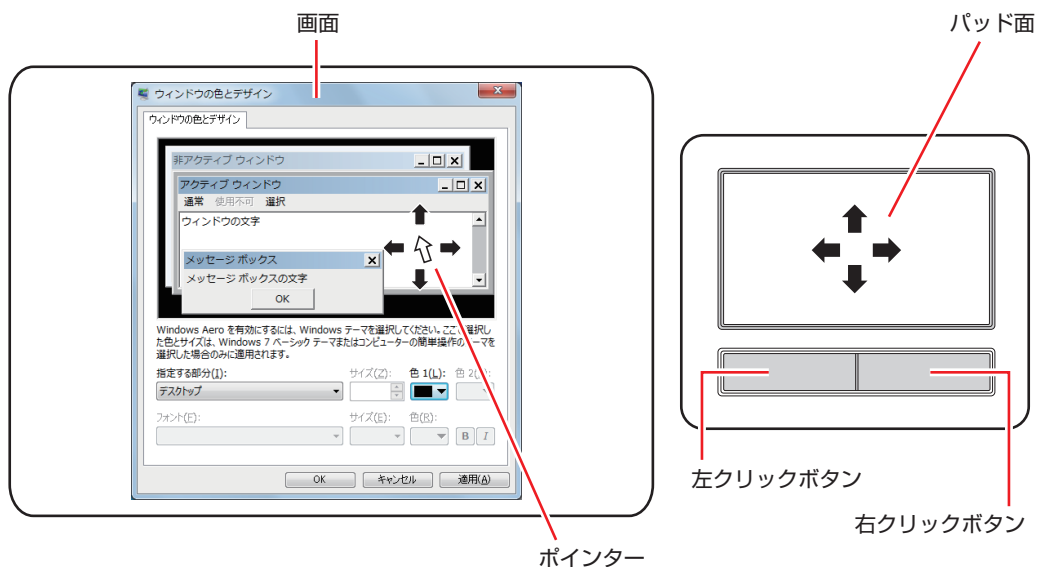
タッチパッド使用時の注意

タッチパッドは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

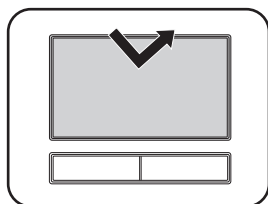
- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインターの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1本の指で操作してください（複数の指で使用可能な機能は除く）。一度に2本以上の指で操作すると、ポインターが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインターの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインターが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたまま LCD ユニットの閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。

タッチパッドの操作

タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインターが移動します。



● クリック



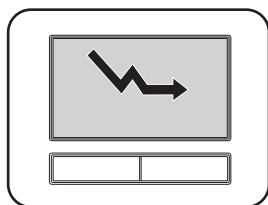
ポインターを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く 1 回たたきます。左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

● ダブルクリック



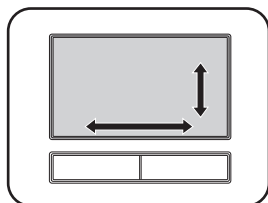
ポインターを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く 2 回たたきます。左クリックボタンを「カチカチッ」と 2 回押すのと同じ操作です。

● ドラッグアンドドロップ



ポインターを画面上の対象に合わせて、ダブルクリックの 2 回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。左クリックボタンを押したままの状態でもポインターを移動し、離すのと同じ操作です。

● スクロール




上下のスクロールは、パッドの右端を指で触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部を指で触れて左右に動かします。

画面のズーム / 回転

本機のタッチパッドでは、画面上の対象を拡大したり、回転したりすることができます。使い方の詳細や機能の停止方法などは、タッチパッドユーティリティの次の項目をご確認ください。

- つまみズーム
- 回転

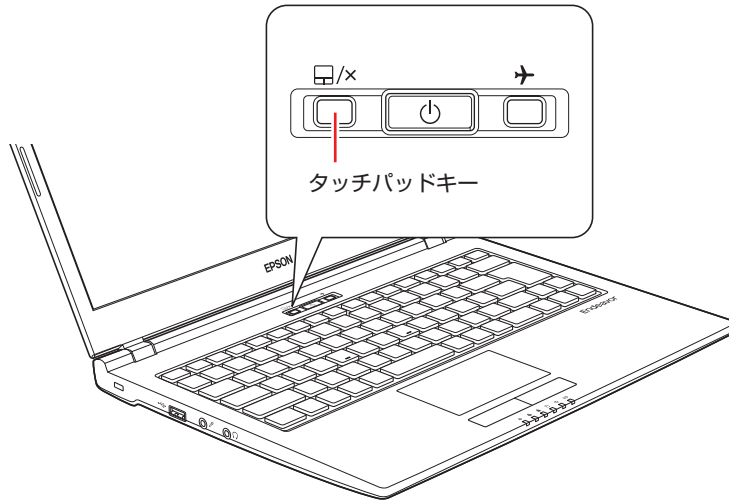
 p.40 「タッチパッドユーティリティを使う」

タッチパッドの機能をオフにする

本機では、タッチパッドの機能をオフにすることができます。

キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってポインターが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的にオフにすると便利です。

タッチパッド機能のオン/オフの切り替えは、タッチパッドキーで行います。

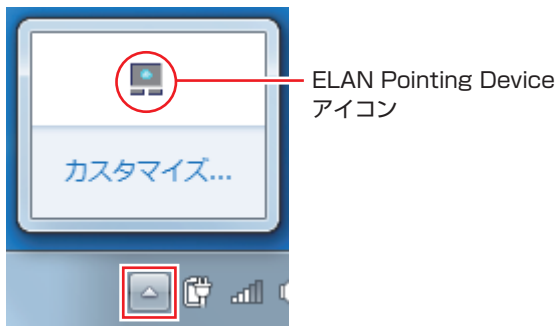


タッチパッドユーティリティを使う

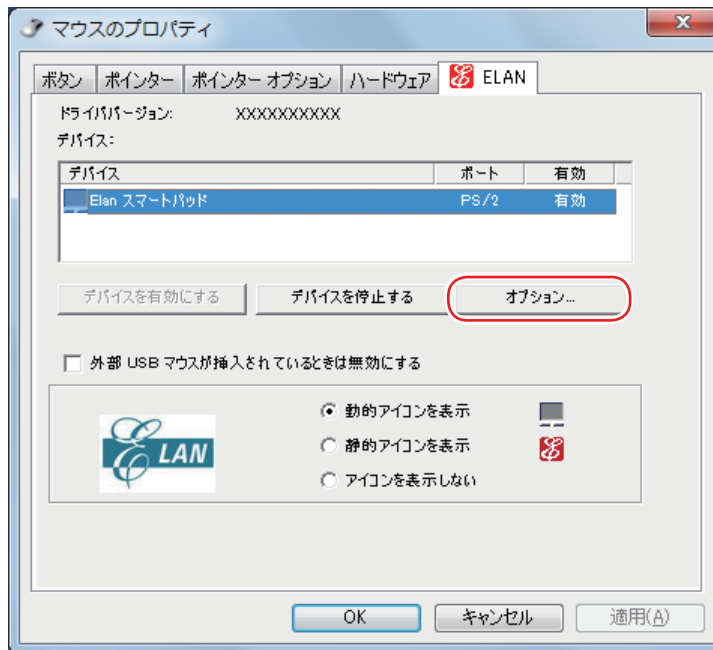
タッチパッドユーティリティでは、タッチパッドの各種設定を行うことができます。

タッチパッドユーティリティ画面の表示方法は次のとおりです。

- 1 通知領域の [△] - 「ELAN Pointing Device」アイコンを右クリックして、「Touch-Padのプロパティ」を選択します。



- 2** 「マウスのプロパティ」画面が表示されたら、「ELAN」タブ→「オプション」をクリックします。





- 3** 「Elan Smart-Pad」画面が表示されたら、各種設定を行います。

タブを選択して、各種設定を行います。

機能を停止したい場合は、設定項目のチェックを外すか、機能を無効にする項目を選択してください。



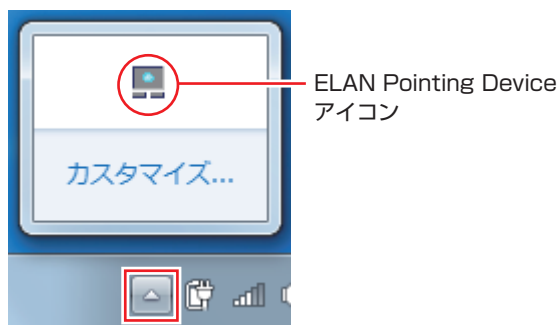
USBマウス(オプション)の接続

本機右側面または左側面の USB コネクタ（ / ）に、オプションの USB マウスを接続して使うことができます。

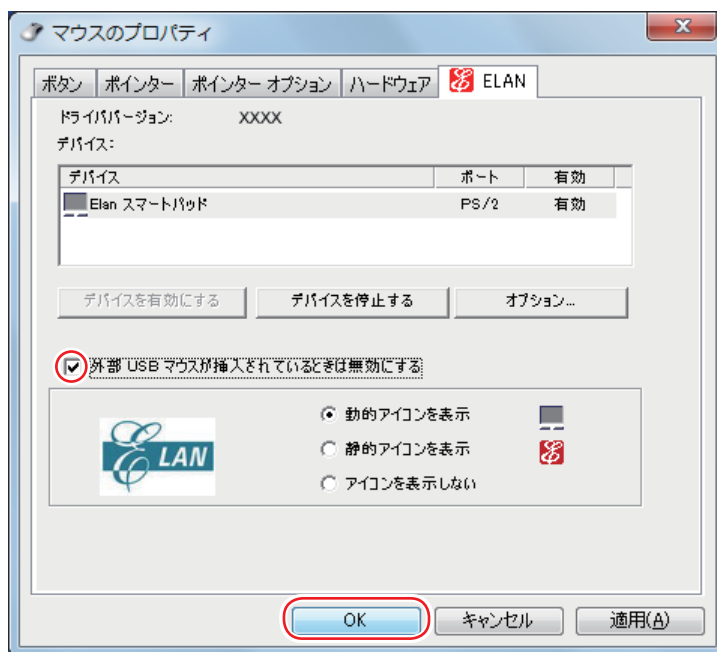
USB マウス接続時にタッチパッド機能をオフにする

USB マウス接続時に、自動的にタッチパッド機能がオフになるように設定することができます。設定方法は次のとおりです。

- 1 通知領域の [△] – 「ELAN Pointing Device」アイコンを右クリックして、「Touch-Pad のプロパティ」を選択します。



- 2 「マウスのプロパティ」画面が表示されたら、「ELAN」タブで「外部 USB マウスが挿入されているときは無効にする」にチェックを付けて、[OK] をクリックします。これで設定は完了です。



制限

「外部 USB マウスが挿入されているときは無効にする」にチェックを付けると、USB キーボードなどの USB デバイスを接続時にも、タッチパッド機能がオフになることがあります。

キーボードを使う

本機には、日本語対応 86 キーボードが搭載されています。


キーの種類と役割

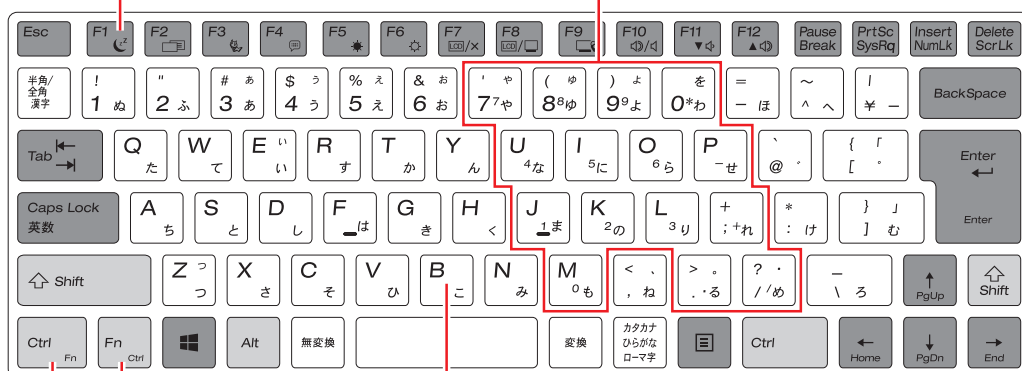
各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

●機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。
機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

●数値キー

文字キーの一部を数値キーとして使用し、
数字、演算子などを入力します。
 p.45 「数値入力の固定」



●Fnキー

 p.46

●文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して
漢字やひらがななどの日本語を入力します。

●制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。
単独では機能しません。




参考

Ctrl_{Fn}、Fn_{Ctrl}の初期状態

キーボード左下側の2つの制御キーは、購入時、それぞれキー上部に印字されている文字
(Ctrl)、(Fn)に設定されています。

この2つのキーは、機能を入れ替えることができます。


 p.47 「キーの機能の入れ替え」

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え


 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。




- **入力モード**
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。
- **ヘルプ**
MS-IME の詳しい説明を見ることができます。
- **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。

ボタンが押されていない状態	ローマ字入力
ボタンが押されている状態	かな入力

MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムのマニュアルをご覧ください。

キーロック機能



文字や数値キーの入力モードを固定する機能が搭載されています。
キーロックの状態は、ステータス表示ランプで確認することができます。

 p.20 「ボタン類 / ステータス表示ランプ」

アルファベット大文字入力の固定



アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。
固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。



 + 

大文字に固定すると、CapsLock ランプ () が点灯します。
大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、 を押しながら文字を入力します。

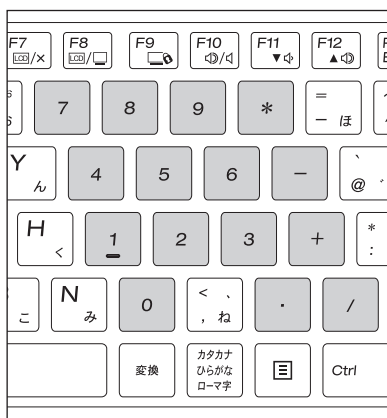
数値入力の固定

文字キーの一部を数値入力キーとして固定することができます。
数値入力固定の切り替えは、次のキー操作で行います。

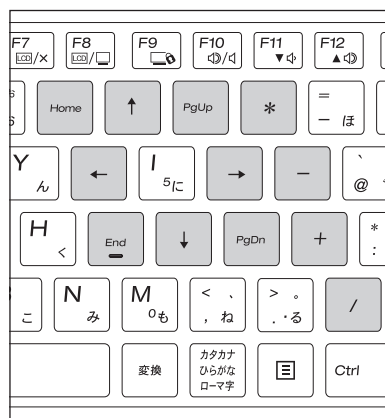
 + 



数値入力に固定すると、NumLock ランプ () が点灯します。
さらに  を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値入力に固定



 を押したとき



もう一度  +  を押すと、数値入力の固定が解除されます。

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは **[Fn]** と組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機能
[Fn] + [F1] 	省電力状態に移行します。購入時の設定では、スリープに移行します。  p.102 「省電力機能」
[Fn] + [F2] 	Windows のデスクトップ画面を表示します。
[Fn] + [F3] 	電源管理ユーティリティの画面を表示します。  p.105 「電源管理ユーティリティ」
[Fn] + [F4] 	PC お役立ちナビを起動します。  p.4 「知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ」
[Fn] + [F5] 	LCD 画面を暗くします。  p.57 「LCD ユニットの調整」
[Fn] + [F6] 	LCD 画面を明るくします。  p.57 「LCD ユニットの調整」
[Fn] + [F7] 	LCD 画面のバックライトを消灯します。 どれかキーを押すとバックライトが点灯します。  p.57 「バックライトの消灯」
[Fn] + [F8] 	外付けの表示装置に接続している場合に、画面表示を切り替えます。  p.63 「画面表示を切り替えるには」
[Fn] + [F9] 	Windows をロックします。
[Fn] + [F10] 	スピーカーのミュート（消音）の入 / 切を切り替えます。  p.70 「音量の調節」
[Fn] + [F11] 	スピーカーの音量を小さくします。  p.70 「音量の調節」
[Fn] + [F12] 	スピーカーの音量を大きくします。  p.70 「音量の調節」
[Fn] + [Insert] NumLk	数値入力に固定します。  p.45 「数値入力の固定」
[Fn] + [Delete] ScrLk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

キーの機能の入れ替え

キーボード左下にある **Ctrl** とその隣の **Fn** の機能を入れ替えることができます。



キーの機能を入れ替える場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」 - 「Advanced」メニュー画面で次の項目を変更してください。

「Exchange L-Ctrl & L-Fn Key」（左下の **Ctrl** と **Fn** の入れ替え）

キーの機能の入れ替え	UEFI の設定値
機能を入れ替える場合	Enabled（有効）
機能を入れ替えない場合	Disabled（無効）

購入時は、「Disabled」に設定されています。

 p.126 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.139 「Advanced メニュー画面」

HDD/SSD の概要

本機には、記憶装置として HDD または M.2 SSD が搭載されています。



参考

M.2 SSD について

M.2 SSD が装着されている場合は、M.2 SSD に Windows がインストールされています。



制限

- HDD/SSD アクセスランプ点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点滅中は、コンピューターが HDD/SSD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD/SSD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD/SSD が故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは、電源を切った状態で専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDD/SSD が故障した場合、HDD/SSD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD/SSD に記録されている重要なデータは、光ディスクメディアや外付けの記憶装置などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD/SSD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。バックアップ方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 – 「お役立ち」 – 「カテゴリから選ぶ」 – 「Windows の操作」 – 「バックアップ」

購入時のHDD/SSD領域

購入時、Windows がインストールされている HDD/SSD の領域は、次のように設定されています。

通常

領域	容量
消去禁止領域	約 8GB
C ドライブ	残り

パーティション分割サービスを選択された場合

領域	容量
消去禁止領域	約 8GB
C ドライブ	購入時に選択された容量
D ドライブ	残り



参考

パーティション分割サービス

パーティション分割サービスとは、Windows がインストールされている HDD の領域を、C ドライブ、D ドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データや、「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。

この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバーやソフトウェアのインストールができなくなります。

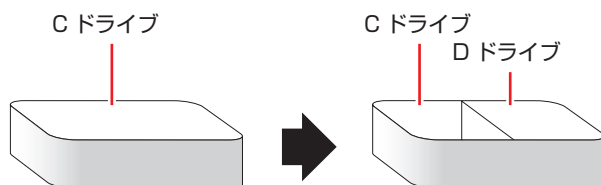
「消去禁止領域」内の本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、USB 記憶装置にコピー (バックアップ) することもできます。

 p.183 「消去禁止領域のデータをバックアップする」

HDD/SSDを分割して使用する

1 台の HDD/SSD は、いくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

例：1 つの HDD/SSD 領域 (C ドライブ) を 2 つの HDD/SSD 領域 (C ドライブと D ドライブ) に分割することができます。

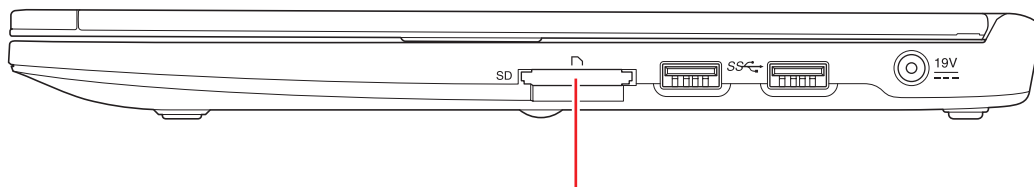


詳しくは、 p.185 「HDD/SSD 領域の変更」をご覧ください。

メモリーカードを使う

本機右側面にはメモリーカードスロットが装備されています。

メモリーカードは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピューターとのデータ交換に使われます。



メモリーカードスロット

本機で使用できるメモリーカード

本機では SD メモリーカードとマルチメディアカードが使用できます。

※ イラストはイメージです。

※ 記載は対応規格であり、すべてのカードでの動作を保証するものではありません。



< SD メモリーカード >

※ SDHC / SDXC 対応



< マルチメディアカード >




制限

- 著作権保護機能には対応していません。
- I/O カードは使用できません。

メモリーカード使用時の注意

メモリーカードは、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- メモリーカードアクセス中に、本機の電源を切ったり、メモリーカードを抜いたりしないでください。カードのデータが破損するおそれがあります。
- メモリーカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリーカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.104 「時間経過で移行させない」
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードのフォーマットは必ず、メモリーカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリーカードが認識されなくなる場合があります。

フォーマットの方法は、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

メモリーカードのセットと取り出し

メモリーカードのセットと取り出し方法について説明します。

メモリーカードのセット

メモリーカードのセット方法は、次のとおりです。



制限

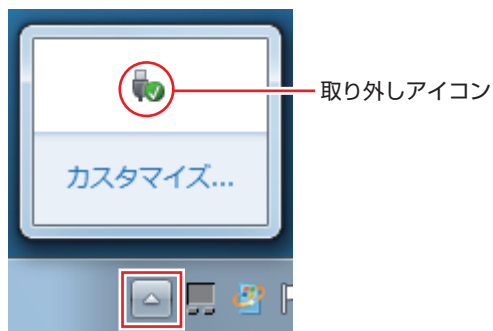
本機にメモリーカードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモリーカードは Windows 起動後にセットしてください。

- 1** メモリーカードのラベル面を上（端子面を下）にしてメモリーカードスロットに挿入します。

奥までしっかりと押し込みます。

- 2** 認識されると、メモリーカードが使用できます。

正しくセットされると、通知領域の [△] 内に「取り出し」アイコンが表示されます。



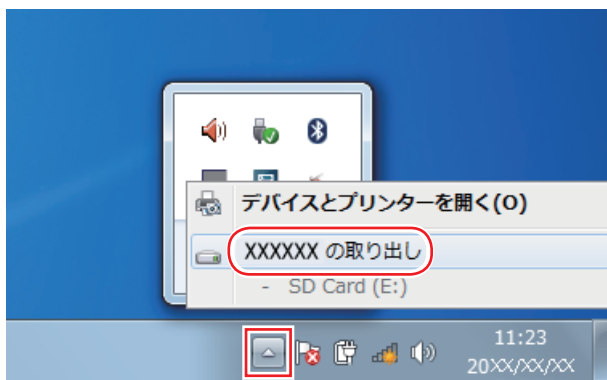
メモリーカードの取り外し

メモリーカードの取り外し方法は、次のとおりです。

1 メモリーカードの終了処理を行います。

本機の電源を切った場合、終了処理は不要です。2に進みます。

- 1 開いているファイルを閉じます。
ファイルを閉じないと、終了処理ができません。
- 2 通知領域の [△] - 「取り外し」アイコンをクリックします。
- 3 表示されたメニューから、「(カード名称など) の取り出し」を選択します。
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、終了処理は完了です。

2 メモリーカードを取り外します。

- 1 メモリーカードを「カチッ」と音がするまで押します。
強く押すと、メモリーカードが飛び出すことがあるので注意してください。
- 2 少し出てきたメモリーカードをまっすぐに引き抜きます。

取り出したメモリーカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

USB 機器を使う

本機には次の USB コネクタが搭載されています。

- USB2.0 コネクタ × 1 (左側面)
- USB3.0 コネクタ × 2 (右側面)

※ 転送速度は、本機のコネクタと接続する USB 機器の組み合わせによります。



接続した USB 機器によっては、本機の電源を切った状態でも、ランプが光り続けます。これは、お使いの USB 機器の仕様です。

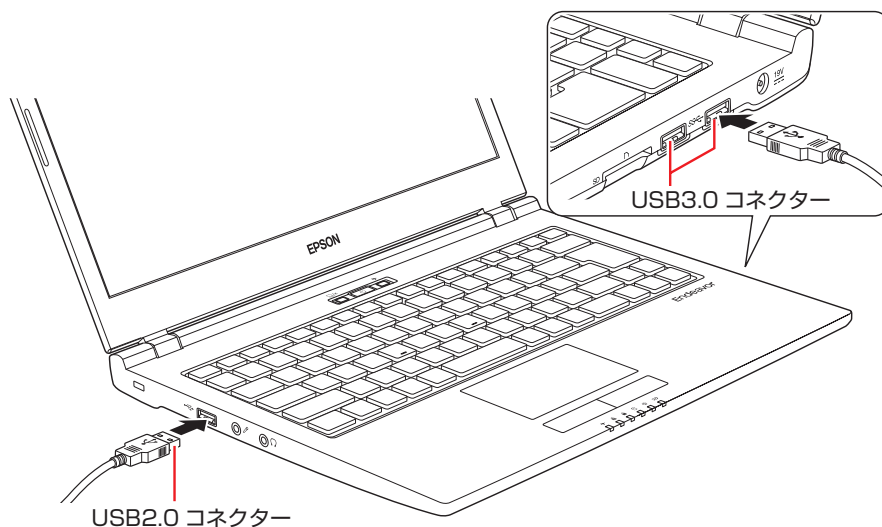
USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

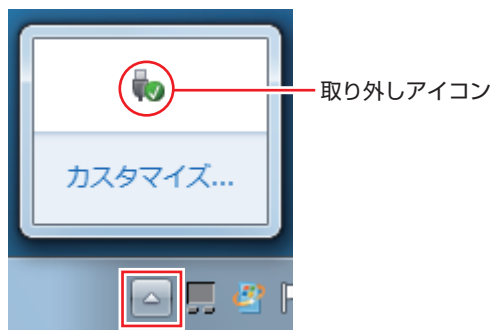
接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1** USB 機器を、本機の USB コネクタ ( / ) に接続します。



- 2** USB 機器によっては、通知領域の [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されます。



接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

取り外し

USB 機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

●そのまま取り外す

通知領域の [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

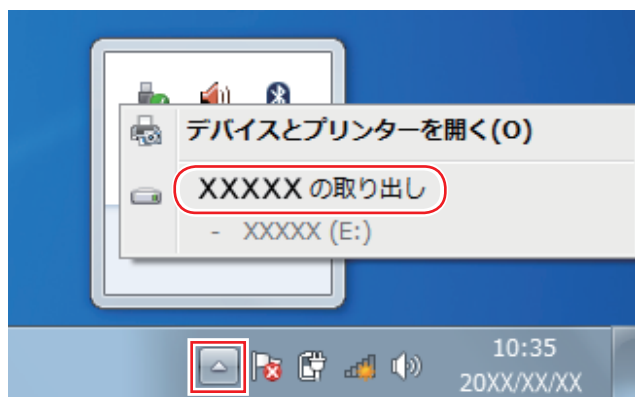
●USB 機器の終了処理をして取り外す

通知領域の [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB 機器の終了処理と取り外しの手順は、次のとおりです。

- 1** 通知領域の [△] - 「取り外し」アイコン - 「(取り外したい USB 機器) の取り出し」をクリックします。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、終了処理は完了です。

- 2** 機器を本機から取り外します。

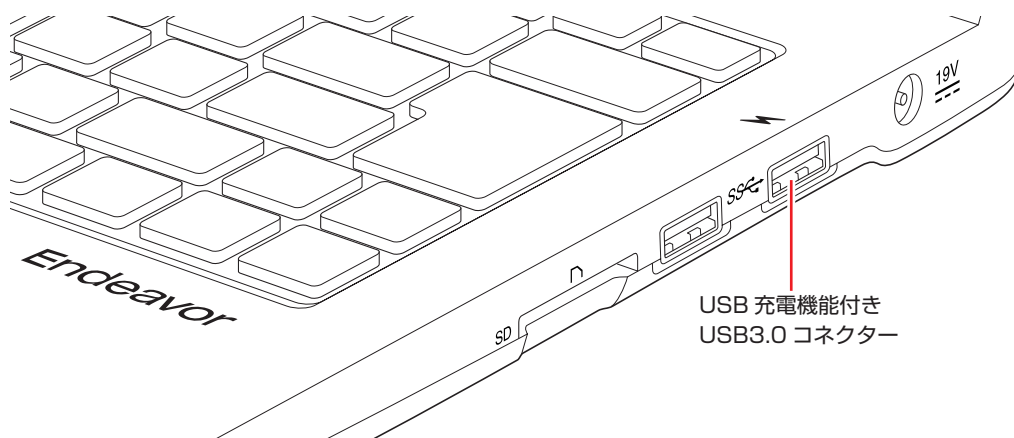
USB充電機能を使う

本機の3つのUSBコネクタは、電源が入った状態（休止状態は除く）でUSB機器に電力を供給します。

本機右側面、ACアダプターコネクタ側のUSB3.0コネクタは、電源OFF時や休止状態でも、USB機器に電力を供給することができるUSB充電機能に対応しています。

USB充電機能を使うには、UEFIの設定が必要です。

 p.55 「USB充電機能を有効にする」



USB充電機能を使うと、本機の電源を入れずに、USB対応の携帯電話や携帯型デジタル音楽プレイヤーなどの使用や充電が可能になります。

USB充電機能は、バッテリーのみでの使用時も利用できます。その際、バッテリー残量がおおよそ10%（初期値）に低下すると、USB機器への電力供給を自動で停止します。



制限

- USB機器によっては、USB充電機能を使用できないことがあります。
- USB充電機能に対応したUSB3.0コネクタでUSBマウスをご使用の場合、マウスのクリックでスリープからの復帰はできません。

USB充電機能を有効にする

購入時、USB充電機能は無効になっています。USB充電機能を使用する場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Advanced」メニュー画面－「USB Charger」：[Enabled]（有効）

 p.126 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.139 「Advancedメニュー画面」

電力供給停止のバッテリー残量設定

USB充電機能を有効にすると、電力供給を自動で停止するバッテリー残量の値を設定する項目が表示されます。

「Advanced」メニュー画面－「Stop Charging Battery Capacity」

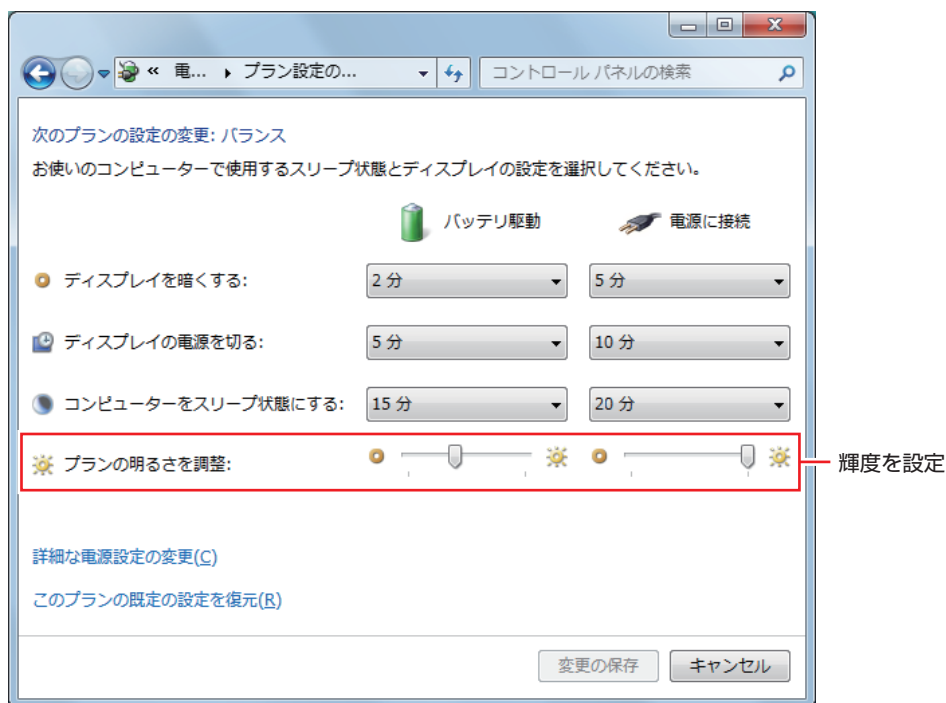
10（初期値）～100の範囲で数値を入力し  を押し、値を変更することができます。

LCDユニットの調整

画面の明るさ調整

本機の画面の明るさ（輝度）は、次の場所で設定することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」
－各プランの「プラン設定の変更」



<イメージ>

キー操作で調整する

次のキー操作で、輝度を調整することができます。ただし、Windows を再起動すると元に戻ります。

キー操作	状態
Fn + F5	暗くなります
Fn + F6	明るくなります

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯方法は、次のとおりです。

キー操作 / LCD ユニットの操作	状態
Fn + F7 / X	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。 どれかキーを押すとバックライトが点灯します。

LCD ユニットを閉じたときの動作

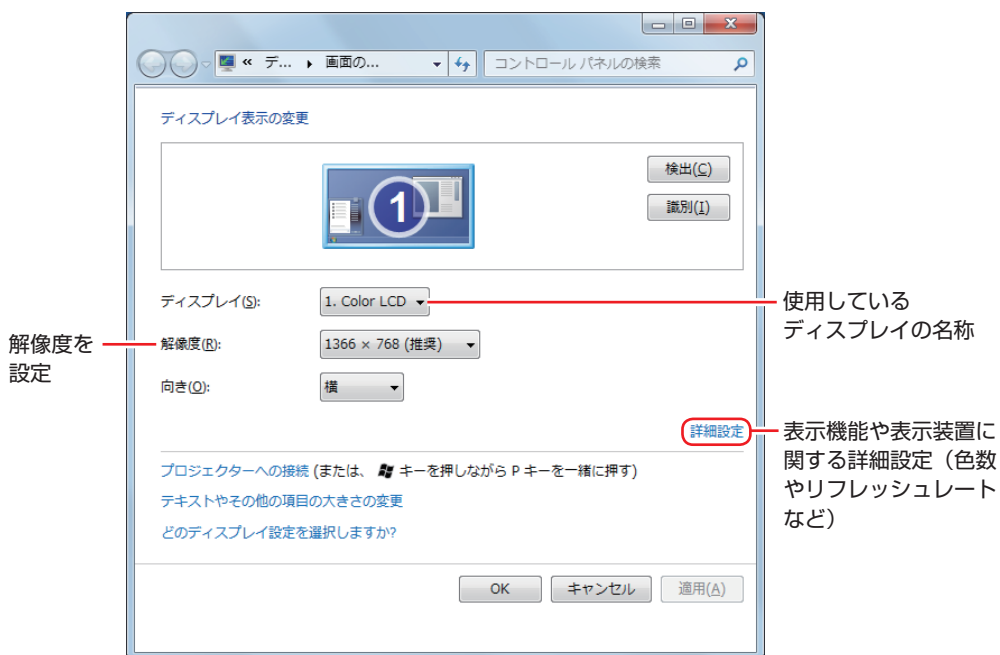
LCD ユニットを閉じると、本機は「スリープ」になります。

 p.103 「省電力状態の種類」

表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

デスクトップ上の何も無いところで右クリック → 「画面の解像度」




<イメージ>

外付けディスプレイを使う

本機では、外付けディスプレイを接続して、画面を表示することができます。

ディスプレイの接続

本機には、VGA コネクタと HDMI コネクタが搭載されており、外付けディスプレイを 2 台接続することができます。

無線 LAN 機能搭載時、ワイヤレス（無線）での接続もできます。接続方法は  p.67「インテル WiDi（オプション）」をご覧ください。

接続方法の種類

外付けディスプレイの接続方法には、次の 3 つがあります。

接続方法		コンピューター側のコネクタ
アナログ接続		VGA コネクタ
デジタル接続	HDMI 接続	HDMI コネクタ
	DVI-D 接続	HDMI コネクタ + HDMI-DVI 変換アダプター (オプション)

外付けディスプレイの接続

外付けディスプレイの接続方法は、次のとおりです。

- 1** 本機と外付けディスプレイの電源を切ります。

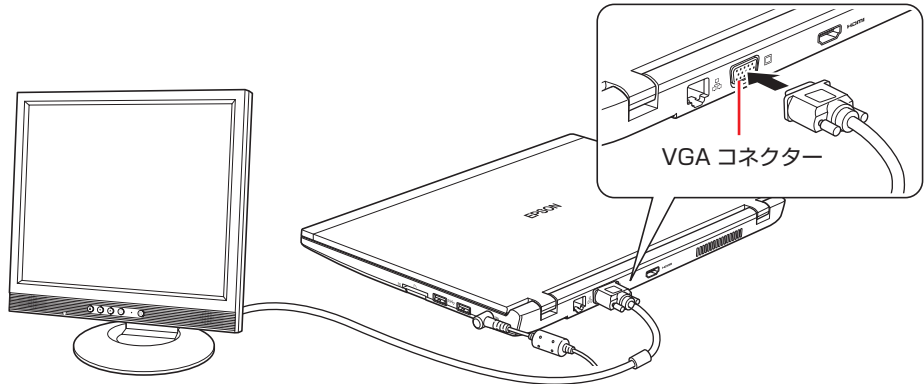


2

接続するディスプレイの接続方法を確認し、ディスプレイの接続ケーブルを本機に接続します。

アナログ接続の場合

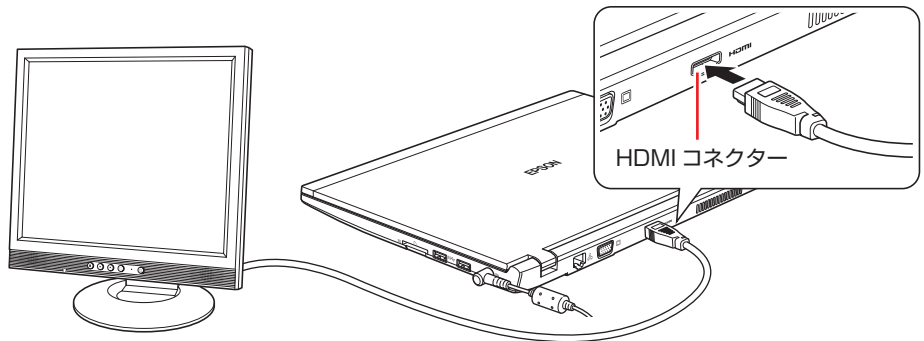
外付けディスプレイの VGA ケーブルを、本機背面の VGA コネクター（）に接続します。



HDMI 接続の場合

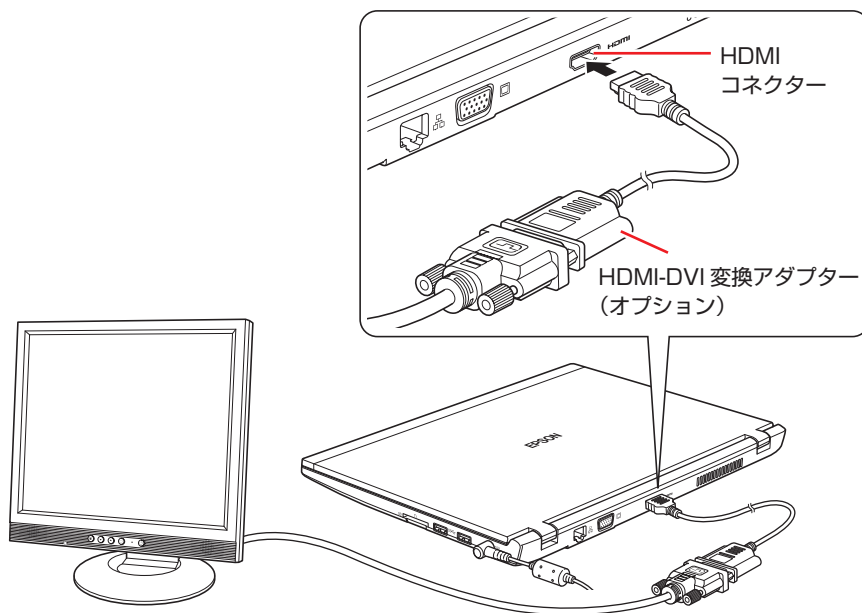
外付けディスプレイの HDMI ケーブルを、本機背面の HDMI コネクター（**HDMI**）に接続します。

HDMI 接続では、デジタル画像と音声を出力します。音声出力が可能な HDMI 機器を接続した場合、接続した HDMI 機器から音声出力されます。



DVI-D 接続の場合（オプション）

- 1 外付けディスプレイの DVI-D ケーブルのコネクター（コンピューターに接続する側）に、オプションの HDMI-DVI 変換アダプターを接続します。
- 2 本機背面の HDMI コネクター（**HDMI**）に接続します。



- 3 外付けディスプレイと本機の電源を入れます。
Fn + F8 (LCD/□) を押すと、表示装置の切り替えができます。



参考

外付けディスプレイへの表示を終了する

外付けディスプレイへの表示が終了したら、Windows を終了後に必ず接続ケーブルを取り外してください。外付けディスプレイの電源が入ってなくても、ケーブルを接続しているだけで自動認識され、信号が出力されます。

プロジェクターの接続

プロジェクターの接続方法は、プロジェクターのマニュアルをご覧ください。

画面表示の種類

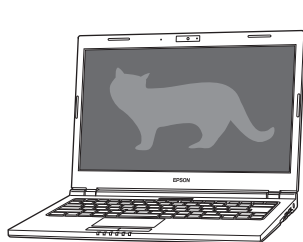
本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

● シングル

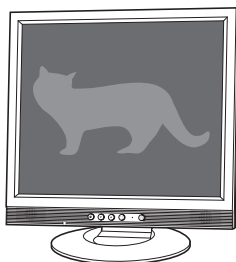
1つのディスプレイに表示します。

● クローン

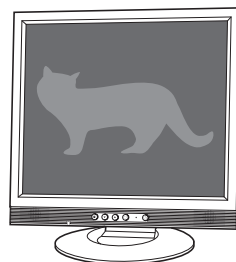
最大3つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。



<本機>



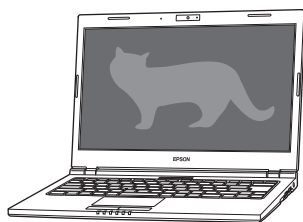
<外付けディスプレイ>



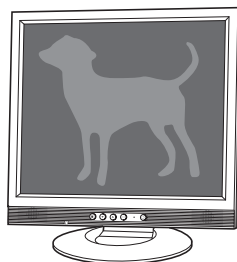
<外付けディスプレイ>

● 拡張

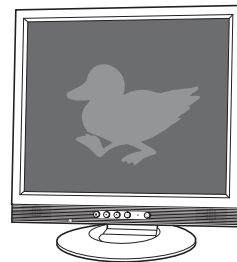
最大3つのディスプレイに対して、個別に設定をすることができます。複数の画面をコンピューター上に表示する場合に便利です。



<本機>



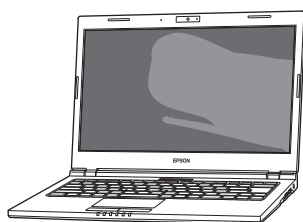
<外付けディスプレイ>



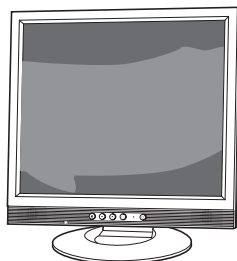
<外付けディスプレイ>

● コラージュ

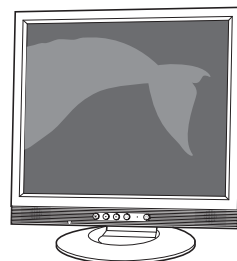
最大3つのディスプレイを、横または縦につなぎ合わせるようにして表示します。大きなものを複数の画面にまたいで表示する場合に便利です。



<本機>





<外付けディスプレイ>



<外付けディスプレイ>

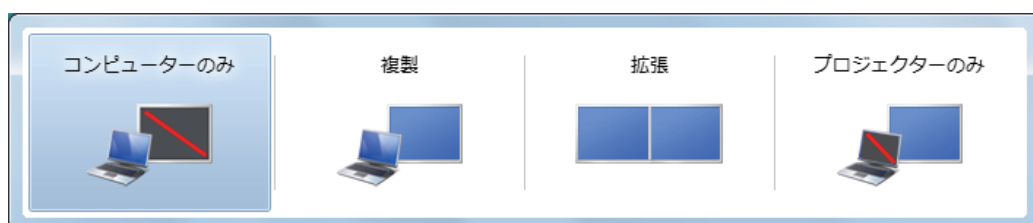
画面表示を切り替えるには

画面表示の切り替え方法には、次の2つがあります。

- キーボードで切り替える  p.63
簡単なキー操作で、画面表示の切り替えができます。
- ユーティリティで切り替える  p.64
画面表示の切り替えと詳細な設定ができます。

キーボードで切り替える


[Fn] + **[F8]** (**[LCD]**/**[□]**) を押すと、切り替え可能な表示装置の一覧が表示されます。
再度 **[Fn]** + **[F8]** を押すか、**[←]** / **[→]** で表示装置を選択して、**[↓]** を押します。



一覧表示に対応する表示装置は、次のとおりです。

一覧表示	表示装置
コンピューターのみ	LCD 画面のみ
複製	LCD 画面と外付けディスプレイに表示 「複製」を選択したときの画面表示は、ユーティリティでの設定(p.64)によって、次のとおり異なります。 <ul style="list-style-type: none">• 「クローン・ディスプレイ」設定時：クローン• 「コラージュ」設定時：コラージュ
拡張	LCD 画面と外付けディスプレイに表示（拡張デスクトップ）
プロジェクターのみ	外付けディスプレイ：2台接続している場合は、2台に表示（表示方法は設定による）

制限

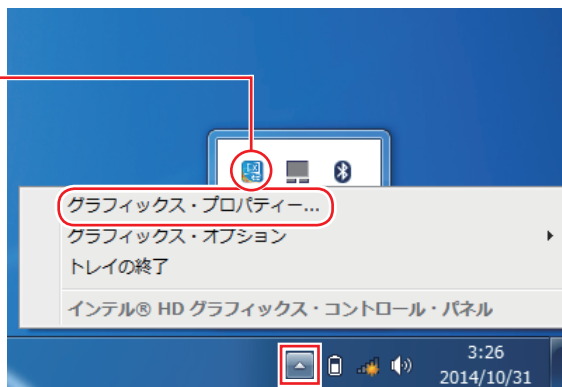
- 解像度の異なるディスプレイを接続してクローン表示に切り替えると、解像度は低い方の解像度で表示されます。
- 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードでの表示切り替えができないことがあります。
- キー操作での切り替えの場合、3画面へのクローン表示はできません。3画面にクローン表示する場合は、ユーティリティで切り替えてください。
 p.64 「ユーティリティで切り替える」

ユーティリティーで切り替える

ユーティリティーを操作すると、画面表示の切り替えや解像度の変更などを行うことができます。ユーティリティーでの画面表示の切り替え方法は、次のとおりです。

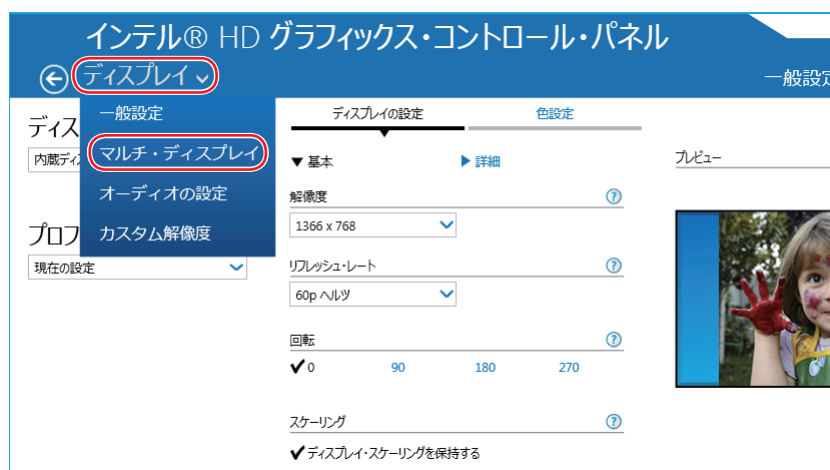
- 1 「通知領域」 - [△] - 「インテル (R) HD グラフィックス」アイコンをクリックし、「グラフィックス・プロパティー…」を選択します。

インテル (R)
HD グラフィックス
アイコン

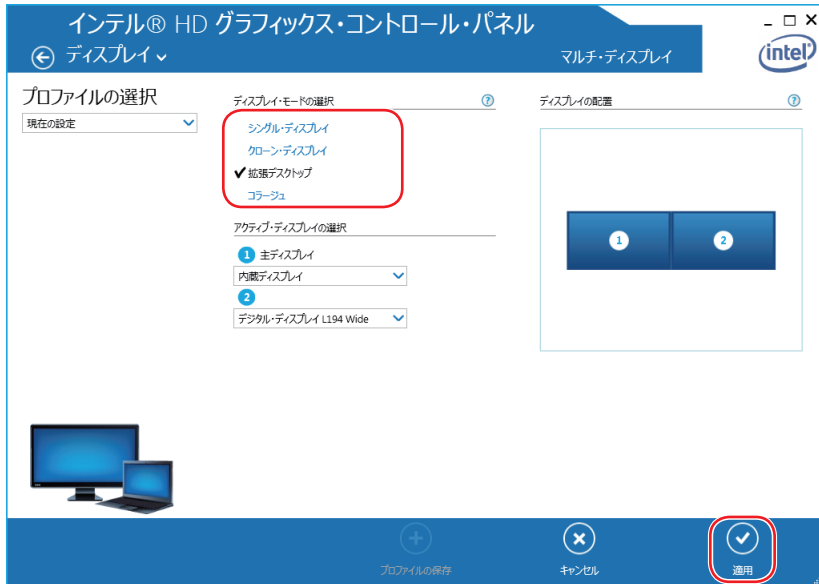


- 2 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」画面が表示されたら、「ディスプレイ」を選択します。

- 3 「ディスプレイ」タブをクリックして、表示された一覧から「マルチ・ディスプレイ」を選択します。



- 4** 「ディスプレイ・モードの選択」でモードを選択し、「適用」をクリックします。
「拡張」を選択した場合は、「①主ディスプレイ」を設定します。主ディスプレイに「スタート」メニューやタスクバーが表示されます。
3画面表示の場合は、「②」「③」も設定してください。



- 5** 「新しい設定が適用されました。これらの設定を保持しますか？」と表示されたら、「はい」をクリックします。
これで画面の切り替えは完了です。

- 6** 設定した内容をディスプレイ・プロファイルとして保存する場合は、「プロファイルの保存」をクリックして、表示された画面にプロファイル名を入力し、[OK] をクリックします。



参考

グラフィックス・オプションから設定する
ディスプレイの表示の切り替えは、次の場所からも行えます。

「通知領域」 - 「△」 - 「インテル (R) HD グラフィックス」アイコンをクリック - 「グラフィックス・オプション」 - 「出力先」

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。

● 解像度

解像度 ピクセル (横×縦)	アナログ接続	HDMI 接続
800 × 600	○	—
1024 × 768	○	○
1280 × 720 *	○	○
1280 × 768 *	○	—
1280 × 1024	○	○
1360 × 768 *	○	○
1366 × 768 *	○	—
1400 × 1050	○	○
1440 × 900 *	○	—
1600 × 900 *	○	—
1600 × 1200	○	○
1680 × 1050 *	○	○
1920 × 1080 *	○	○
1920 × 1200 *	○	○

* ワイド表示

● 表示色

中 (16ビット) / 最高 (32ビット)

! 制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。表示画面の種類や接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- クローン表示の場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピューター側の最大解像度と外付けディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を調節してみてください。

インテル WiDi (オプション)

購入時に無線 LAN をオプション選択された場合、本機は、インテル WiDi (ワイヤレス・ディスプレイ) に対応しています。

インテル WiDi では、本機の画面や動画などを、無線 LAN 機能を利用して、外部ディスプレイやテレビに表示することができます。

注意事項

インテル WiDi を使用するために必要な機器や注意事項について記載します。

必要な機器

インテル WiDi をご使用になるには、次の機器が必要です。

- インテル WiDi 用アダプター
- HDMI 入力端子を装備した外部ディスプレイ (テレビを含む)



インテル WiDi 用アダプターと外部ディスプレイは、HDMI で接続してください。HDMI 以外で接続した場合、本機の画面を外部ディスプレイに表示できません。

表示に関する注意

表示に関する注意事項は、次のとおりです。

- 同時に使用できる表示装置は、本機の液晶ディスプレイと、インテル WiDi で接続している外部ディスプレイの 2 つまでです。
- インテル WiDi で外部ディスプレイを使用中は、本機にケーブルを使って外付けディスプレイを接続しないでください。インテル WiDi が切断されます。
- UEFI Setup ユーティリティ、Windows 起動中の画面、省電力モードからの復帰中の画面、およびシャットダウン中の画面は外部ディスプレイに表示できません。
- インテル WiDi で接続すると、音声は接続した外部ディスプレイからの出力に切り替わります。
- インテル WiDi で表示した画面では、マウスポインターやウィンドウの移動、入力した文字などの表示に遅延が生じます。

使用に関する注意

使用時の注意事項は、次のとおりです。

- インテル WiDi は無線 LAN 機能を使用するため、ご利用環境によっては、通信速度の低下や通信不能が原因で、テレビや外部ディスプレイに画面が表示されない場合や、画面 (画像) が乱れる場合があります。画質は、接続したテレビや外部ディスプレイの仕様により異なります。
- インテル WiDi は無線 LAN 機能を使用しますが、ホームページの閲覧など、通常のインターネット接続も同時に使用できます。
- インテル WiDi と無線 LAN で、同時にインターネット接続して使用する場合は、無線 LAN アクセスポイントとの接続が完了してから、インテル WiDi の接続を行ってください。
- 無線 LAN 機能がオフの場合は、インテル WiDi を使用できません。
- インテル WiDi は、インテル My WiFi テクノロジーを使用しています。インテル My WiFi テクノロジーの設定を変更したり、削除したりしないでください。

インテル WiDi ソフトウェアのインストール

インテル WiDi を使うには、インテル WiDi ソフトウェアのインストールが必要です。

インテル WiDi ソフトウェアのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から「インテル WiDi ソフトウェア」を選択して [インストール] をクリックします。
以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

インストールが完了すると、デスクトップに「Intel(R) WiDi」アイコンが表示されます。



< Intel(R) WiDi アイコン >


インテル WiDi の詳細は、ヘルプをご覧ください。ヘルプは、「Intel(R) WiDi」アイコンをダブルクリックして表示される画面から閲覧できます。

インテル WiDi で接続する

インテル WiDi 用アダプターと HDMI で接続した外部ディスプレイに本機の画像を表示するには、インテル WiDi を使って、本機とインテル WiDi 用アダプターを接続します。

インテル WiDi 用アダプターと外部ディスプレイの接続方法は、アダプターに添付のマニュアルをご覧ください。

アダプターと本機を接続する手順は、次のとおりです。

- 1** インテル WiDi 用アダプターと外部ディスプレイの電源を入れます。
外部ディスプレイに入力切替がある場合は、HDMI 入力になっていることを確認してください。
- 2** 本機の無線 LAN 機能をオンにします。
 p.86 「無線 LAN 機能のオン / オフ方法」
- 3** デスクトップの「Intel(R) WiDi」アイコンをダブルクリックします。
- 4** 「Intel(R) WiDi ソフトウェア使用許諾契約」と表示されたら、内容を確認して、[この使用許諾の条件に同意する] をクリックします。

- 5** 「Intel(R) WiDi」画面が表示され、しばらくして「検出されたワイヤレス・ディスプレイ」項目にお使いのインテル WiDi 用アダプターが表示されたら、[接続] をクリックします。

アダプターが検出されない場合は、アダプター の電源や本機との距離を確認してください。



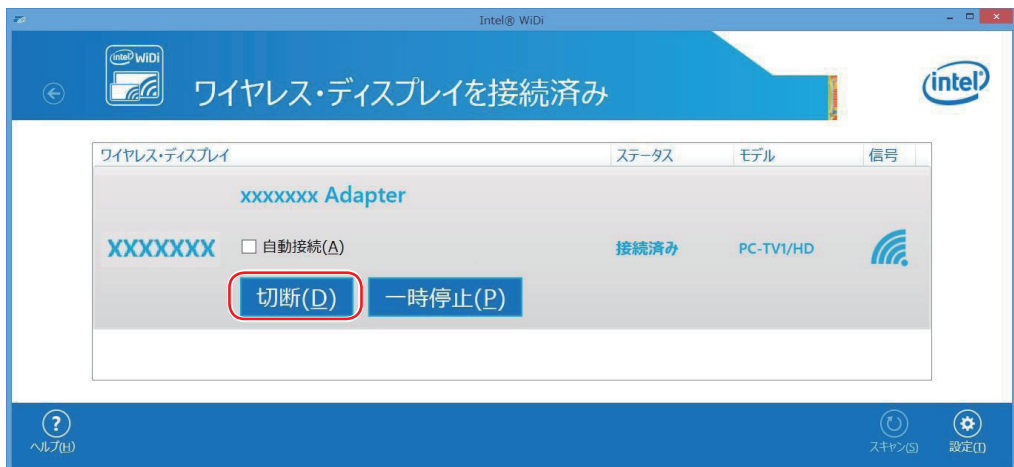
初めて接続する場合は、以降の作業が必要です。

- 6** 外部ディスプレイに「コンピューターまたはモバイルデバイスで次のセキュリティー・コードを入力してください。」と表示されたら、本機の画面に表示されている PIN コードの入力欄に PIN コードを入力し、[続行] をクリックします。

- 7** 外部ディスプレイに本機の画面が表示され、「接続完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

接続を終了する

インテル WiDi の接続を終了する場合は、「Intel(R) WiDi」を起動し、[切断] をクリックします。

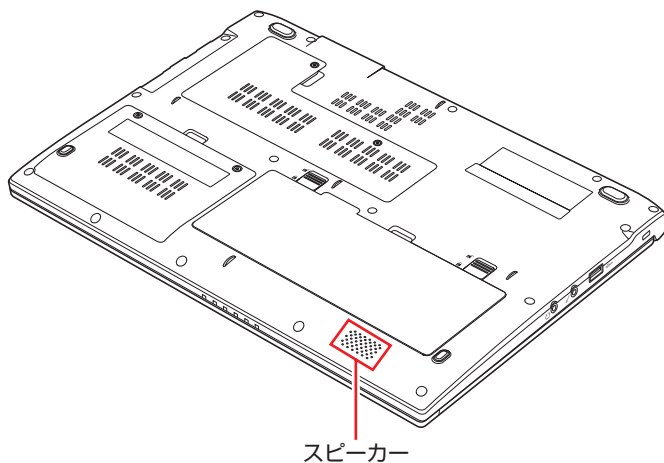


サウンド機能

本機には、サウンド機能が搭載されています。

スピーカー

本機には、モノラルスピーカーが内蔵されており、音源からの音声を出力することができます。



制限

本機のスピーカーから、特定の周波数が継続する音源（警告音やテスト信号音など）を大音量で再生した場合、誤動作や故障の原因となることがあります。

音量の調節

スピーカーの音量は、次のキー操作で調節します。

キー操作	状態
+	一度押すとミュート（消音）になります。 もう一度押すとミュートが解除されます。
+	音量が小さくなります。
+	音量が大きくなります。

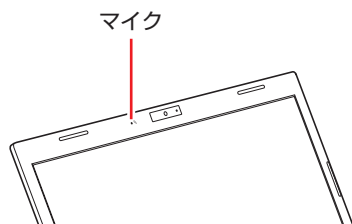


制限

ソフトウェアによっては、キー操作で音量調節ができないものがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

マイク

本機には、マイク（モノラル）が内蔵されており、音声を録音することができます。



オーディオ機器の接続

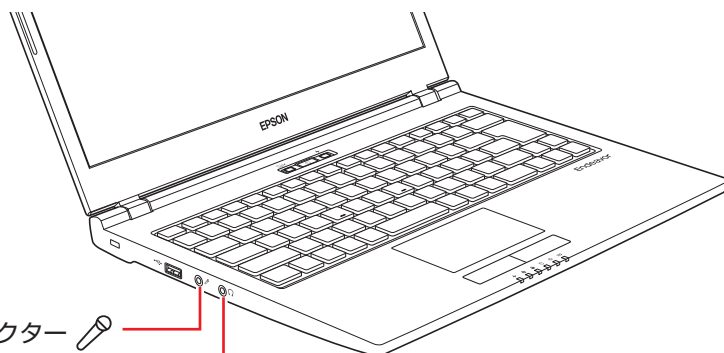
本機左側面には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。



注意

ヘッドホンやスピーカーは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。



● **マイク入力コネクタ** 

マイクを接続して、音声を入力します。

オーディオ機器を接続して、音声を入力します。

● **ヘッドホン出力コネクタ** 

ヘッドホンやスピーカーを接続して、音声を出力します。

HDMI コネクタについては、 p.60 「HDMI 接続の場合」をご覧ください。



●使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

●ヘッドホンやスピーカー、マイクを接続したら

ヘッドホン出力コネクタ、マイク入力コネクタにヘッドホンやスピーカー、マイクを接続すると、自動的に接続した機器が使用可能になり、内蔵スピーカーや内蔵マイクの機能は無効になります。

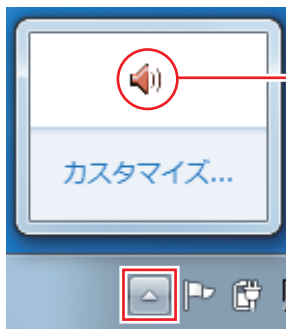
●HDMI 機器を接続したら

音声出力が可能な HDMI 機器を HDMI コネクタに接続した場合は、HDMI 機器から音声が出力されます。

サウンドユーティリティを使う

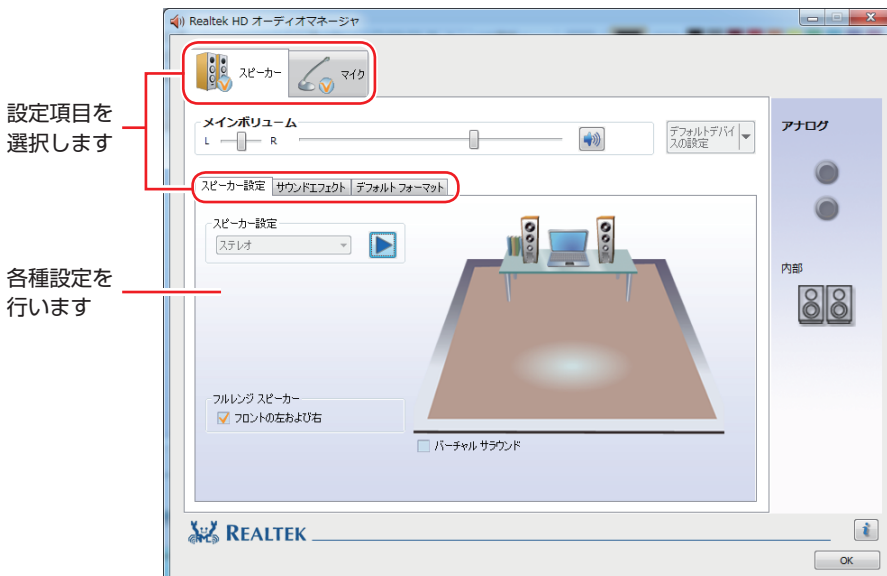
サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域にある [△] 内の「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン（赤色）をダブルクリックします。



Realtek HD オーディオ
マネージャアイコン


次の画面が表示されます。



マイク使用時の音量調節

マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。



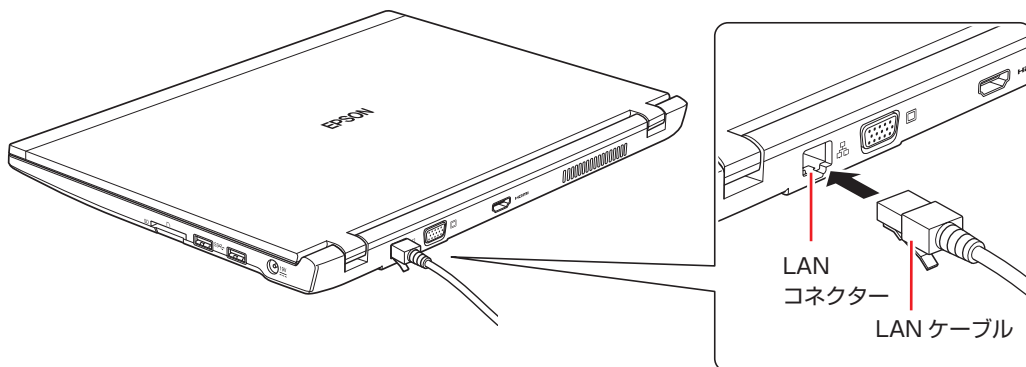
録音時に音量を調節しても音が小さいときは、をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせ、音量を上げてください。

ネットワーク機能（有線 LAN）

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（有線 LAN）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面の LAN コネクター（品）に市販の LAN ケーブルを接続します。




ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。

！ 制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する
 p.104 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。

インターネットへの接続

インターネットへの接続は、プロバイダーから提供されたマニュアルを参照して行ってください。

そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

- Wakeup On LAN
- リモートブート

Wakeup On LAN

Wakeup On LAN を使用すると、シャットダウン状態やスリープ状態、休止状態のときに、ネットワークからの信号により本機を起動することができます。この機能は、必ず AC アダプターを接続した状態で使用してください。

シャットダウン状態から起動させる



- シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。
- 本機を正常に終了した場合でも、シャットダウン後に AC アダプターとバッテリーを取り外したりして本機への電源供給が停止してしまうと、再度 AC アダプターを接続しても、Wakeup On LAN で本機を起動できないことがあります。

シャットダウン状態から Wakeup On LAN を行う場合は、次の設定が必要です。

- UEFI の設定変更
- ネットワークアダプターの設定

UEFI の設定変更

「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」－「Wake up from S5」: [Enabled]
(有効)

 p.126 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.140 「Power メニュー画面」

ネットワークアダプターの設定確認

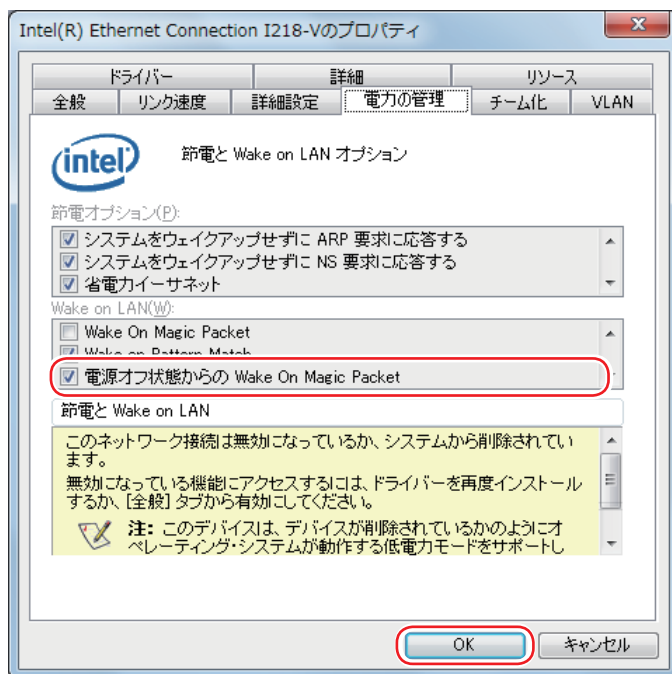
ネットワークアダプターの設定を確認する方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート]－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「デバイスマネージャー」をクリックします。
- 2** 「デバイスマネージャー」画面の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、表示された「Intel (R) Ethernet・・・」をダブルクリックします。



- 3** 「Intel (R) Ethernet …」画面の「電力の管理」タブをクリックし、「電源オフ状態からの Wake On Magic Packet」にチェックが入っていることを確認して、[OK] をクリックします。

チェックが入っていない場合は、チェックを入れて [OK] をクリックしてください。



- 4**  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

これで、設定は完了です。



Wakeup On LAN を設定している場合

UEFI の設定で、「Power」メニュー画面 - 「APM Configuration」 - 「Wake up from S5」が [Enabled] (有効) に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上から Windows をインストールすることができます。

ネットワーク切替えツールを使う

会社や自宅など、複数のネットワーク環境（有線 LAN・無線 LAN）で本機をご使用の場合、「ネットワーク切替えツール」を使って、接続するネットワークの設定を簡単に切り替えることができます。

購入時、ネットワーク切替えツールはインストールされていません。「初期設定ツール」からインストールしてください。

初期設定ツールは、次の場所から起動できます。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【初期設定ツール】

プロファイルの登録

ネットワーク切替えツールでは、ネットワーク環境の設定をプロファイルとして管理します。複数のネットワーク環境をプロファイルに登録して使用します。

※ 複数の無線 LAN 環境設定を登録できますが、アクセスポイントの切り替えを行うことはできません。

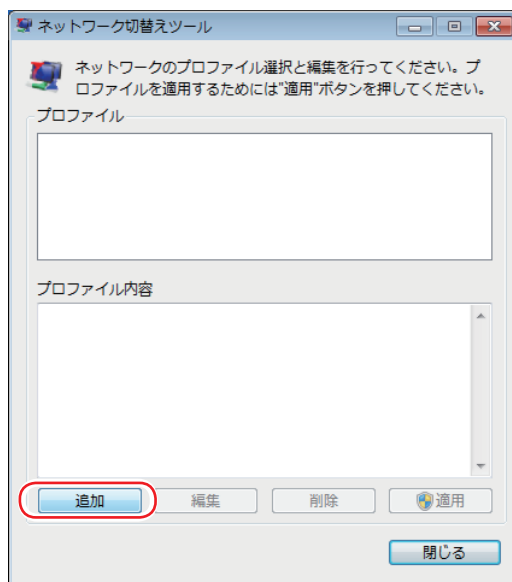
プロファイルを登録する手順は、次のとおりです。

プロファイルの登録は、登録するネットワークに接続した状態で行ってください。

- 1** 登録するネットワークに接続します。
- 2** 【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【EPSON DIRECT】 - 【ネットワーク切替えツール】 をクリックします。
- 3** 「プロファイルが登録されていません。…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
プロファイルがない場合にのみ表示されます。
- 4** 「便利な使い方」と表示されたら、記載された手順に従ってタスクバーにアイコン表示を固定させるための作業を行い、[OK] をクリックします。



- 5** 「ネットワーク切替えツール」画面が表示されたら、[追加] をクリックします。
以降は、画面の指示に従って、プロファイルを登録してください。



プロファイルの切り替え

必要なプロファイルを登録した後は、ネットワークの接続先に応じて、「ネットワーク切替えツール」でプロファイルを切り替えます。
切り替え手順は、次のとおりです。

- 1** 切り替えたいネットワークに接続します。
- 2** タスクバーの「ネットワーク切替えツール」アイコンをクリックし「ネットワーク切替えツール」画面が表示されたら、接続したネットワークのプロファイルを選択して、[適用] をクリックします。



<ネットワーク切替えツールアイコン>

「ネットワーク切替えツール」アイコンを右クリックして、表示された一覧からプロファイルを選択することもできます。タスクバーにアイコンを表示していない場合は、[スタート] – 「ネットワーク切替えツール」をクリックし、「ネットワーク切替えツール」画面を表示してください。

- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
選択したプロファイルのネットワーク設定への切り替えが開始されます。
- 4** 「ネットワーク設定の切替えを完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。

プロファイル一括変更ツール

ネットワーク切替えツールに登録したプロファイルの情報を一括で変更することができます。使用するときは、[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「EPSON DIRECT」 - 「プロファイル一括変更ツール」をクリックします。

表示された画面の指示に従って、プロファイル設定の一括変更を行ってください。



「ネットワーク切替えツール」画面を表示した状態では、プロファイル一括変更ツールを使用できません。

「ネットワーク切替えツール」画面を閉じてから、「プロファイル一括変更ツール」をクリックしてください。

インテル スマート・コネクト・テクノロジーを使う

本機は、システムがスリープ状態のときでも、電子メール、アプリケーション、およびソーシャル・ネットワークを継続的かつ自動的に更新する機能、Intel Smart Connect Technology（インテル スマート・コネクト・テクノロジー）に対応しています。

購入時、インテル スマート・コネクト・テクノロジーはインストールされていません。

インテル スマート・コネクト・テクノロジー機能を使用するには、UEFI の設定とインテル スマート・コネクト・テクノロジーのインストールが必要です。

UEFI の設定

「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Advanced」メニュー画面 - 「Intel Smart Connect Technology」 - 「ISCT Configuration」: [Enabled] (有効)

 p.126 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.139 「Advanced メニュー画面」

インテル スマート・コネクト・テクノロジーのインストール

インテル スマート・コネクト・テクノロジーは以下の手順でインストールします。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。



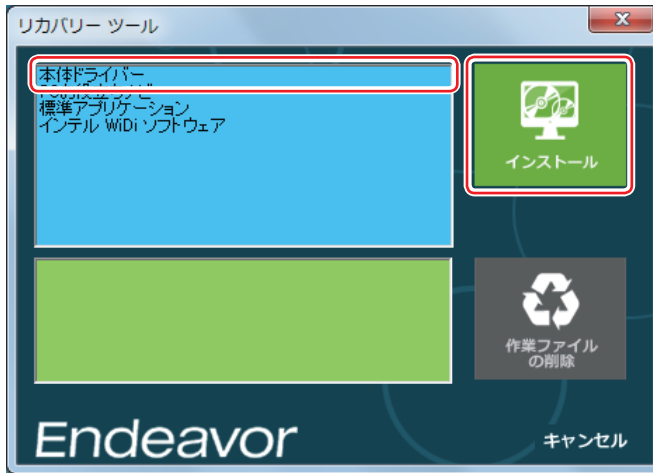
<リカバリーツールアイコン>

- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。

- 3** リカバリーツールが起動したら、[インストール] をクリックします。



- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から [本体ドライバー] を選択して、[インストール] をクリックします。



- 5** 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら [Intel Smart Connect Technology] をクリックします。
以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

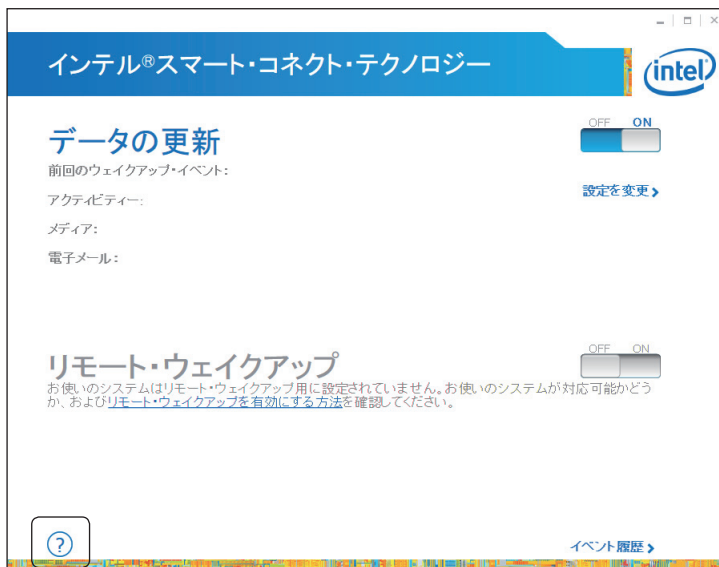


起動方法

インテル スマート・コネクト・テクノロジー は、次の場所から起動します。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「Intel」 - 「Intel(R) Smart Connect Technology」

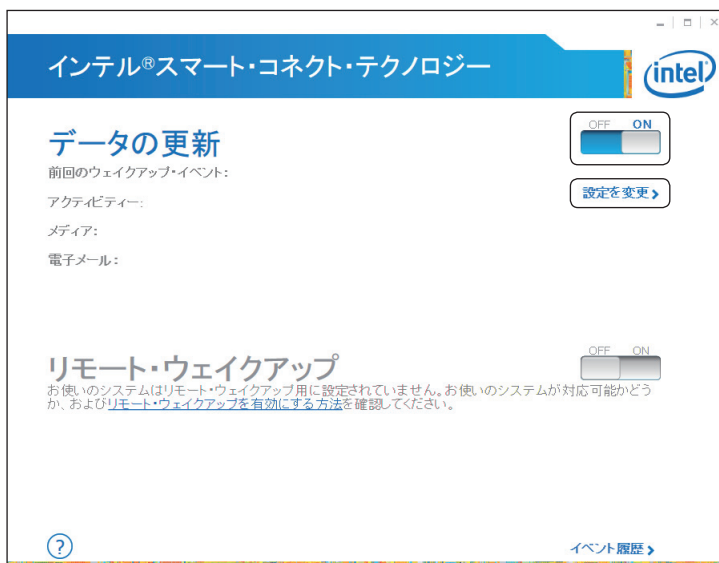
インテル スマート・コネクト・テクノロジーの詳細は、起動した画面の  - 「ヘルプ」をご覧ください。



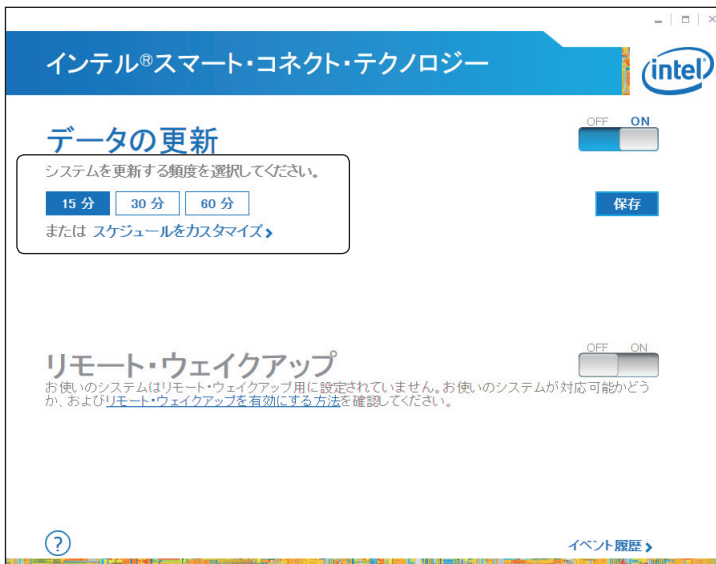
使用するための設定

「データの更新」の右側にあるボタンが「ON」側になっていれば、Intel Smart Connect Technology の機能は有効になっています。

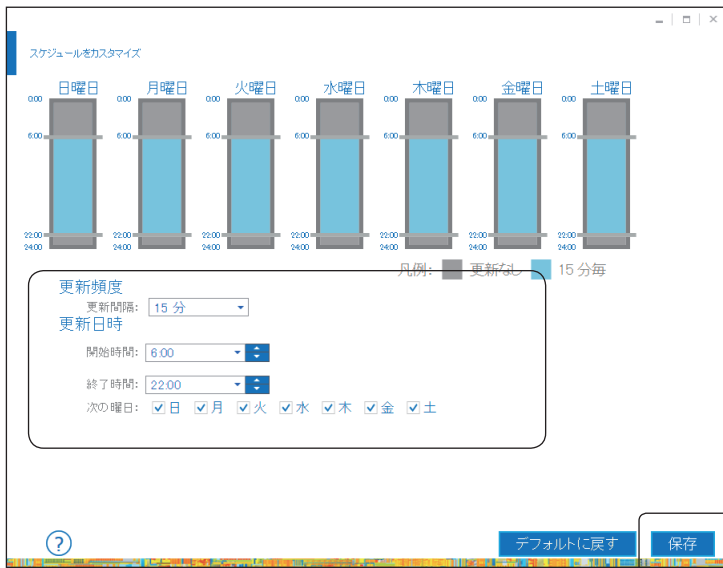
「設定を変更」をクリックすると、システムを更新する頻度を設定できます。



「15分」、「20分」、「60分」から設定して「保存」をクリックします。
更新の頻度を詳細に設定したい場合は、「保存」をクリックせずに「スケジュールをカスタマイズ」
をクリックします。



スケジュールのカスタマイズが終了したら、「保存」ボタンを押します。



バッテリー残量による機能停止の設定

本機をバッテリーのみで使用する場合、バッテリー残量が 30% 以下になるとインテル スマート・コネクト・テクノロジーが自動的に停止します。

バッテリー残量の値は、次の場所を変更することができます。

「Advanced」メニュー画面 – 「Intel(R) Smart Connect Technology」 – 「Limited Battery Capacity」

 p.126 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.139 「Advanced メニュー画面」

無線 LAN 機能（オプション）

購入時にオプション選択された場合、本機には無線 LAN アダプターが内蔵されています。無線 LAN とは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。

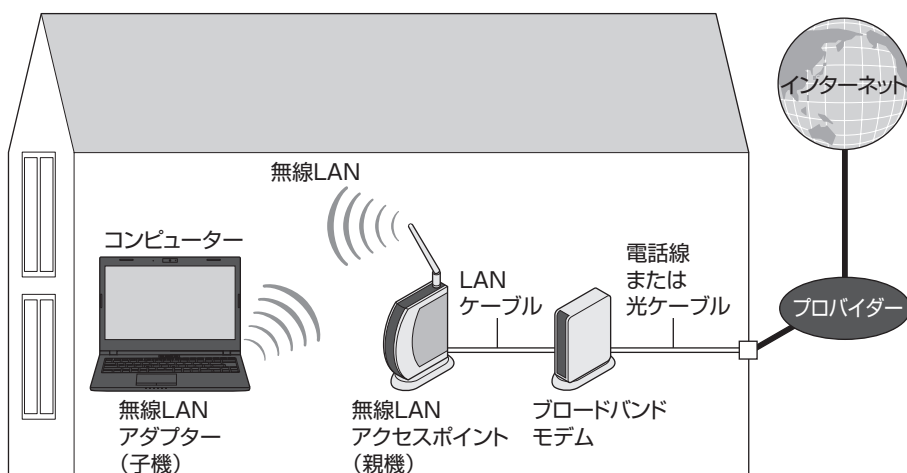
準拠規格

本機に内蔵されている無線 LAN アダプターは、次の規格に準拠しています。

- IEEE802.11ac/a/b/g/n

無線 LAN の概要

無線 LAN の概要を図で表すと、次のようになります（図は一例です）。



無線 LAN の用語一覧

無線 LAN 機器のマニュアルにより、使用している用語が本書と異なる場合があります。下記の用語一覧を参考にしてください。

本書での表記	別名
無線 LAN	ワイヤレス LAN、Wi-Fi
無線 LAN アクセスポイント	親機、ワイヤレス LAN ステーション、アクセスポイント、無線 LAN ルーター
無線 LAN アダプター	子機、ワイヤレスステーション、無線 LAN 端末、無線 LAN クライアント
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、サービスセット識別子


無線LAN使用時の注意

無線 LAN を使用する際は、次の注意事項をよくお読みください。




- 無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。また、本機に自動的に電源が入る設定をしている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 無線 LAN 機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
 - ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
 - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
 - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
 - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
 - ・本機に自動的に電源が入る設定をしている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線 LAN 機能を使用するときは、装着部と本機の間を 22cm 以上離してください。
電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- 無線 LAN 機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、サーバーから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・再起動する
 - ・省電力状態に移行しないように設定する
 p.104 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態に復帰できない場合があります。
- 本機の無線 LAN 機能は、Wakeup On LAN とリモートブートには対応していません。

電波に関する注意

無線 LAN は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機には認証を取得した無線設備が内蔵されており、5GHz または 2.4GHz の周波数帯を使用します。
- 本機の無線設備は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として技術基準適合証明を受けているため、本機を分解／改造しないでください。なお、日本国内でのみ使用できます。
- 5GHz (W52、W53) の周波数帯は、電波法の規定により屋外では使用できません。
- 2.4GHz の周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と称す）が運用されています。
 - 1 本機の無線設備をご使用になる前に、近くで「他の無線局」が使用されていないことを確認してください。
 - 2 万一、本機の無線設備と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所または使用無線チャンネルを変えるか、運用（電波の発射）を停止してください。
 - 3 電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときには、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

無線LAN機能のオン/オフ方法

無線 LAN 機能のオン / オフ方法について説明します。



警告

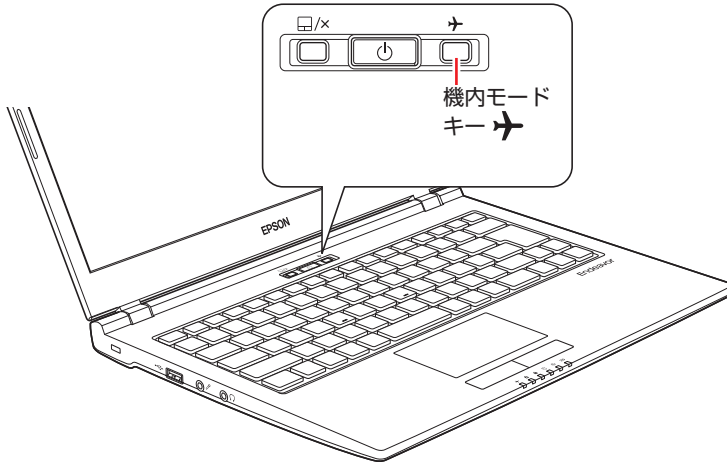
無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。また、本機に自動的に電源が入る設定をしている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。



制限

- 有線 LAN を使用する場合は、無線 LAN 機能をオフにしてください。
- バッテリーのみで本機を使用している場合、無線 LAN 機能がオンになっていると、バッテリー駆動時間が短くなります。無線 LAN を使用しない場合は、無線 LAN 機能をオフにしてください。

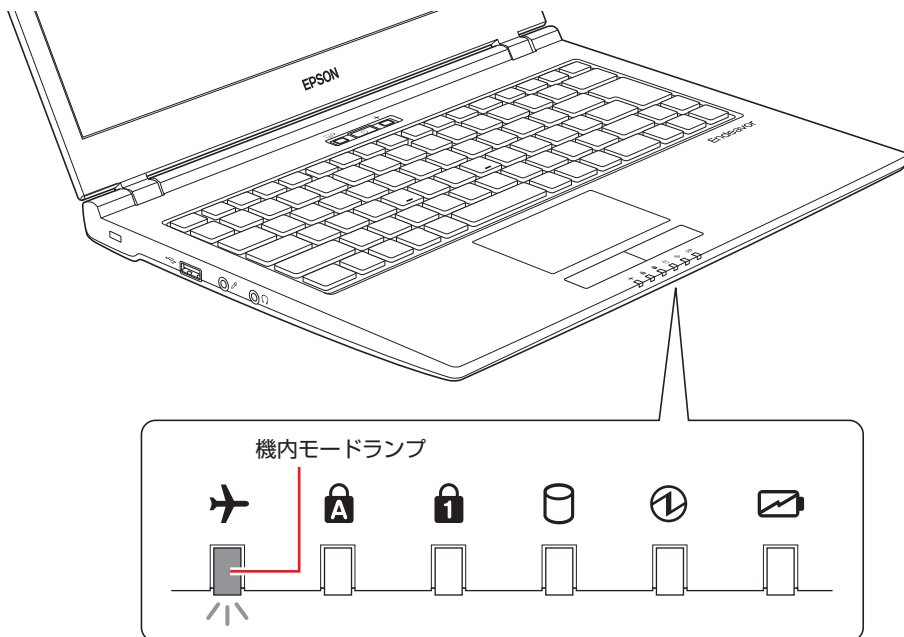
無線 LAN 機能のオン / オフは、機内モードキー（✈）で行います。
 キーを押すたびに、無線機能（Bluetooth/ 無線 LAN）のオン / オフが切り替わります。



機内モードランプ

無線 LAN 機能のオン / オフは、機内モードランプ（✈）で確認できます。

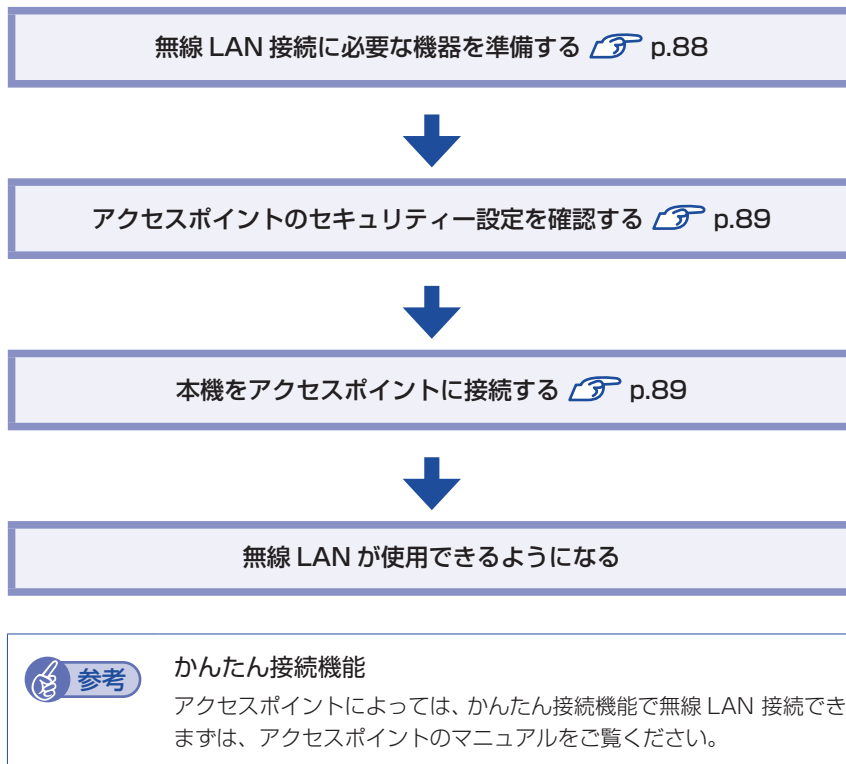
無線 LAN 機能	機内モードランプ
オン	消灯
オフ	点灯



無線LAN接続の設定をする

ここでは無線 LAN アクセスポイント（以降、アクセスポイント）と本機を無線でつなげる方法（無線 LAN 接続方法）について説明します。

無線 LAN 接続の設定の流れは、次のとおりです。



無線 LAN 接続に必要な機器を準備する

無線 LAN 接続に必要な機器を準備します。

- **ブロードバンドモデム（ADSL 用や光ファイバー用の通信装置）**
インターネットに接続する場合に必要です。多くの場合、プロバイダーと契約すると貸与されます。
- **無線 LAN アクセスポイント**
本機と無線で通信するための機器です。本機の対応規格に合ったものを用意してください。ブロードバンドモデムに無線 LAN アクセスポイント機能が内蔵されている場合は不要です。

アクセスポイントとブロードバンドモデムを LAN ケーブルで接続して、電源を入れてください。詳しくは、各機器に添付のマニュアルを参照してください。

アクセスポイントのセキュリティー設定を確認する

無線 LAN は電波を使用して通信するため、第三者に侵入されたり、通信データを盗み見されたりする可能性があります。また、他人のアクセスポイントに誤って本機を接続してしまう可能性もあります。これらのことを防ぐため、アクセスポイントのセキュリティー設定を、本体側にも設定します。

アクセスポイントのマニュアルを参照し、セキュリティー設定(暗号化キー)を確認してください。セキュリティー設定がされていない場合は、マニュアルの手順に従って、設定を行ってください。

本機をアクセスポイントに接続する

アクセスポイント側に設定されている暗号化キーを本機側にも入力し、本機をアクセスポイントに接続します。

この作業は初めて接続するときのほかに暗号化キーを変更したときや、Windows の再インストールをした場合にも行います。

1 本機の無線 LAN 機能をオンにします。

 p.86 「無線 LAN 機能のオン / オフ方法」

2 アクセスポイントに接続します。

- 1 通知領域の [△] - 「Intel(R) PROSet/Wireless Framework」アイコンをダブルクリックします。

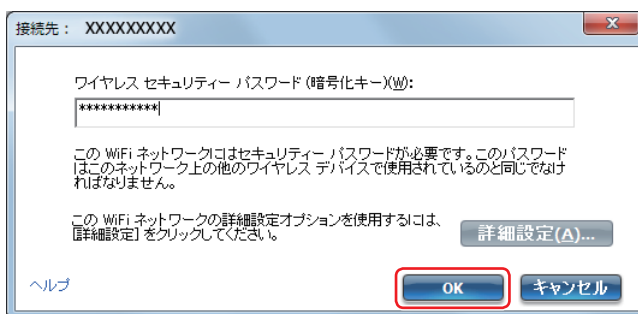


- ② 「インテル (R) PROSet/Wireless…」 画面が表示されたら、接続するアクセスポイント（設定した SSID）を選択し、[接続] をクリックします。



<イメージ>

- ③ ワイヤレスセキュリティパスワード（暗号化キー）の入力ボックスが表示されたら、アクセスポイントに設定した暗号化キーを入力し、[OK] をクリックします。



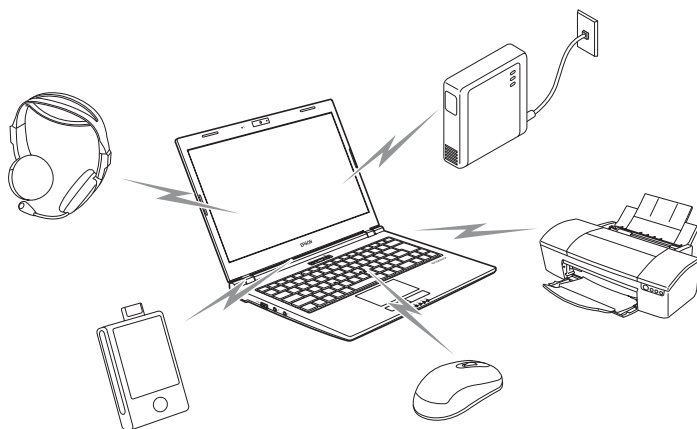
「XXXX (SSID 名) に接続しています。」と表示されたら、画面を閉じます。

プロファイル

ここで設定した無線 LAN は、「プロファイル」として自動的に保存されます。プロファイルが作成されていると、次回からは設定を行わずに簡単に無線 LAN に接続することができます。

Bluetooth 機能を使う (オプション)

購入時にオプション選択された場合、本機には Bluetooth 機能が搭載されています。Bluetooth とは、無線の通信方式の 1 つです。Bluetooth 機能を使用して、本機に Bluetooth に対応した周辺機器を接続することができます。



仕様

本機に搭載されている Bluetooth 機能の仕様は、次のとおりです。

規格	周波数帯
Bluetooth 標準規格 Ver. 4.0 + EDR	2.4GHz

Bluetooth機能をお使いの前に



- 航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
 - ・ 手術室・集中治療室 (ICU)・冠動脈疾患監視室 (CCU) には、本機を持ち込まない。
 - ・ 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
 - ・ 病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
 - ・ 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
 - ・ 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- Bluetooth機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電波に関する注意

Bluetooth機能は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- ・ 本機の Bluetooth 機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の Bluetooth 機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
- ・ 本機の Bluetooth 機能は、技術基準適合証明を受けていますので、本機を分解・改造すると法律で罰せられることがあります。
- ・ 2.4GHz 付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。
- ・ 本機の Bluetooth 機能の使用する電波が、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
 - ・ 産業・科学・医療用機器
 - ・ 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
 - 1 構内無線局（免許を要する無線局）
 - 2 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

万一、本機の Bluetooth 機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

- Bluetooth と無線 LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth 機能、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。
- 本製品は電波を利用したワイヤレス機器です。本製品を使用する環境によっては通信速度の低下や、接続が一時的に切断されるなどの現象が発生する場合がありますが、故障ではありません。

通信可能な距離



通信可能距離は、通信機器間の障害物や電波状況、磁場、静電気、電波障害の発生する場所、使用するソフトウェア、OS、通信する機器の受信感度、アンテナ性能などによって、変化する可能性があります。通信できない場合は、通信する機器を本機の近くに設置してください。

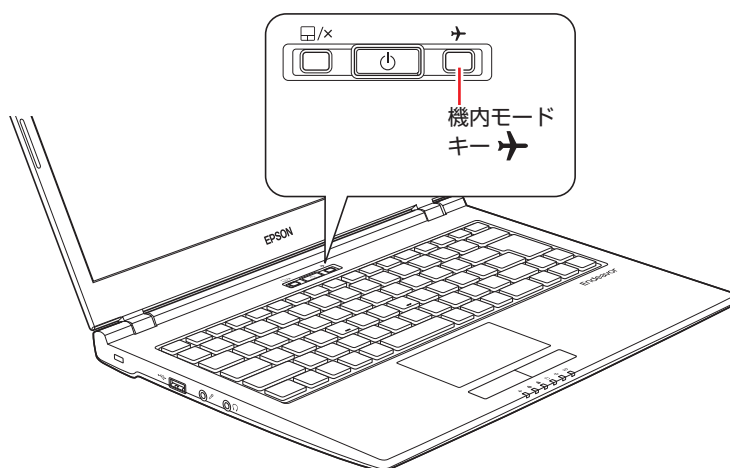
通信時の確認事項

Bluetooth 機能を使用して通信する際は、次の事項を確認してください。

- 使用する機器が Bluetooth に対応していることを確認してください。
- 本機と使用する機器が通信可能な距離にあることを確認してください。
- 本機と使用する機器が接続可能な状態になっていることを確認してください。
- 本機と使用する機器の Bluetooth 機能が有効になっていることを確認してください。
- 本機と複数の Bluetooth 機器で通信する場合、通信速度が低下する場合があります。

Bluetooth機能のオン/オフ方法

Bluetooth 機能のオン / オフ は、機内モードキー（✈）で行います。

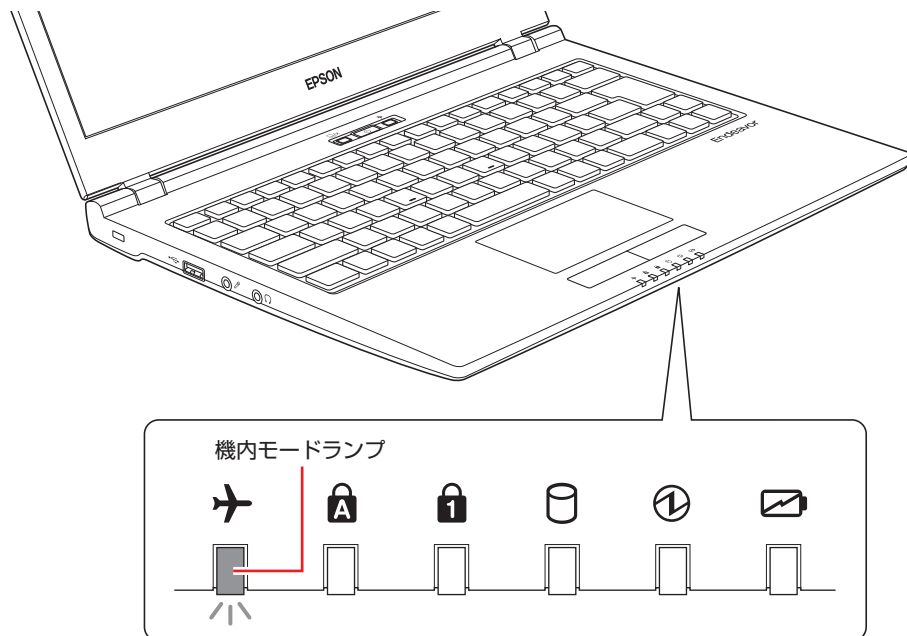


キーを押すたびに、無線機能（Bluetooth/ 無線 LAN）のオン / オフが切り替わります。

機内モードランプ

Bluetooth 機能のオン / オフは、機内モードランプ（✈）で確認できます。

Bluetooth 機能	機内モードランプ
オン	消灯
オフ	点灯



Bluetooth対応の周辺機器を使用する

マウスやヘッドセットなど、Bluetooth 対応の周辺機器を使用する方法を説明します。

周辺機器の検出・追加

新規で周辺機器を使用する場合、周辺機器を検出して、追加をする必要があります。



パスコード

周辺機器によっては、設定中に、パスコードの入力を促す画面が表示される場合があります。この場合は、周辺機器に添付のマニュアルを参照の上、パスコードを入力してください。

周辺機器を新規で検出・追加する方法は次のとおりです。

- 1** 周辺機器を本機の近くに設置します。

2 本機の Bluetooth 機能を「オン」にします。

 p.93 「Bluetooth 機能のオン / オフ方法」

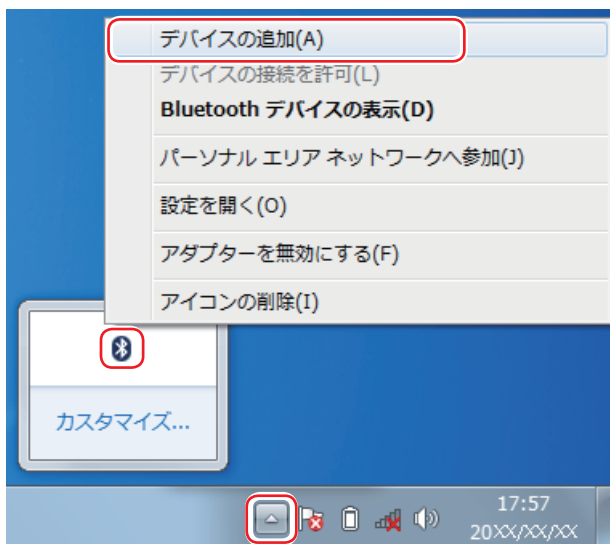
3 周辺機器の電源を入れ、ペアリングモードにします。

手順は周辺機器のマニュアルをご覧ください。

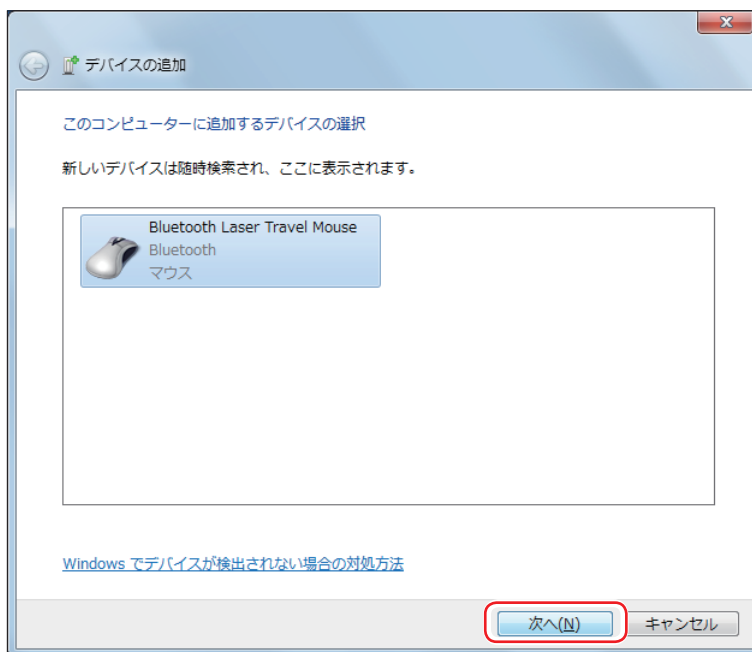
4 周辺機器を検出し、デバイスに追加します。

ここでは Bluetooth マウスを例に説明します。

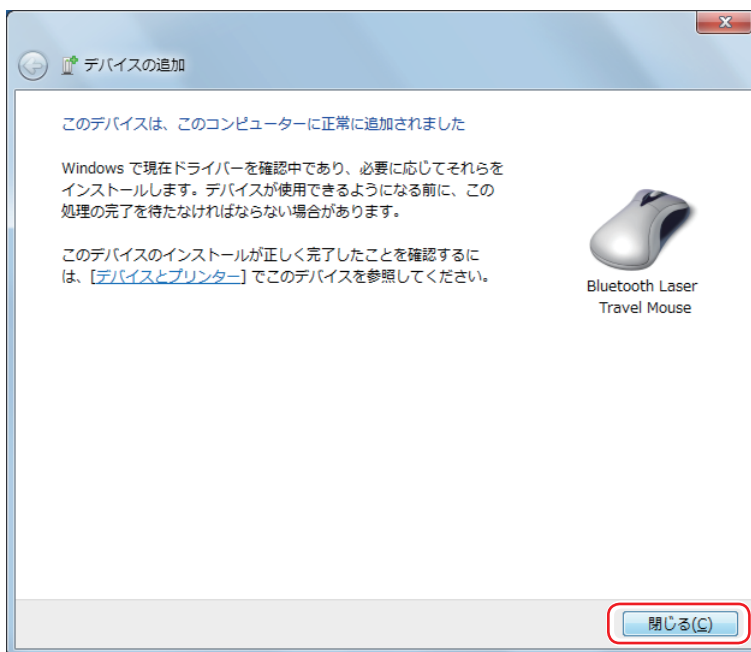
- 1 通知領域の [△] - 「Bluetooth」アイコンをクリックし、「デバイスの追加」を選択します。



- 2 表示されたデバイス（マウス）を選択し、[次へ] をクリックします。



- ③ 「ペアリングオプションの選択」と表示された場合は、デバイス（マウス）に添付のマニュアルをご覧になり、ペアリングの方法を選択します。
- ④ 「このデバイスは、このコンピューターに正常に追加されました」と表示されたら、内容を確認し、[閉じる] をクリックします。



ペアリング完了後、マウスを動かしてみて、操作できることを確認してください。

これで周辺機器の検出・追加は完了です。

周辺機器を使用する

追加が完了すると、周辺機器を使用できるようになります。
一度追加を行うと、次回以降は自動的に周辺機器に接続します。

接続を解除する場合

通知領域の [△] - 「Bluetooth」アイコンをクリックし、「Bluetooth デバイスの表示」を選択します。

表示された画面で、接続を解除するデバイスのアイコンを右クリックし、「デバイスの削除」を選択します。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうる、コンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対する、セキュリティー機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。

Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

自動更新の設定

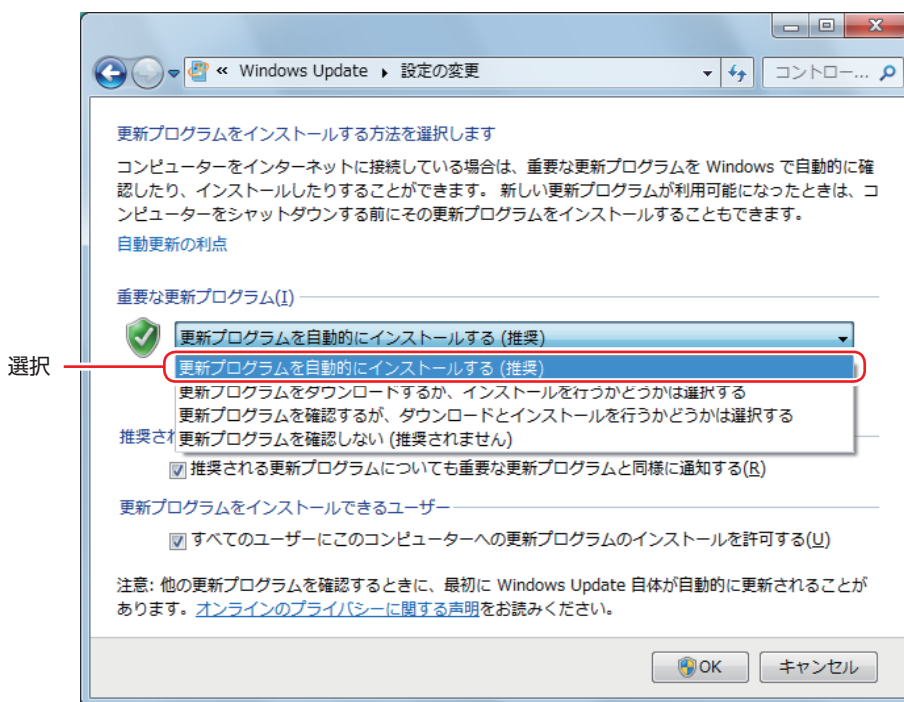
本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windows のセットアップ中に「コンピューターの保護と…」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

〔スタート〕－〔すべてのプログラム〕－〔Windows Update〕－〔設定の変更〕



セキュリティソフトウェア

インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティソフトウェアを必ず使用してください。

ウイルスバスター クラウド 90 日版を使う

本機には、セキュリティソフトウェアとして、「ウイルスバスター クラウド 90 日版」が添付されています。

ウイルスバスター クラウド 90 日版のインストール

購入時、ウイルスバスター クラウド 90 日版はインストールされていません。

インストールは、Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」から行います。ツールは次の場所から起動することができます。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【初期設定ツール】

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

 **別冊** 『ユーザーズマニュアル』 - 「ドライバー / ソフトウェアのインストール」

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、ウイルスバスター クラウド 90 日版をインストールしないでください。

ウイルスバスター クラウド 90 日版の使用方法

ウイルスバスター クラウド 90 日版は、デスクトップの「ウイルスバスター クラウド」アイコンから起動します。



<ウイルスバスター クラウドアイコン>

使用方法は、「ヘルプ」をご覧ください。



ウイルスバスター クラウド 90 日版を一時的に無効にするには

お使いのソフトウェアなどで、ウイルスバスター クラウド 90 日版を「無効」にするよう指示があった場合は、一時的にウイルスバスター クラウド 90 日版の機能を「無効」にします。機能を「無効」にすると、セキュリティーが確保されなくなります。安全を十分に確認した上で設定し、作業が終わったら、必ず「有効」に戻してください。

ウイルスバスター クラウド 90 日版のアンインストール

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合や、お使いのソフトウェアなどで指示があった場合には、ウイルスバスター クラウド 90 日版をアンインストールします。アンインストール方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プログラムのアンインストール」をクリックします。
- 2** 「プログラムのアンインストールまたは変更」と表示されたら、「ウイルスバスタークラウド」を選択して「アンインストール」をクリックします。
以降は画面の指示に従ってアンインストールを行ってください。

90 日の期限が来たら


本機に添付のウイルスバスター クラウドには、一定の有効期間（製品使用開始から 90 日間）が設定されています。

有効期限が切れた場合は、定義ファイルの更新やソフトウェアの自動バージョンアップが行われなくなるため、最新のウイルスやスパイウェアなどの脅威に対応することができなくなり、大変危険です。

90 日の期限が切れた場合は、使用を継続するための更新手続きを行うことをおすすめします。更新は有償になります。更新手続きを行うことにより、最新の脅威に対応できるようになります。

ウイルスバスター クラウド 90 日版の再インストール

Windows の再インストールをしたら、ウイルスバスター クラウド 90 日版をインストールします。

 p.157 「リカバリーツールからインストールする」

ウイルスバスター クラウド 90 日版のサポート

正しく動作しない場合など、ウイルスバスター クラウド 90 日版に関するご相談については、下記へお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

● 電話でのお問い合わせ 受付時間 365 日（年中無休）9:30 ～ 17:30

1. 操作、障害などのお問い合わせ

（インストール / バージョンアップ操作、設定方法、ウイルス、各種トラブル）

0570-019-610

2. ユーザー登録、契約更新のお問い合わせ

（契約更新、入金情報、ユーザー登録情報の確認や変更）

0570-064566

※ 一部の IP（光）電話や PHS、海外からの発信など、ナビダイヤルをご利用になれない場合はこちらの番号におかけください。03-6738-6063

※ 通話料金はお客さまのご負担となります。

※ 番号のおかけ間違いにご注意ください。

● メールでのお問い合わせ 受付時間 365 日（年中無休）24 時間

以下の各種お問い合わせフォームよりお問い合わせください。

- 操作・設定・トラブル バージョンアップ、操作、設定方法、各種トラブル、エラーに関するお問い合わせ

<https://esupport.trendmicro.com/submitcaseonline/consumer/srf-ts-step1.aspx>

- ウイルス検出・駆除 ウイルス検出や駆除方法、その他ウイルス情報に関するお問い合わせ

<https://esupport.trendmicro.com/submitcaseonline/consumer/srf-ve-step1.aspx>

- 契約更新・登録情報 契約更新、入金情報、ユーザー登録情報の確認や変更に関するお問い合わせ

<https://esupport.trendmicro.com/submitcaseonline/consumer/srf-cs-step1.aspx>

● チャットでのお問い合わせ 受付時間 365 日（年中無休）9:00 ～ 21:00

以下のチャットお問い合わせフォームよりお問い合わせください。

- チャットお問い合わせフォーム


<https://esupport.trendmicro.com/jpprechatform/consumer/chatlogin.aspx>

● トレンドマイクロサポート WEB

<http://tmqa.jp/vbtop/>

市販のセキュリティーソフトウェアを使う

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、ウイルスバスター クラウド 90 日版をアンインストール（削除）してください。

 p.99 「ウイルスバスター クラウド 90 日版のアンインストール」

Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30 日版を使う


本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i-フィルター 30 日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i-フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30 日版のインストール

購入時、i-フィルター 30 日版はインストールされていません。Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。ツールは次の場所から起動することができます。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

 p.157 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」

市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30 日版の申し込み

i-フィルター 30 日版を使用するには、申し込みが必要です。申し込みはインターネットに接続した状態で行います。次の場所から i-フィルター 30 日版を起動し、表示された画面の指示に従って、申し込みを行ってください。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「i-フィルター 6.0」



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。

この場合は、「i-フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30 日版のサポート

i-フィルター 30 日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能



ここでは、本機の省電力の機能について説明します。

省電力状態

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような注意事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 -  p.104 「時間経過で移行させない」
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ メモリーカードや外部接続記憶装置（USB HDD/SSD など）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ ネットワーク機能を使っでの通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態で、周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
 -  p.104 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- ディスプレイの電源を切る

省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- スリープ

作業内容をメモリーに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

スリープの状態を設定した時間経過した場合、またはバッテリー残量が設定したパーセンテージまで低下した場合は、自動的にメモリーの内容がHDD/SSDに書き込まれ、本機は「休止状態」になります。

- 休止状態

作業内容をHDD/SSDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

省電力状態に移行する方法

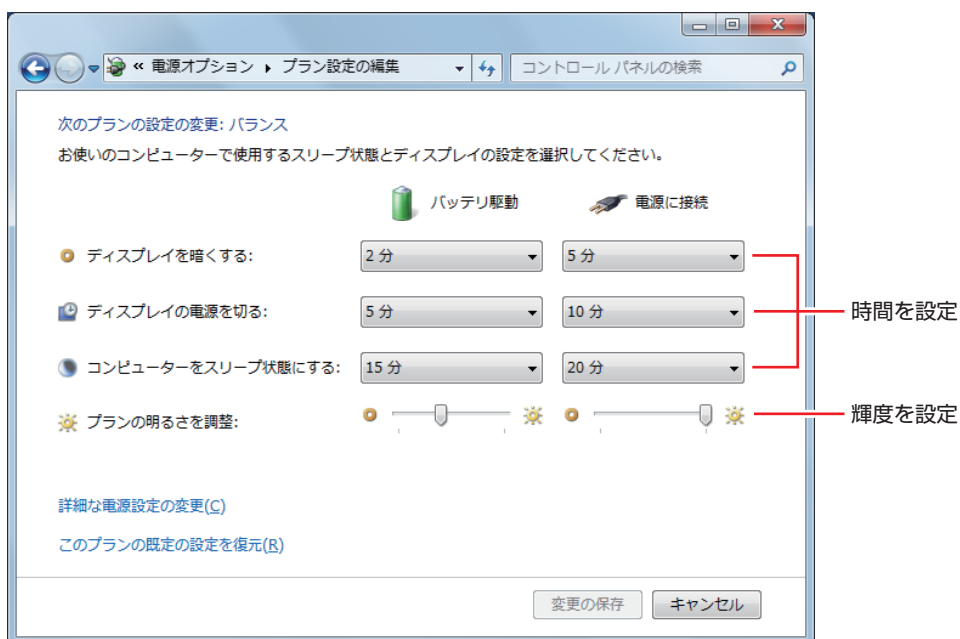
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



<イメージ>

時間経過で移行させない

外付け USB HDD などの記憶装置に大量のデータを書き込む場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
電源スイッチ (⏻) を押す	スリープ (初期値)
Fn + F1 (⌚) を押す	
LCD ユニットの閉じる	
[スタート] - [▷] から項目を選択する	スリープ、休止状態

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ (⏻) の点灯・点滅により確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常	点灯
ディスプレイの電源切	点灯
スリープ	点滅
休止状態	消灯
シャットダウン (電源切)	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源切	点灯	タッチパッドやキーボードを操作する
スリープ	点滅	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● キーボードを操作する● LCD ユニットの開く *1
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● LCD ユニットの開く *2

*1 「UEFI Setup ユーティリティ」-「Advanced」メニュー画面-「LCD Power ON」-「LCD Power ON From S3」の設定を「Enabled」にした場合のみ

*2 「UEFI Setup ユーティリティ」-「Advanced」メニュー画面-「LCD Power ON」-「LCD Power ON From S5/S4」の設定を「Enabled」にした場合のみ



制限

USB 充電機能に対応した USB3.0 コネクタで USB マウスをご使用の場合、マウスのクリックでスリープからの復帰はできません。

 p.53 「USB 機器を使う」

電源管理ユーティリティー

本機には、本機の電源に関する管理を行うための電源管理ユーティリティーがインストールされています。

電源管理ユーティリティーには、主に次の 4 つの機能があります。

- 消費電力の状況を、現在・1 日・1 週間・1 ヶ月間の 4 つの単位で表示
- バッテリーの劣化を抑えるための設定（充電の開始レベルと停止レベルの手動設定）
- ピークシフト機能（AC アダプター接続時にバッテリーで本機を使用する時間や期間の設定）
- キー操作の設定変更



参考


ピークシフトとは

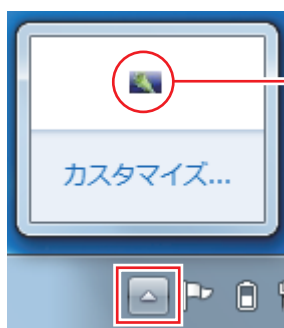
一般的に、昼間の電力需要が高い時間帯（ピークタイム）に使用する電力を、電力消費が少ない夜間に蓄えた電力でまかなうなど、ピークタイムの電力消費の一部を他の時間帯に移すことを「ピークシフト」といいます。

電源管理ユーティリティーを使う

消費電力の確認や各機能の設定は、電源管理ユーティリティーの画面で行います。

画面の表示方法は、次の 2 つです。

- **[Fn] + [F3]** ()
- 通知領域の **[△]** - 「電源管理ユーティリティー」アイコンをクリック



電源管理ユーティリティー
アイコン

各画面の内容や設定方法は次のとおりです。

電源プラン

Windows の電源プランの切り替えや、消費電力の状況の確認ができます。



● 電源プランの変更

設定したい電源プランをチェックします。

● 消費電力の確認

消費電力の状況を、現在、1日、1週間、1ヶ月間の単位で確認できます。

充電設定

充電設定は、本機に AC アダプターとバッテリーを接続して使用する際に機能します。

※ ただし、ピークシフト (p.107) 実行中は、充電設定は実行されません。

- 「自動充電」 (初期値) : バッテリー残量が 94%未満で充電を開始し、100%で充電完了します。

- 「手動設定」 : 充電停止レベルを設定できます。

< 設定範囲 >

60 ~ 80%

設定やレベルの変更をしたら [適用] をクリックします。

自動充電は、バッテリーでの使用頻度が高い場合におすすめします。

手動設定は、満充電の繰り返しによるバッテリーの劣化を抑えることができます。

ピークシフト

ピークシフトは、本機に AC アダプターとバッテリーを接続して使用する際に機能します。ピークシフトでは、AC アダプター接続時も、設定した時間中はバッテリーで本機を使用します。設定した時間中でも、バッテリー残量が設定範囲に達すると、AC アダプターから電力を供給します。

ピークシフトの設定手順は次のとおりです。



- 1 ピークシフトを選択します。設定内容を変えて、5 つまで登録できます。
- 2 シフト名は変更ができません。
- 3 ピーク時間（バッテリーで本機を使用する時間）を設定します。
- 4 バッテリーでの使用を停止するバッテリー残量を設定します。
「バッテリー低下による停止」の設定範囲は、10 ～ 30%です。バッテリー残量が設定値まで低下すると、AC アダプターからの電力供給を再開します。
- 5 「毎日」（初期値）か「曜日指定」を選択します。曜日指定では曜日も選択します。
- 6 ピークシフトの設定が完了したら [適用] をクリックします。

- 7 ピークシフトを実行するには、実行したいピークシフト名の右側のバーを右にスライドします。

<ピークシフトの実行例>



オプション

●消費電力ログ

【ログのクリア】をクリックすると、保存されている消費電力のログが削除されます。

Endeavor 電源プラン設定ツール

本機には節電設定を行うための「Endeavor 電源プラン設定ツール」が添付されています。Endeavor 電源プラン設定ツールでは、3つのおすすめ電源プランや、お客様ご自身で新規に作成するプランの中から、使い方に合った節電プランを設定することができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－画面下【ユーザーサポート】－「FAQ 番号で検索」－
FAQ 番号：21091

インストール

Endeavor 電源プラン設定ツールを使用するには、インストールが必要です。購入時は、Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。初期設定ツールは次の場所から起動することができます。

【スタート】－「すべてのプログラム」－「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

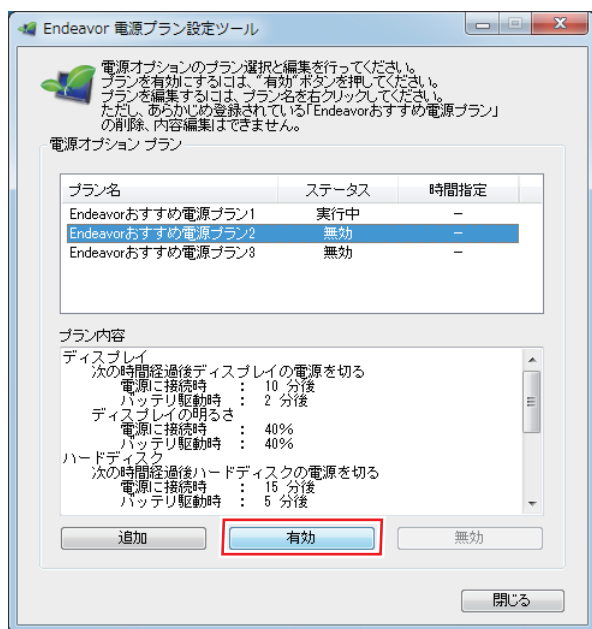
 p.157 「ドライバー / ソフトウェアのインストール」

プランの変更方法

Endeavor 電源プラン設定ツールをインストールすると、「Endeavor おすすめ電源プラン1」が有効になります。必要に応じて、「Endeavor 電源プラン設定ツール」画面で設定を変更してください。

変更方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「EPSON DIRECT」 - 「Endeavor 電源プラン設定ツール」 をクリックします。
- 2 変更したいプランを選んで [有効] をクリックします。



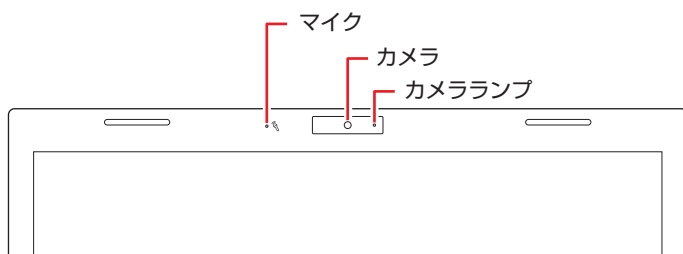
おすすめプランの内容や新規プラン作成方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - 「FAQ 番号で検索」 -
FAQ 番号 : 21091

カメラを使う

本機前面には、カメラが搭載されており、写真や動画を撮影することができます。



制限

- カメラのレンズ周辺には触れないでください。汚れや傷がつくと、撮影する画像が劣化します。
- カメラを太陽に向けないでください。カメラの故障の原因となります。電源切状態でも向けないでください。

ソフトウェアを起動し、カメラがオンになると、カメラランプが点灯します。

カメラを使うソフトウェア

本機には、カメラを使うソフトウェアとして、Skype が添付されています。Skype はインターネット経由でビデオ通話やチャットができるソフトウェアです。Skype はデスクトップの「Skype」アイコンから起動します。



< Skype アイコン >

Skype の使用方法の詳細は、Skype のヘルプをご覧ください。

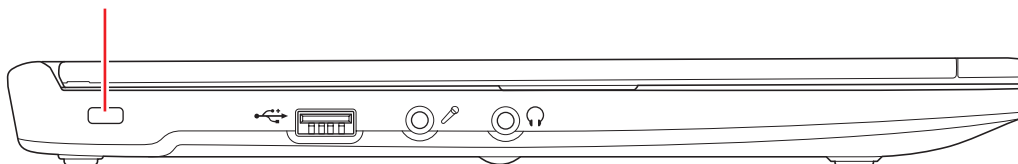
その他の機能

ここでは、その他の機能について説明します。

セキュリティーロックスロット

本機左側面には、「セキュリティーロックスロット」が搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。

セキュリティーロックスロット



当社では、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/>



2

装置の増設・交換

アップグレードサービスやメモリーの増設・交換方法、本機に接続できる装置について説明します。

増設・交換できる装置	114
メモリーの装着	115
外付け可能な周辺機器	121

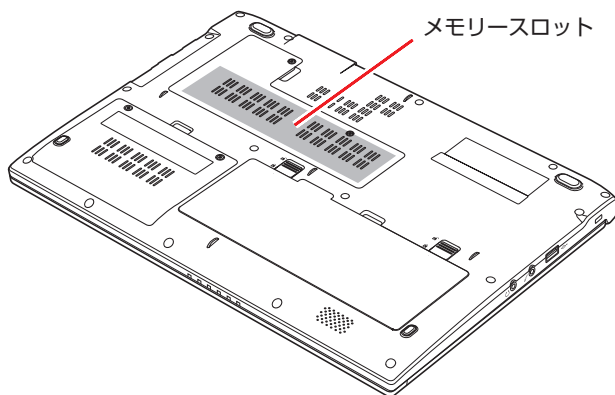
増設・交換できる装置

本機では、お客様ご自身でメモリー（SODIMM）を増設・交換することができます。



制限

本機では、メモリー以外の装置をお客様ご自身で増設・交換することはできません。



メモリスロット

本機には、メモリスロットが底面に2本用意されています。

アップグレードサービス


当社では、コンピューター本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。

アップグレードサービスの最新情報は、当社サポートページでご確認ください。

<http://www.epsondirect.co.jp/support/afterservice/upgrade/index.asp>



「PC お役立ちナビ」－ 画面下 [ユーザーサポート] － 「アフターサービス」項目の「アップグレードサービス」

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

メモリーの装着

本機で使用可能なメモリーの仕様と、メモリーの取り付け・取り外し方法について説明します。本機にはメモリスロットが2本あり、メモリーを増設・交換することができます。

Windows 7 32 bit 版：最大 4GB まで

Windows 7 64 bit 版：最大 16GB まで



Windows 7 32 bit 版の場合、本機に合計 4GB のメモリーを搭載しても、システム上利用できるメモリーの最大容量は約 3GB までです。

メモリーの仕様

本機で使用可能なメモリーは、次のとおりです。

- PC3L-12800 SODIMM (DDR3L-1600 SDRAM 使用)
- メモリー容量 2GB、4GB、8GB
- Non ECC
- 204 ピン
- CL = 11

最新メモリー情報

今後、使用可能なメモリーが追加される場合があります。また、それにともない、最大搭載可能容量が変更になることがあります。

メモリーの最新情報は、当社ホームページや FAQ でご確認ください。

<http://shop.epson.jp/>



「PC お役立ちナビ」－ 画面下 [ユーザーサポート] － 「FAQ 番号で検索」－
FAQ 番号：17849

メモリー装着の組み合わせ

本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリーを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。

メモリー装着の組み合わせとメモリーの動作は、次のとおりです。

メモリー装着の組み合わせ	メモリーの動作
同一容量のメモリー2枚	デュアルチャネルで動作。転送速度最大。
メモリー1枚	通常の転送速度で動作（シングルチャネル）。

メモリー取り付け・取り外し時の注意

メモリーの取り付け・取り外しをする場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- メモリーの取り付け・取り外しをするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーパックを取り外してください。電源プラグやバッテリーパックを接続したまま作業をすると、感電や火傷の原因となります。
- 本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。けが・感電・火災の原因となります。



- メモリーの取り付け・取り外しは、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷のおそれがあります。電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから作業を行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリーや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリーを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリーが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリーを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリーの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリーの取り付け・取り外し

メモリーの取り付け・取り外し手順は、次のとおりです。
ここではメモリースロット2にメモリーを増設する手順を説明します。



メモリー1枚のみで使用する場合は、必ずメモリースロット1(p.118)に装着してください。

1

本機の電源を切ります。

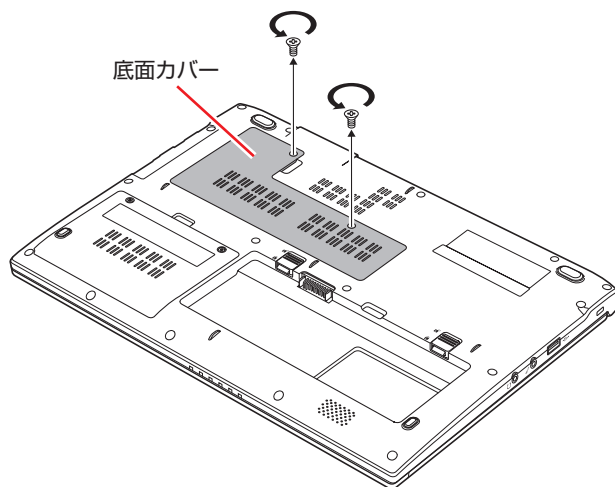
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで、10分以上放置してください。

2

本機に接続しているケーブル類（ACアダプターなど）を、すべて外します。

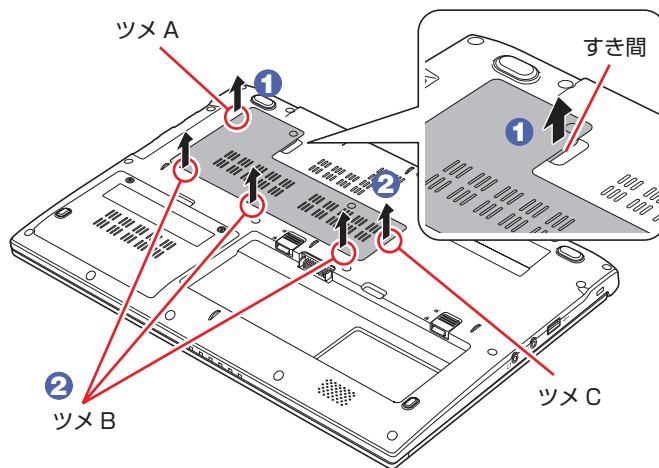
3 バッテリーを取り外します。
👉 p.35 「バッテリーの交換方法」 **3**

4 底面カバーのネジ（2本）を外します。

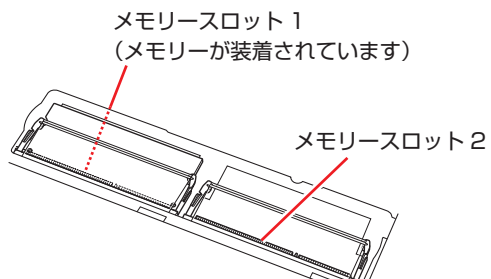


5 底面カバーを取り外します。

- 1 すき間に人差し指をかけて上に持ち上げ、ツメ A を外します。
- 2 ツメ B、ツメ C を外して、底面カバーを取ります。

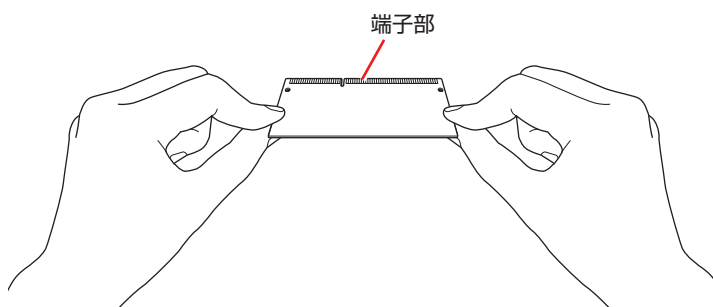


6 メモリスロット 2 の位置を確認します。



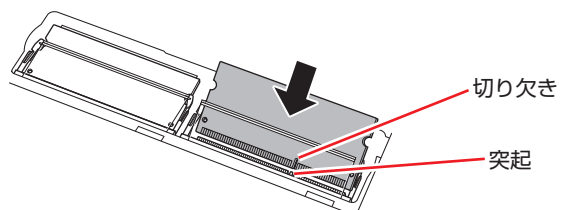
7 メモリスロット 2 にメモリーを取り付けます。

- ① メモリーの端子部や素子に触れないように持ちます。



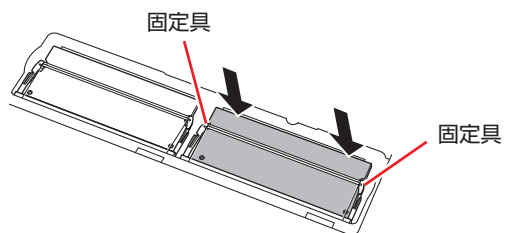
- ② メモリーを、メモリスロット 2 に差し込みます。

切り欠きを突起に合わせ、メモリーを約 45 度の角度でメモリスロットに差し込みます。



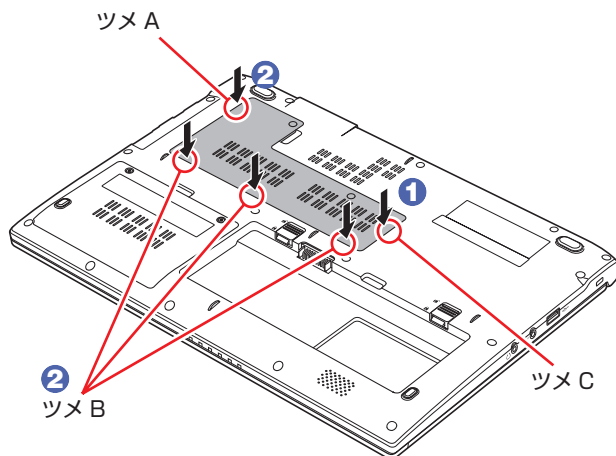
- ③ メモリーを静かに倒します。

正しく装着すると、「カチッ」と音がして両側の固定具で固定されます。

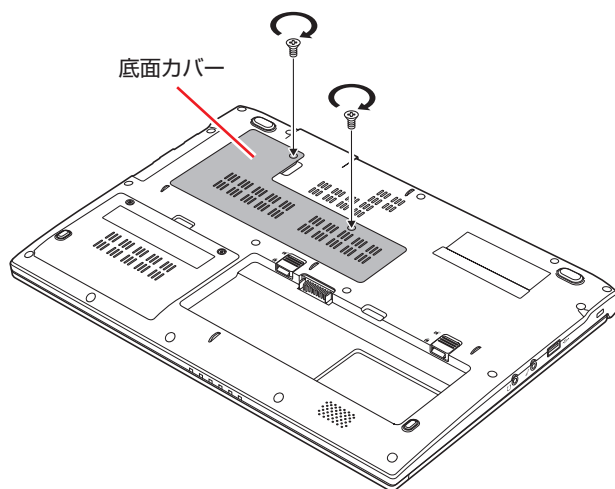


8 底面カバーを取り付けます。

- 1 底面カバーのツメ C を本体に合わせてはめ込みます。
- 2 ツメ A、ツメ B をはめ込みます。




9 底面カバーをネジ（2本）で固定します。



10 バッテリーを取り付けます。

 p.36 「バッテリーの交換方法」 **4**

11 本機の底面を下にして置きます。

12 **2** で取り外したケーブル類（AC アダプターなど）を接続します。
続いて  p.120 「メモリー取り付け・取り外し後の作業」を行います。

メモリー取り付け・取り外し後の作業

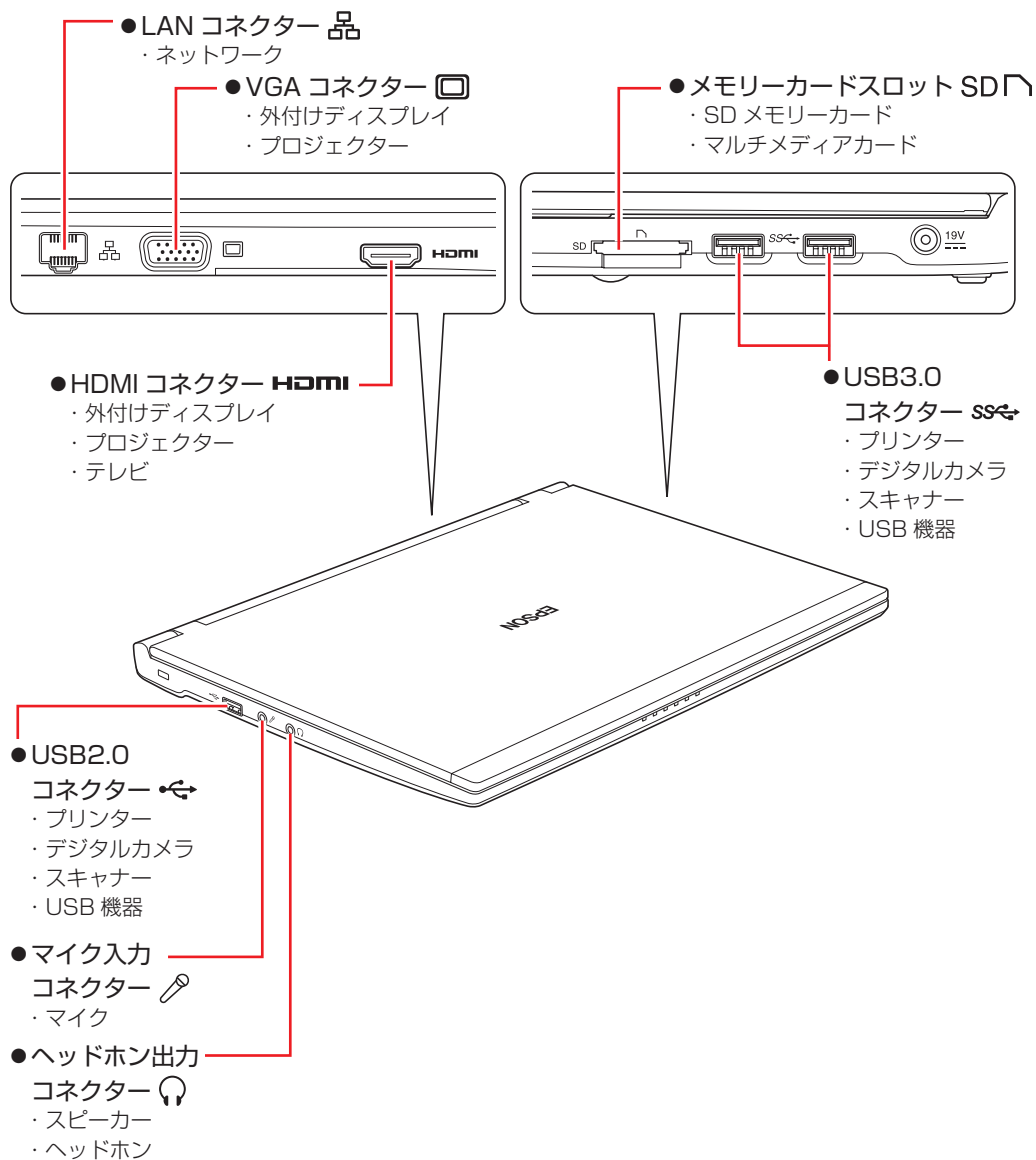
メモリーの取り付け・取り外しをしたら、メモリーが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリーの容量を確認します。

メモリー容量の確認方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **F2** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
- 2** 「Main」メニュー画面－「System Memory」でメモリー容量を確認します。
メモリー容量が正しく表示されない場合は、メモリーが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリーを正しく取り付けなおしてください。
- 3** **F10** を押して UEFI Setup ユーティリティを終了します。

外付け可能な周辺機器

本機のポートやコネクタには、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。



その他の接続可能な周辺機器

本機では、ケーブルを介さずに次の機器が接続できます。

- ・無線 LAN 対応機器（無線 LAN 機能搭載時のみ機能）
- ・Bluetooth 対応機器（Bluetooth 機能搭載時のみ機能）
- ・インテル WiDi 対応ディスプレイ（無線 LAN 機能搭載時のみ機能）



3

UEFI の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「UEFI」の設定を変更する方法について記載しています。

UEFI の設定を始める前に.....	124
UEFI Setup ユーティリティーの操作.....	125
UEFI Setup ユーティリティーの設定項目.....	138

UEFI の設定を始める前に



当社製以外の UEFI を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の UEFI へのアップデートは絶対に行わないでください。

UEFI は、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

UEFI の設定は「UEFI Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。UEFI の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合


UEFI の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

UEFI Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



リチウム電池の寿命

UEFI Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、AC アダプターやバッテリーからの電力供給がまったくない場合、電池の寿命は約 5 年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。

 **別冊** 『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、設定値を戻すことができます。

 p.130 「Load Setup Defaults (UEFI の初期値に戻す)」

UEFI Setup ユーティリティの操作

ここでは、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

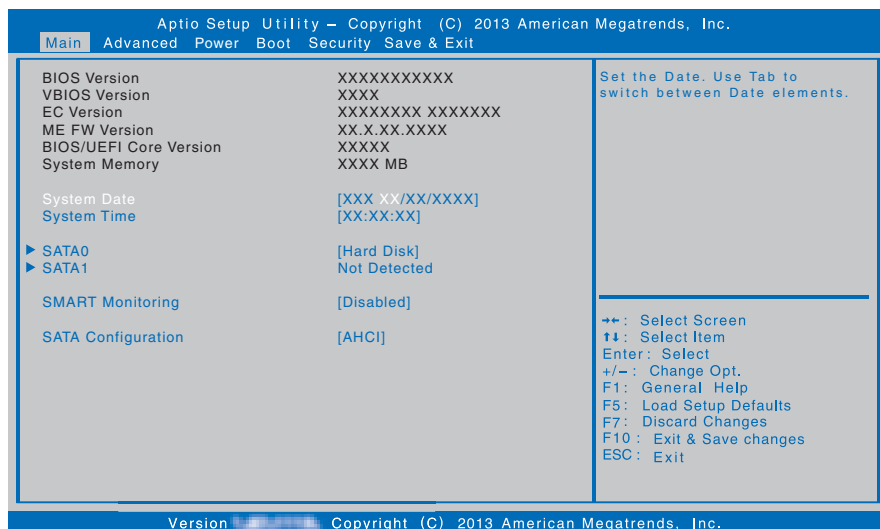
- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDD/SSD アクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

UEFI Setup ユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[F2]** の位置を確認してください。 **1** では、すばやく **[F2]** を押す必要があります。

1 本機の電源を入れ、すぐに **[F2]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
Windows が起動してしまった場合は、再起動してやり直してください。

2 「UEFI Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



< UEFI Setup ユーティリティ画面（イメージ） >

UEFI Setupユーティリティの操作

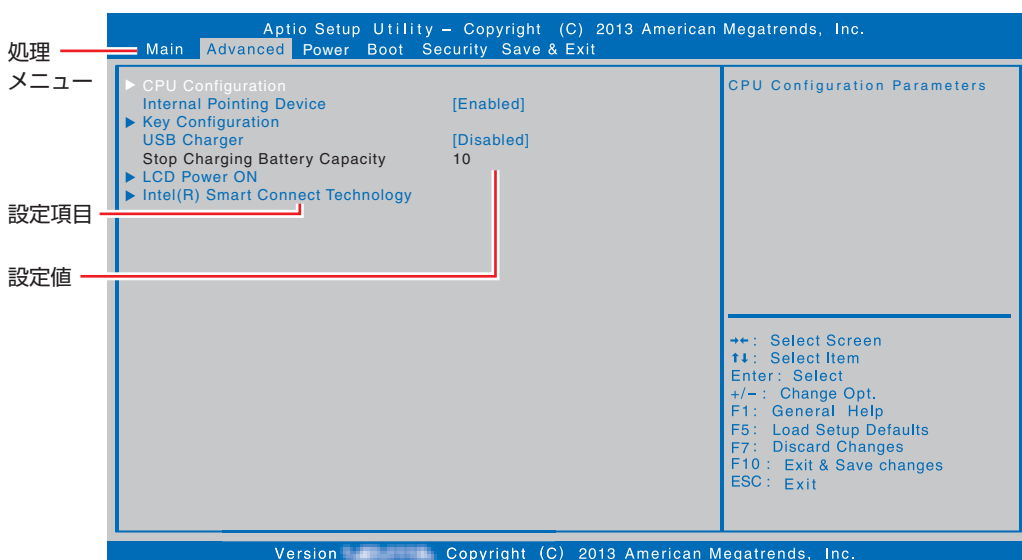
「UEFI Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

ここで説明している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。

各メニュー画面と設定項目の説明は、[👉](#) p.138 「UEFI Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の構成

UEFI Setup ユーティリティには、処理メニューに表示された「メニュー画面」と、設定項目によって表示される「サブメニュー画面」、設定値を変更する際に表示される「選択ウィンドウ」があります。



<メニュー画面>

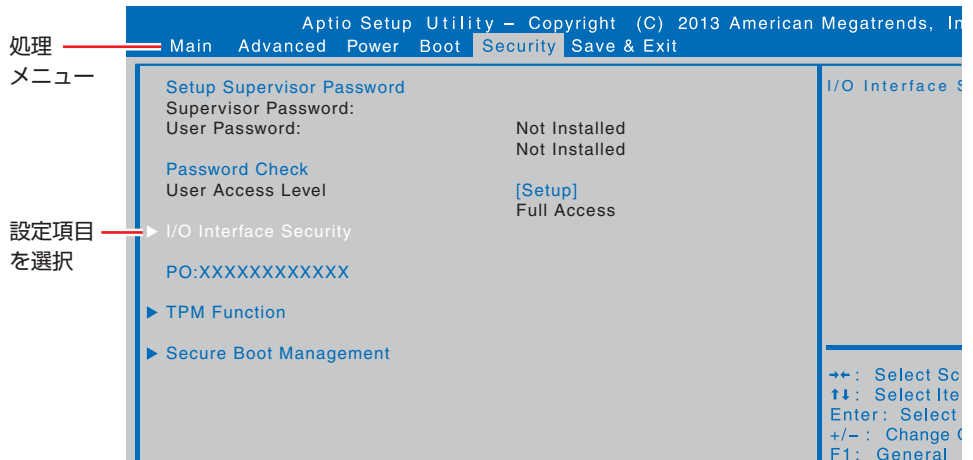
操作方法

UEFI Setup ユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 変更したい設定項目のあるメニューを、処理メニューから選択し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

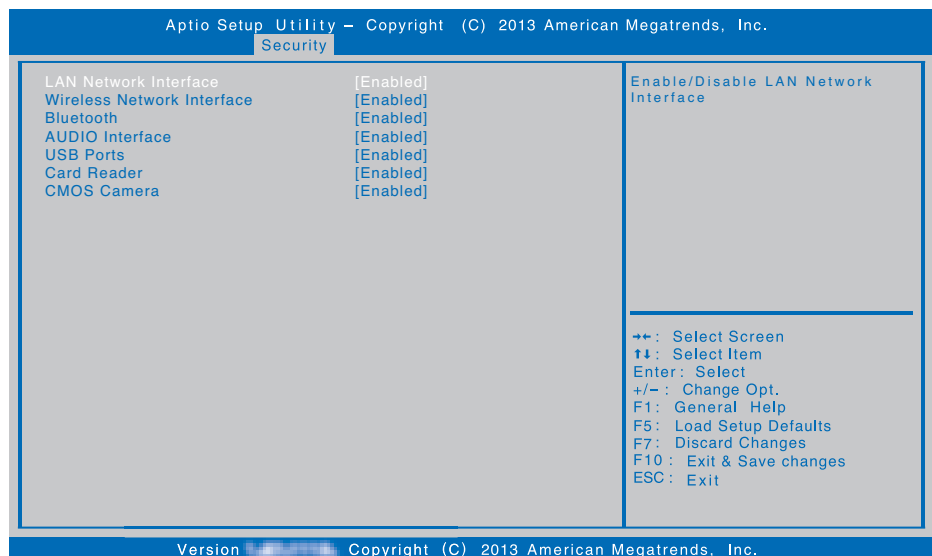


<メニュー画面>

サブメニュー画面

設定項目によっては、← を押すとサブメニュー画面が表示される場合があります。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



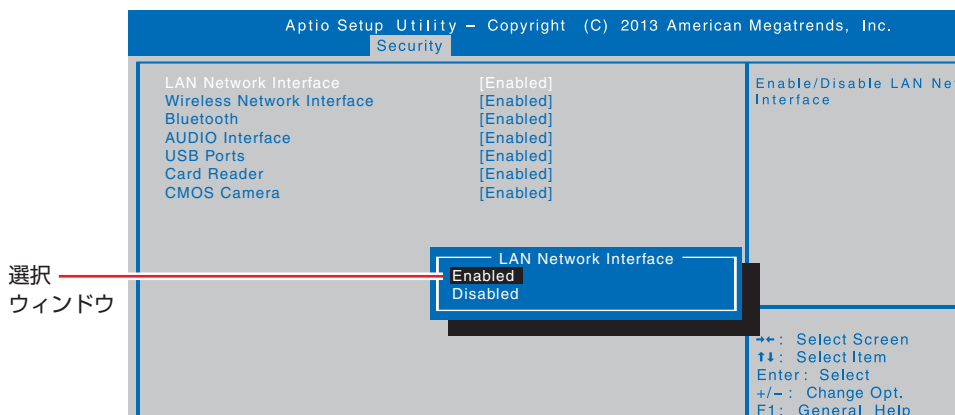
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面からメニュー画面に戻るには、[Esc] を押します。



2 設定値を変更します。

◀ を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ◀ で決定します。



キー操作

UEFI の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">変更した内容を破棄し、終了します。サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
Fn + - (P) / Fn + + (:)	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none">サブメニュー画面を表示します。選択項目の選択ウィンドウを表示します。設定値を選択します。
F1	ヘルプを表示します。
F5	全設定項目の値を、UEFI の初期値に戻します。
F7	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

UEFI Setupユーティリティの終了

「UEFI Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save changes（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Save & Exit」メニュー画面 - 「Exit & Save changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save & reset	
Save configuration and reset?	
Yes	No

- 2 **[Yes]** を選択し、**[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

Exit & Discard Changes（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **[Esc]** を押す、または「Save & Exit」メニュー画面 - 「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のいずれかのメッセージが表示されます。

[Esc] を押した場合

Exit Without Saving	
Quit without saving?	
Yes	No

「Exit & Discard Changes」を選択した場合

Reset without saving	
Reset without saving?	
Yes	No

- 2 **[Yes]** を選択し、**[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

設定値を元に戻す

「UEFI Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、設定値をUEFIの初期値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (UEFIの初期値に戻す)

設定値をUEFIの初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※「Security」メニュー画面のパスワードに関する設定は、初期値に戻すことができません。

- 1 **F5** を押す、または「Save & Exit」メニュー画面 - 「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load optimized Defaults	
Load Optimized Defaults?	
Yes	No

- 2 **[Yes]** を選択し、**↵** を押します。
これで設定値が「UEFIの初期値」に戻ります。

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

前回保存した設定値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F7** を押す、または「Save & Exit」メニュー画面 - 「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Previous Values	
Load Previous Values?	
Yes	No

- 2 **[Yes]** を選択し、**↵** を押します。
これで設定値が「前回保存した設定値」に戻ります。

Load Setup User Define (ユーザー設定値に戻す)

「Save User Define」で任意のユーザー設定値を保存しておくこと、以下の手順でユーザー設定値に戻すことができます。

- 1 「Save & Exit」メニュー画面 - 「Load Setup User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Restore User Define	
Restore User Define?	
Yes	No

- 2 「Yes」を選択し、 を押します。
これで設定値が「ユーザー設定値」に戻ります。

パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、UEFI や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。

パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき

パスワードの種類

パスワードには次の 2 種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法を説明します。



設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、UEFI の設定変更や、設定によっては Windows の起動ができなくなります。

パスワードの設定方法は、次のとおりです。

- 1** 「Security」メニュー画面 – 「Setup Supervisor Password」あるいは「Set User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

— Create New Password —


- 2** パスワードを入力します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 20 文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3**  を押すと、次のメッセージが表示されます。もう一度同じパスワードを入力し、 を押します。


— Confirm New Password —

同じパスワードを入力しないと、「ERROR」というメッセージが表示されます。[OK] が選択された状態で  を押し、**1** からやりなおしてください。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」あるいは「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

パスワード入力タイミングの設定

UEFI Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.142 「Security メニュー画面」 – 「Password Check」

パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。

- 1 「Security」メニュー画面 – 「Setup Supervisor Password」あるいは「User Password」を選択して を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Current Password

- 2 設定しているパスワードを入力して を押すと、次のメッセージが表示されます。

Create New Password

- 3 何も入力せずに を押すと、次のメッセージが表示されます。

WARNING	
Clear Old Password. Continue?	
Yes	No

- 4 [Yes] を選択し、 を押します。
「Supervisor Password」または「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これでパスワードが削除されました。

HDD/SSDアクセス制限

HDD/SSD アクセス制限のパスワードを設定すると、次の状態になります。

- UEFI や Windows 起動時、休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要になる
- HDD/SSD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されない

HDD/SSD への無断アクセスや、万が一 HDD/SSD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD/SSD アクセス制限のパスワードを設定します。

HDD/SSD アクセス制限の設定方法

HDD/SSD アクセス制限のパスワード設定方法は次のとおりです。



パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD/SSD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

- 1** 本機の電源を切り、シャットダウン状態から本機を起動します。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD/SSD アクセス制限は設定できません。
必ずシャットダウンしてから設定を行ってください。
- 2** 本機の電源を入れ、すぐに **[F2]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して、「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
Windows が起動してしまった場合は、再度 **1** からやり直してください。
- 3** 管理者パスワードを設定します。
 p.132 「パスワードの設定方法」
- 4** 「Security」メニュー画面 – 「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。
 p.142 「Security メニュー画面」
- 5** **[F10]** を押して、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
 p.129 「UEFI Setup ユーティリティの終了」
- 6** Windows が起動したら、本機の電源を切ります。
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

解除方法

HDD/SSD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切り、シャットダウン状態から本機を起動します。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD/SSD アクセス制限は設定できません。
必ずシャットダウンしてから設定を行ってください。

- 2** 本機の起動直後、すぐに **[F2]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して、「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。

HDD/SSD アクセス制限のパスワードを要求されるので、HDD/SSD アクセス制限のパスワードを入力します。

Windows が起動してしまった場合は、再度 **1** からやり直してください。

- 3** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。

 p.132 「パスワードの設定方法」

- 4** **[F10]** を押して、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

 p.129 「UEFI Setup ユーティリティの終了」

- 5** Windows が起動したら、本機の電源を切ります。

最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。


起動(Boot)デバイスの順番を変更する

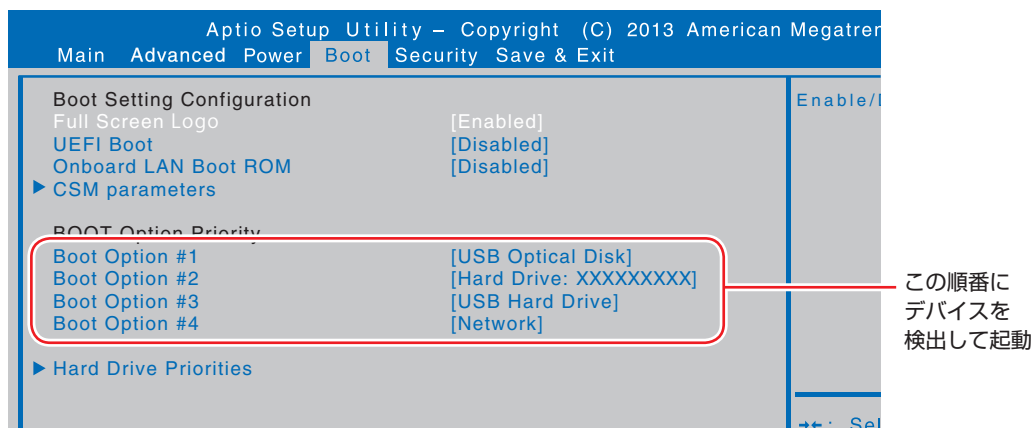
USB記憶装置(USBフラッシュメモリーやUSB HDD/SSDなど)からWindowsを起動したい場合、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定されている起動(Boot)デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動(Boot)デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム(WindowsなどのOS)から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「BOOT Option Priority」で行います。

 p.141 「Bootメニュー画面」



<イメージ>

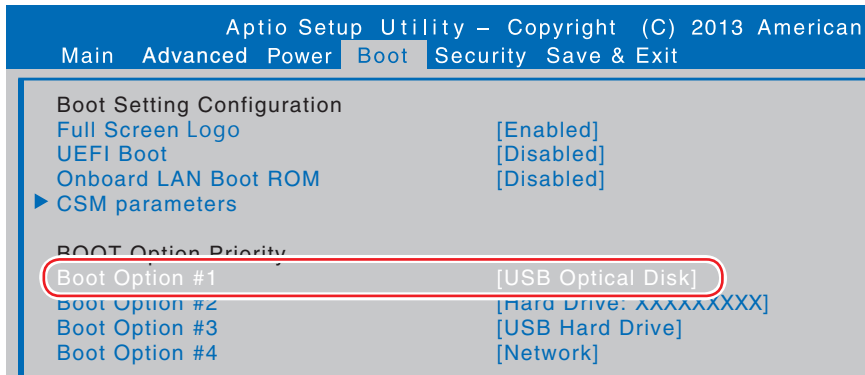
順番の初期値は次のとおりです。

- 1 番目：USB Optical Disk (USB 光ディスクドライブ)
- 2 番目：Hard Disk (内蔵 HDD または内蔵 SSD)
- 3 番目：USB Hard Disk (USB HDD)
- 4 番目：Network (ネットワーク)

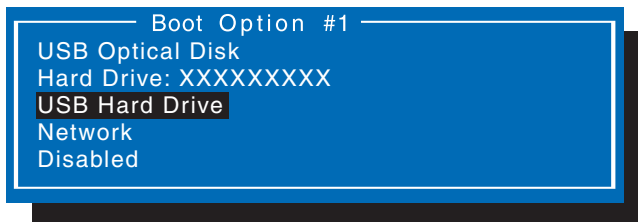
起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは、接続したUSBハードディスクドライブを1番目に設定する方法を説明します。

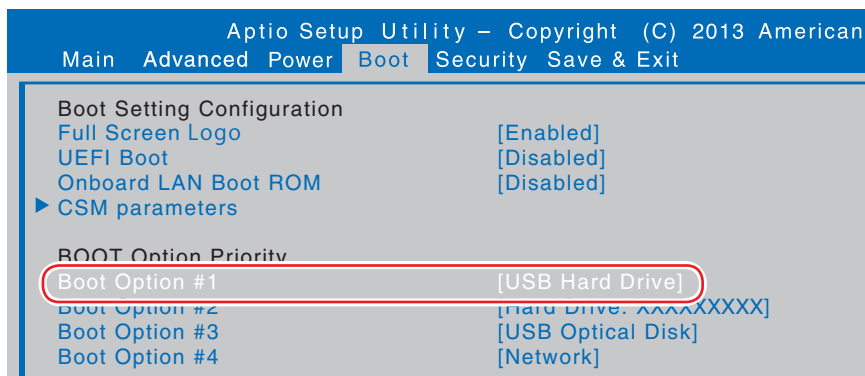
- 1 「Boot」メニュー画面 – 「BOOT Option Priority」の「Boot Option #1」を選択し、 を押します。



- 2 「選択」ウィンドウが表示されたら、  で「USB Hard Drive」を選択し、 を押します。



起動デバイスで、USBハードディスクドライブの順番が1番目になります。



- 3  を押してUEFI Setupユーティリティを終了します。

 p.129 「UEFI Setup ユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOSモードとUEFIモード

本機は、Windows 7 が動作するよう、BIOS モードに設定されています。

- 「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot Management」 - 「Secure Boot」: [Disabled]
- 「Boot」メニュー画面 - 「Boot Settings Configuration」 - 「UEFI Boot」: [Disabled]

Windows 8.1 などの OS は、UEFI モードで使用します。

- 「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot Management」 - 「Secure Boot」: [Enabled]
- 「Boot」メニュー画面 - 「Boot Settings Configuration」 - 「UEFI Boot」: [Enabled]

※ Windows 8.1 などの OS を BIOS モードで使用した場合は、使用できない機能があります。

<使用できない機能例>

- Secure Boot
- Seamless Boot

UEFI Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、UEFI Setup ユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。UEFI Setup ユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Main メニュー画面
HDD/SSD のモードや日付、時間などの設定を行います。
- Advanced メニュー画面
CPU の機能、キーの入れ替えなどの設定を行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面
システムの起動 (Boot) に関する設定を行います。
- Security メニュー画面
パスワードに関する設定や、マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。
- Save & Exit メニュー画面
UEFI Setup ユーティリティを終了したり、UEFI の設定値を初期値に戻します。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間などの設定を行います。設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

*BIOS Version	本機に搭載されている BIOS のバージョンを表示します。
*VBIOS Version	VBIOS のバージョンを表示します。
*EC Version	EC のバージョンを表示します。
*ME FW Version	ME FW のバージョンを表示します。
*BIOS/UEFI Core Version	Core のバージョンを表示します。
*System Memory	メモリー容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Date	日付を設定します。(曜日 / 月 / 日 / 年)
System Time	時刻を設定します。(時間 : 分 : 秒)
SATA0	本機に搭載されている HDD/SSD の設定をします。
SATA1	※表示される詳細項目は、HDD/SSD により異なります。
*Serial ATA0	SATA ポート番号を表示します。
*Serial ATA1	
*DEVICE	HDD/SSD の種類を表示します。
*Model name	HDD/SSD の型番を表示します。
*SIZE	HDD/SSD の容量を表示します。
*F/W	ファームウェアのバージョンを表示します。
SATA0	SATA port の設定を行います。
SATA1	Auto : 接続されたデバイスを自動で認識します。 Not Installed : デバイスが接続されても認識しません。


Smart Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) の状態 Enabled : 使用します。 Disabled : 使用しません。
SATA Configuration	シリアル ATA HDD/SSD のモードを表示します。 AHCI : AHCI モードで動作します。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUの機能や、キーの入れ替えなどの設定を行います。設定項目は、次のとおりです。


■ は初期値
* は項目表示のみ

CPU Configuration	本機に搭載されている CPU の設定をします。
*CPU の型番	
*Processor Speed	CPU の周波数を表示します。
*FSB Speed	FSB の周波数を表示します。
EIST	EIST (Enhanced Intel SpeedStep Technology) の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
xD bit	CPU のメモリー保護機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Hyper Threading Technology ※ 機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	ハイパースレッディング機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Virtualization Technology ※ 機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	Intel Virtualization Technology の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Turbo Boost Technology ※ 機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	ターボブースト機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Internal Pointing Device	本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled : 使用しません。
Key Configuration	キーボードの左下側にある Ctrl と、その隣にある Fn の機能を入れ替えるかどうかを設定します。
Exchange L-Ctrl & L-Fn key	Enabled : Ctrl と Fn の機能を入れ替えます。 Disabled : Ctrl と Fn の機能を入れ替えません。
USB Charger	本機右側面、AC アダプターコネクタ側の USB3.0 コネクタで、USB 充電機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled : 使用しません。
Stop Charging Battery Capacity ※ 「USB Charger」を [Enabled] にすると、設定可能になります。	USB 充電機能使用時に、電力供給を中止するバッテリー残量の値を設定します。 10 : バッテリー残量が 10%に低下すると、電力供給を中止します。 10 (初期値) ~ 100 の範囲で数値を入力し ↵ を押し、値を変更することができます。

LCD Power ON	LCD ユニットの開いたときに本機の電源を ON にする機能の有効、無効をサブメニューで設定します。
LCD Power ON From S5/S4	電源 OFF や休止状態で、LCD ユニットの開いたときに本機の電源を ON にする機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled：使用します。 Disabled：使用しません。
LCD Power ON From S3	スリープ状態で、LCD ユニットの開いたときに本機の電源を ON にする機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled：使用します。 Disabled：使用しません。
Intel(R) Smart Connect Technology	スリープ状態でも電子メールやアプリケーションなどを自動更新できる機能「インテル スマート・コネクト・テクノロジー」の設定をします。  p.79 「インテル スマート・コネクト・テクノロジーを使う」
ISCT Configuration	インテルスマートコネクトテクノロジーを使用するかどうかを設定します。 Disabled：使用しません。 Enabled：使用します。
Limited Battery Capacity	バッテリーが何パーセントになったらインテルスマートコネクトテクノロジーを停止するかを 40%～ 90% の範囲で設定します。 初期値は「Disabled」です。

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

 は初期値
*は項目表示のみ

APM Configuration	本機の起動に関する設定をします。
Power On by RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
RTC Alarm Date/Hour/Minute/Second ※ 「Power On By RTC Alarm」を [Enabled] にすると、設定可能になります。	起動する日時を設定します。 起動日を毎日にした場合は、「RTC Alarm Date」を「0」に設定します。
Wake up from S5	シャットダウン状態からの Wake on LAN の有効 / 無効を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
 起動の順番の変更方法については、[p.135「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」](#)をご覧ください。
 設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
 *は項目表示のみ

Boot Setting Configuration	コンピューター起動時の設定をします。
Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。 Enabled : 表示します。 Disabled : 表示しません。
UEFI Boot	Windows 7 の場合は、初期値 [Disabled] で使用します。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効 / 無効を設定します。 Enabled : 有効にします。 Disabled : 無効にします。
CSM parameters	CSM モード時のパラメーター設定をします。
Launch CSM	CSM の状態が表示されます。 初期値のままで使用します。
Boot Option filter	初期値のままで使用します。
Launch PXE OpROM policy	初期値のままで使用します。
Launch Storage OpROM policy	初期値のままで使用します。
Launch Video OpROM policy	初期値のままで使用します。
Other PCI device ROM priority	初期値のままで使用します。
BOOT Option Priority	ドライブの起動順番を設定します。
BOOT Option #1	1 番目に起動するドライブを設定します。 初期値 : USD Optical Disk
BOOT Option #2	2 番目に起動するドライブを設定します。 初期値 : Hard Drive
BOOT Option #3	3 番目に起動するドライブを設定します。 初期値 : USB Hard Drive
BOOT Option #4	4 番目に起動するドライブを設定します。 初期値 : Network
Hard Drive Priorities	HDD と SSD の両方が搭載されているときに、どちらのデバイスを優先するかを設定をします。
Boot Option #1 . . .	P0 : HDD の型番 P1 : SSD の型番 Disabled : 接続された HDD/SSD を使用しません。

Securityメニュー画面


「Security」メニュー画面では、パスワードに関する設定や、マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。

設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値

*は項目表示のみ

Setup Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。
Set User Password ※ 管理者パスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。
*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかが表示されます。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
Password Check	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「UEFI Setup ユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「UEFI Setup ユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
User Access Level ※ ユーザーパスワードを設定すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「UEFI Setup ユーティリティ」にアクセスするときのアクセスレベルを設定します。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「UEFI Setup ユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「UEFI Setup ユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
I/O Interface Security	ネットワークや外部機器のセキュリティーの設定をします。
LAN Network Interface	有線 LAN を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。
Wireless Network Interface ※ 無線 LAN 機能搭載時のみ表示されます。	無線 LAN を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。
Bluetooth ※ Bluetooth 機能搭載時のみ表示されます。	Bluetooth を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。
AUDIO Interface	サウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。
USB Ports	USB 機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。
Card Reader	カードリーダーを使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。
CMOS Camera	カメラ機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。

*PO : HDD の型番	HDD が接続されているときに、HDD の型番を表示します。
*P1 : SSD の型番	SSD が接続されているときに、SSD の型番を表示します。
Hard Disk Protection ※ 管理者パスワードを設定すると表示されます。	HDD/SSD へのアクセス制限を設定します。  p.134 「HDD/SSD アクセス制限」 Disabled : HDD/SSD へのアクセスを制限しません。 Enabled : HDD/SSD へのアクセスを制限します。
TPM Function	システムのセキュリティー機能の設定をします。
Trusted Platform Module	セキュリティー機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Clear Trusted Platform Module	TPM の設定を初期化するかどうかを設定します。 No : 初期化しません。 Yes : 初期化します。
*TPM Enabled Status:	TPM が有効になっているか、無効になっているかの情報を表示します。
*TPM Active Status:	TPM が動作しているかどうかの情報を表示します。
*TPM Owner Status:	TPM のオーナー情報を表示します。
Secure Boot Management	セキュアブートの設定をします。
*System Mode State	システムモードの状態が表示されます。 User : セキュアブートのキーが適用されています。 Setup : セキュアブートのキーが適用されていません。
*Secure Boot State	セキュアブートの状態が表示されます。 Active : セキュアブートが適用されています。 Not Active : セキュアブートが適用されていません。
Secure Boot	セキュアブートの設定をします。 Windows 7 の場合は [Disabled] で使用します。
Manage All Factory keys	セキュアブートのキーを管理します。
Default Key Provision	初期値のままで使用します。
Install Default Secure Boot Keys ※「Default Key Provision」を [Disabled] に設定したときのみ表示されます。	初期値のままで使用します。
Clear Secure Boot Keys ※「Default Key Provision」を [Enabled] に設定したときのみ表示されます。	初期値のままで使用します。
*Platform Key (PK)	初期値のままで使用します。
*Key Exchange Key Database (KEK)	初期値のままで使用します。
*Authorized Signature Database (DB)	初期値のままで使用します。
*Forbidden Signature Database (DBX)	初期値のままで使用します。

Save & Exitメニュー画面

「Save & Exit」メニュー画面では、UEFI Setup ユーティリティを終了したり、設定を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	UEFI Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	「Security」メニューのパスワード以外の設定を、初期値に戻します。
Save User Define	UEFI の設定値をユーザー設定値として保存します。
Load Setup User Define ※「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。	設定値をユーザー設定値に戻します。

UEFIの設定値

UEFI Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Mainメニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
SATA0	SATA0	Auto	Not Installed	Auto	Not Installed
	Smart Monitoring	Disabled	Auto	Disabled	Auto
SATA1	SATA1	Auto	Not Installed	Auto	Not Installed
	Smart Monitoring	Disabled	Auto	Disabled	Auto

Advancedメニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	EIST	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	xD bit	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Turbo Boost Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Internal Pointing Device		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Key Configuration	Exchange L-Ctrl & L-Fn key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
USB Charger		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Stop Charging Battery Capacity		10			
LCD Power ON	LCD Power ON From S5/S4	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	LCD Power ON From S3	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Intel(R) Smart Connect Technology	ISCT Configuration	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Limited Battery Capacity	20%			

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
APM Configuration	Power On by RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	RTC Alarm Date/Hour/Minute/Second	0			
	Wake up from S5	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定			変更内容		
Boot Setting Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	UEFI Boot	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
BOOT Option Priority	BOOT Option #1						
	BOOT Option #2						
	BOOT Option #3						
	BOOT Option #4						
Hard Drive Priorities	Boot Option #1	PO	P1	Disabled	PO	P1	Disabled
	Boot Option #2	PO	P1	Disabled	PO	P1	Disabled

Security メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Setup Supervisor Password					
Set User Password					
Password Check		Setup	Always	Setup	Always
User Access Level		View Only	Full Access	View Only	Full Access
I/O Interface Security	LAN Network Interface	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Wireless Network Interface	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Bluetooth	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	AUDIO Interface	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	USB Ports	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Card Reader	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	CMOS Camera	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Hard Disk Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
TPM Function	Trusted Platform Module	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Clear Trusted Platform Module	No	Yes	No	Yes
Secure Boot Management	Secure Boot	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Manage All Factory keys	Default Key Provision	Disabled	Enabled	Disabled



4

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールの前に.....	148
Windows のインストール.....	151
ドライバー / ソフトウェアのインストール.....	157
再インストール後の作業.....	160

再インストールの前に

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に必要な情報を記載しています。

再インストールとは

本書では、HDD/SSD をフォーマットして、Windows や本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、「再インストール」と記載します。

再インストールは、「リカバリー」とも言います。

再インストールが必要な場合

再インストールは、なんらかの原因で Windows が起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合に行います。通常は必要ありません。



参考

HDD/SSD 領域の変更

HDD/SSD 領域の変更は、再インストールをしなくても、Windows の「ディスクの管理」で行うことができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。

p.185 「HDD/SSD 領域の変更」

Windows を修復する

なんらかの原因で Windows が起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows 回復環境」で Windows の修復を行ってみてください。再インストールしなくても問題が解決する場合があります。

p.174 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windows やソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」 - 「カテゴリから選ぶ」 - 「Windows の操作」
- 「バックアップ」 - 「システムイメージの作成」のデータを復元する方法」

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外の UEFI へのアップデート禁止

当社製以外の UEFI へのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外の UEFI にアップデートすると、再インストールができなくなります。

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

必要な機器とメディア

再インストールには、次の機器とメディアが必要です。

- 外付け光ディスクドライブ

本機には光ディスクドライブが搭載されていません。使用するメディアに応じた外付け光ディスクドライブを本機に接続してください。

- Windows 7 リカバリー DVD

Windows が収録されています。


- リカバリーツール CD

本体ドライバーやソフトウェアを、HDD/SSD の「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されています。

- そのほか必要なメディア

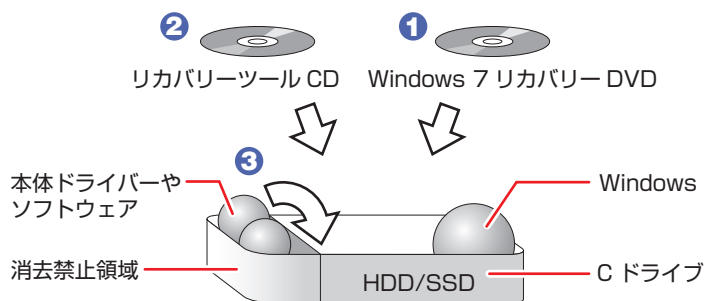
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバーやソフトウェアは HDD/SSD の消去禁止領域に収録されているため、専用のメディアは添付されていません。

 p.22 「添付されているソフトウェア」

再インストールの概要


ソフトウェア再インストールの概要は、次のとおりです。



- 1 Windows 7 リカバリー DVD から、Windows をインストールします。
- 2 リカバリーツール CD から、リカバリーツールをインストールします。
- 3 リカバリーツールを使用して、HDD/SSD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアをインストールします。

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、次の点を確認してください。

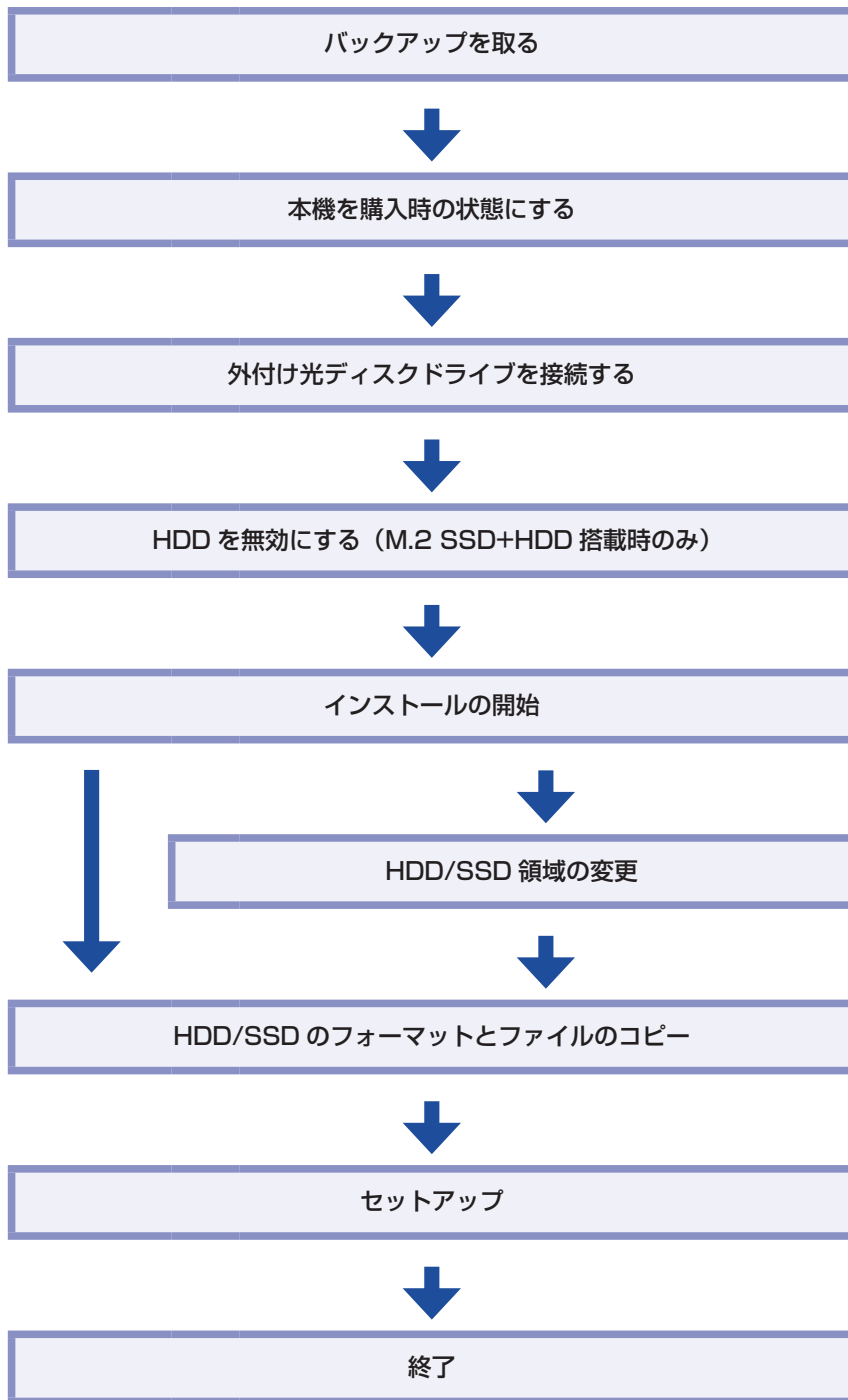
- AC アダプターの接続
インストール作業は、全般をとおして AC アダプターを接続して行ってください。
- 管理者 (Administrator) のアカウントでログオン
インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。
- システム構成
本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、UEFI の設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
- ドライブ名
本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
実際の光ディスクドライブのドライブ名は、HDD/SSD 領域の数によって異なります。
C ドライブ : HDD/SSD
D ドライブ : 外付け光ディスクドライブ
- 各種設定やデータのバックアップ
再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。
 p.152 「バックアップを取る」
- 初期設定ツール
初期設定ツールは、Windows を再インストールすると消去されます。
初期設定ツールでインストールしたソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

Windows のインストール

Windows のインストールについて説明します。

インストールの流れ

Windows のインストールの主な流れは次のとおりです。



バックアップを取る

Cドライブの設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。再インストールの前に、バックアップを行ってください。*

- ネットワークの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。

- Internet Explorerの「お気に入り」、Windows Liveメールの「アドレス帳」やメールアドレス



「PCお役立ちナビ」－「お役立ち」－「カテゴリから選ぶ」－『Windowsの操作』－「バックアップ」－「Windowsの転送ツールを使う」

このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- セキュリティーチップユーティリティの設定

セキュリティーチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。



「PCお役立ちナビ」－「マニュアルびゅう」－「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」－「Windowsを再インストールする前に」

- そのほか重要なデータ

- * 再インストール中にHDD/SSD領域の変更を行うと、Cドライブ以外のドライブ(DやEなど)のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。
HDD/SSD領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップすることをおすすめします。

本機を購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、UEFIの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

外付け光ディスクドライブを接続する

インストールに使用するメディアに応じた外付け光ディスクドライブを、本機に接続してください。

HDDを無効にする

M.2 SSD + HDD 搭載時

M.2 SSDとHDDが搭載されている場合は、再インストール中に順番が異なって表示されることによるデータの誤消去を防ぐため、HDD (SATA0) を一旦無効にします。

※ Windowsは、M.2 SSD (SATA1) にインストールします。

HDD (SATAO) を無効にする方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **[F2]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押して「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
- 2** 「Main」メニュー画面 - 「SATAO」を選択して **[↵]** を押します。
- 3** 「SATAO」のサブメニュー画面が表示されたら、「SATAO」が選択されている状態で **[↵]** を押します。
- 4** 「SATAO」の選択ウィンドウが表示されたら、「Not Installed」を選択して **[↵]** を押します。
- 5** **[F10]** を押して「UEFI Setup ユーティリティ」を終了します。
本機が再起動します。

Windows、ドライバー、ソフトウェアの再インストールが完了したら、HDD を有効「Auto」に戻してください。

Windows 7のインストール

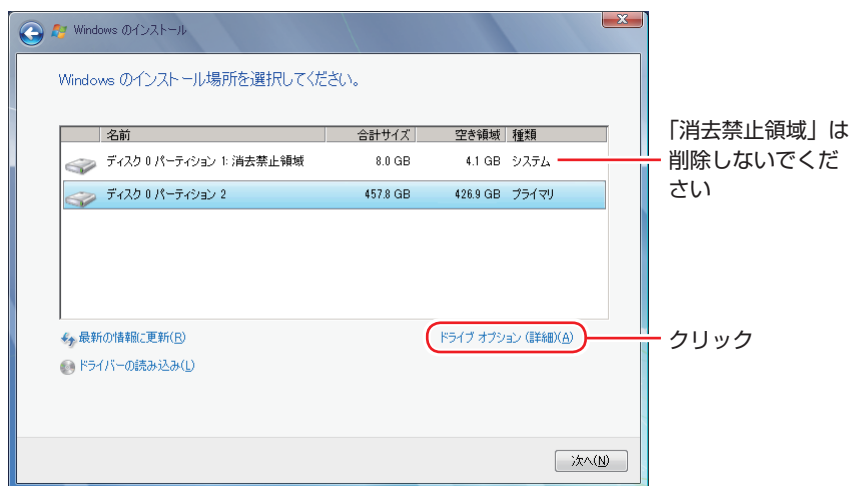
Windows 7 のインストール方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、「Windows 7 リカバリー DVD」を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら、**[X]** をクリックし、画面を閉じてください。
ここからはインストールを行いません。
- 2** 「スタート」 - 「[▷]」 - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD/SSD 内の Windows が起動してしまいます。
Windows が起動してしまった場合は、**2** へ戻ります。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 5** オペレーティングシステムの一覧画面が表示されたら、「Windows の起動に伴う…」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 6** ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されたら、パスワードを入力して「OK」をクリックします。
パスワードを設定していない場合は、そのまま「OK」をクリックします。



- 7 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windows の再インストール」をクリックします。
- 8 「インストールを開始しますか？」と表示されたら、[はい] をクリックします。
- 9 「インストールするオペレーティングシステムを選択してください」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 10 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。
- 11 「Windows のインストール場所を選択してください。」と表示されたら、「ドライブオプション (詳細)」をクリックします。

※「消去禁止領域」には、ドライバーやソフトウェアの再インストール用データが収録されています。絶対に削除しないでください。



<イメージ>

場合によって、次のとおり作業を続けます。

領域変更を行わない場合 (通常)

- 1 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。
- 2 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
フォーマットが開始されます。
- 3 フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。
「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。

Windows のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～ 40 分かかります。

12 の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。

領域変更を行う場合

- 1 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「削除」をクリックします。
- 2 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
削除したパーティション (C ドライブ) が「未割り当て領域」となります。
- 3 次のとおり作業を続けます。

C ドライブを分割したい場合

- (1) 「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
4 に進みます。

C ドライブの容量を増やしたい場合

すでに HDD/SSD が分割されている場合は、C ドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

- (1) そのほかのパーティションも C ドライブと同様に削除し、「ディスク 0 未割り当て領域」を増やします。
- (2) 「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
4 に進みます。
- 4 C ドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。
※ C ドライブの目安 : 80GB (80000MB) 以上
- 5 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で、[次へ] をクリックします。
Windows のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～ 40 分かかります。
12 の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。

- 12 「新しいアカウントのユーザー名と…」と表示されたら、ユーザー名、コンピューター名を入力し、[次へ] をクリックします。
※ユーザー名、コンピューター名は半角英数字を入力してください。
- 13 「ユーザーアカウントのパスワードを設定します」と表示されたら、パスワード (任意) を入力し、[次へ] をクリックします。
- 14 「コンピューターの保護と…」と表示されたら、更新の設定をクリックして選択します。
「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。



- 15** 「日付と時刻の設定を確認します」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、[次へ] をクリックします。
- 16** ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピューターの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。
- 17** Windows のデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows 7 リカバリー DVD」を光ディスクドライブから取り出します。



これで Windows 7 のインストールは完了です。
続いて、ドライバーやソフトウェアをインストールします。
[👉](#) p.157 「ドライバー / ソフトウェアのインストール」




参考

領域変更を行ったら

Windows のインストール中に領域変更を行った場合は、すべてのインストール作業が終わった後で、「未割り当て領域」をドライブにします。

[👉](#) p.160 「ドライブを作成する」

ドライバー / ソフトウェアのインストール

Windows をインストールしたら、次の順番でソフトウェアやドライバー類をインストールします。
※ インストールには、外付けの光ディスクドライブが必要です。
購入時のインストール状態は、 p.22 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

リカバリーツールのインストール

HDD/SSD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアをインストールするためのツール「リカバリーツール」をインストールします。
リカバリーツールのインストール方法は、次のとおりです。

- 1** 「リカバリーツール CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリーツール」アイコンが表示されます。



<リカバリーツールアイコン>

- 4** 「リカバリーツール CD」を光ディスクドライブから取り出します。
- 5** Windows を再起動します。
これで「リカバリーツール」のインストールは完了です。

リカバリーツールからインストールする

次のドライバーやソフトウェアは、リカバリーツールを使用してインストールします。

- 本体ドライバー
 - ・インテル スマート・コネクト・テクノロジー
- インテル WiDi ソフトウェア（無線機能搭載時）
- PC お役立ちナビ
- 標準アプリケーション
 - ・ Adobe Reader
 - ・ Endeavor 電源プラン設定ツール
 - ・ Internet Explorer 11
 - ・ Windows Essentials
 - ・ i-フィルター 30 日版
 - ・ ウイルスバスター クラウド 90 日版
 - ・ Skype
 - ・ ネットワーク切替えツール
 - ・ セキュリティーチップユーティリティ *

- * セキュリティーチップユーティリティは、セキュリティーチップ（TPM）のセキュリティー機能を使用していた場合にのみ、インストールします。詳しくは、次をご覧ください。



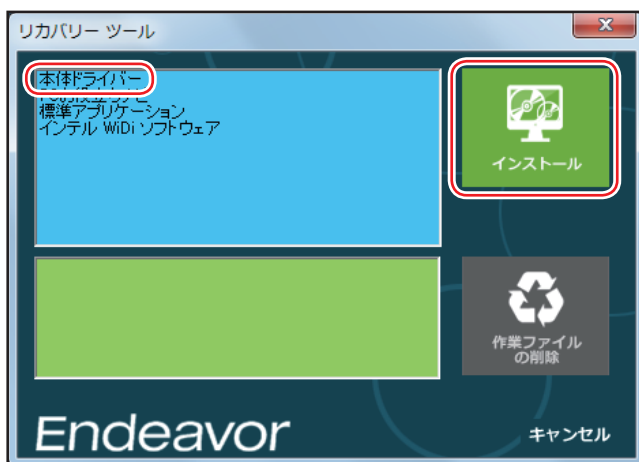
「PC お役立ちナビ」－「マニュアルびゅう」－「セキュリティー機能（TPM）設定ガイド」－「Windows の再インストール後の作業」

リカバリーツールからドライバーやソフトウェアをインストールする方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** ドライバーやソフトウェアの一覧が表示されたら、インストールする項目を選択して [インストール] をクリックします。

※最初は必ず「本体ドライバー」をインストールしてください。

※「インテル スマート・コネクト・テクノロジー」をインストールする場合は、「本体ドライバー」を選択します。



<イメージ>

- 5** 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

本体ドライバーの場合

「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックしてください。インストールが完了したら、[PC 再起動] をクリックして、コンピューターを再起動します。

標準アプリケーションの場合

「アプリケーションのインストール」画面が表示されたら、インストールする項目をクリックしてください。

Windows Essentials の場合

「インストールするプログラムの選択」と表示されたら、「インストールする製品の選択」をクリックしてください。製品の一覧が表示されたら、そのまま [インストール] をクリックすると、購入時と同じ製品がインストールされます。



参考

リカバリーツールの [ファイル削除] の表示について

リカバリーツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的に HDD/SSD にインストール用データをコピーします。「リカバリーツール」画面で [ファイル削除] が黒字で表示される場合は、コピーされた不要なインストール用データが HDD/SSD に残っています。[ファイル削除] をクリックしてデータを削除すると、HDD/SSD の容量を節約することができます。

そのほかのメディアからインストールする

お使いのシステム構成によって、必要なドライバーやユーティリティー、ソフトウェアをインストールします。インストールは、機器やソフトウェアのメディアを使用して行ってください。

- マウスユーティリティー
- プリンターのドライバー
- デジタルカメラのソフトウェア

など



参考

ATOK のインストール

ATOK 無償試用版 (30 日間) は、下記のページからダウンロードしてください。

<http://www.atok.com/try/>

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

HDDを有効にする

M.2 SSD + HDD 搭載時

再インストールの前に、一旦無効にした HDD (SATA0) を有効「Auto」に戻します。

 p.152 「HDD を無効にする」



参考

ドライブレターの変更

再インストールで HDD のドライブレターが変わってしまった場合は、設定しなおすことができます。ドライブレターの変更方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」 - 「便利な使い方」 - 「Windows システムの操作」 - 「ドライブレターを変更する」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

- Internet Explorer、Windows Live メール のデータ




「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」 - 「カテゴリから選ぶ」 - 「Windows の操作」 - 「バックアップ」 - 「Windows 転送ツールを使う」

- そのほか重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

ドライブを作成する

Windows のインストール中に HDD/SSD 領域を変更した場合、「未割り当て領域」はそのままでは使用できません。Windows の「ディスクの管理」でドライブを作成すると、使用できるようになります。ドライブの作成方法は、次の場所をご覧ください。

 p.188 「HDD/SSD 領域の変更 (拡張 / 縮小 / 削除 / 作成)」 - 「ドライブを作成する場合」

ネットワークの設定

再インストールを行う前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークの設定を行います。

Windows/UEFI/ドライバー/ソフトウェアをアップデートする

Windows やドライバー、ソフトウェアなどは、アップデートして最新の状態でお使いください。
※ アップデートをするにはインターネットへの接続が必要です。


●Windows

自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、最新の状態になります。

 p.97 「インターネットを使用する際のセキュリティー対策」

●UEFI、ドライバー

最新のUEFI やドライバーは、下記の場所からダウンロードできます。


 「PC お役立ちナビ」－ 画面右下 [ダウンロード]

●ソフトウェア

アップデート方法は、ソフトウェアのヘルプやマニュアルをご覧ください。

最新のドライバーを入手する

当社ユーザーサポートページでは、本機の最新ドライバーを提供しています。必要に応じ、ダウンロードしてご利用ください。

 「PC お役立ちナビ」－ 画面下 [ダウンロード]



5

困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら.....	164
起動・画面表示できないときは.....	166
トラブル時に効果的な対処方法.....	170

トラブルが発生したら

困ったとき、トラブルが発生したときは、次のように対処方法を探してください。

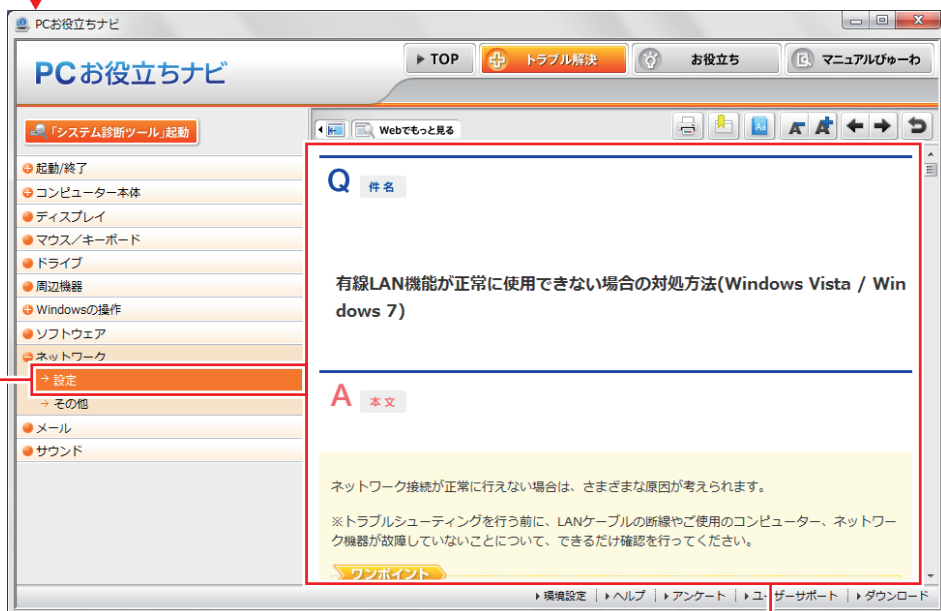
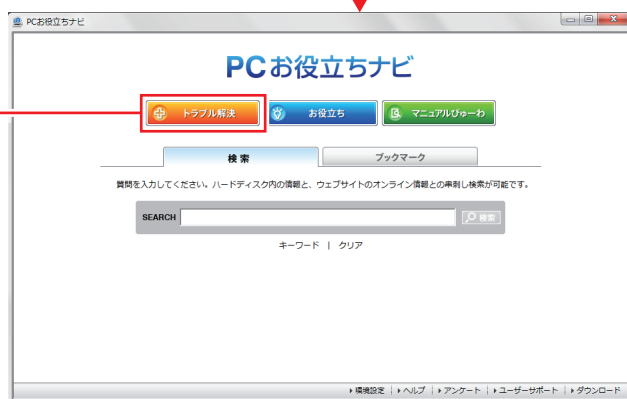
起動・画面表示できる場合…PCお役立ちナビで調べる

コンピューターを起動、画面表示できる場合は、「PC お役立ちナビ」の「トラブル解決」で対処方法を探してください。



ダブルクリック

<PC お役立ちナビアイコン>



トラブルの種類を選択します

候補の中から見たい項目を選択すると、内容が表示されます

システム診断ツール

「PC お役立ちナビ」の「トラブル解決」には、システム診断ツールが搭載されています。

 p.176 「システム診断ツールを使う」



Windows のトラブルシューティングツール

Windows 7にはトラブルシューティングツールを集めたコーナーが用意されています。

「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「コンピューターの一般的な問題のトラブルシューティング」



トラブルシューティングツールの一覧が表示されたら、トラブルに応じたツールをクリックして、トラブルシューティングを行ってください。


起動・画面表示できない場合

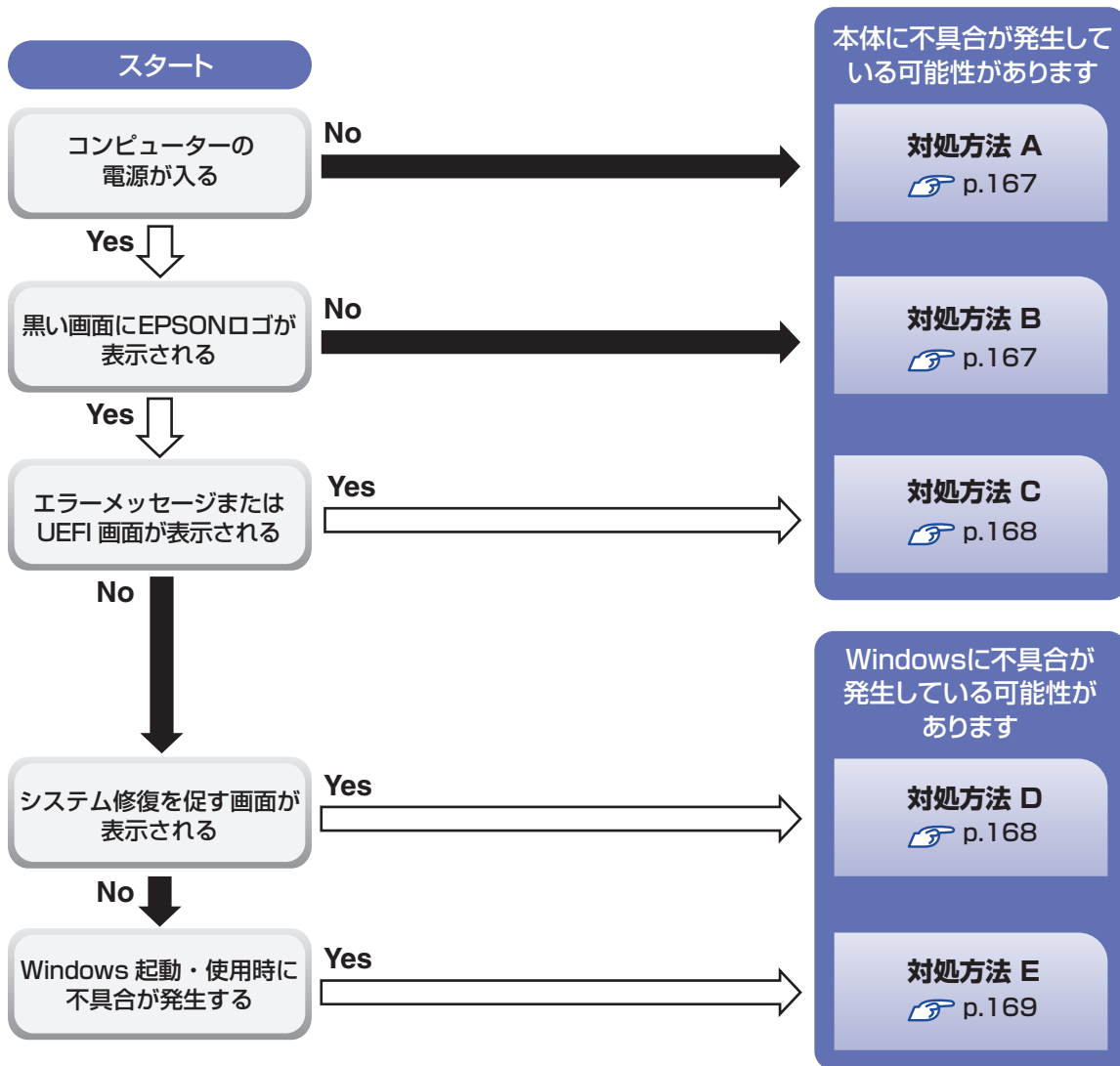
コンピューターを起動、画面表示できない場合は、 p.166 「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。

起動・画面表示できないときは


コンピューターを起動、画面表示できない場合は、診断を行い、各診断結果に応じた対処をしてください。

診断をする

次の診断を行ってください。対処方法が決まったら、 p.167「対処をする」へ進んでください。



対処をする

コンピューターを起動、画面表示できないときの対処方法は、次のとおりです。
対処後も不具合が解消しない場合は、『別冊』『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、サポート窓口までお問い合わせください。

対処方法 A

次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューターの電源を入れなおす**
電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。
- 2 電源コード/AC アダプター/バッテリーパックを接続しなおす**
コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューターの電源を切ってから、電源コード、AC アダプター、バッテリーパックを外して 1 分程度放置し、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
バッテリーパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。AC アダプターを接続して使用してみてください。
- 3 周辺機器や増設した装置を取り外す**
本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、周辺機器や装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

対処方法 B

次の対処を順番に行ってみてください。


- 1 電源コード/AC アダプター/バッテリーパックを接続しなおす**
コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューターの電源を切ってから、電源コード、AC アダプター、バッテリーパックを外して 1 分程度放置し、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
バッテリーパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。AC アダプターを接続して使用してみてください。
- 2 周辺機器や増設した装置を取り外す**
本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、周辺機器や装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

対処方法 C

起動時に「Reboot and Select…」というエラーメッセージまたはUEFIの画面が表示される場合は、次のとおり対処してみてください。

1 UEFI Setup ユーティリティでブートデバイスの設定を確認する

- 「Boot」メニュー画面－「Boot Option #1」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。
- ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアを挿入してください。
- Windows 7の場合は「Secure Boot」と「UEFI Boot」が「Disabled」に設定されていることを確認してください。

 p.137 「BIOSモードとUEFIモード」

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、周辺機器や装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。


対処方法 D

次のとおり対処してみてください。

1 表示された画面の指示に従ってシステムを修復する

2 Windows を再インストールする

HDD/SSD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.147 「ソフトウェアの再インストール」

対処方法 E

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューターの電源を入れなおす


電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、周辺機器や装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.171 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

 p.172 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.172 「システムの復元」

4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

 p.173 「前回正常起動時の構成で起動する」

5 UEFI の設定を初期値に戻す

UEFI の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。UEFI の設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前に UEFI の設定をメモしておいてください。

 p.130 「Load Setup Defaults (UEFI の初期値に戻す)」

6 Windows RE を使う

「Windows 回復環境 (Windows RE)」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.174 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

7 Windows を再インストールする

HDD/SSD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.147 「ソフトウェアの再インストール」

トラブル時に効果的な対処方法

トラブル時に効果的な対処方法を紹介します。

機能	こんなときに
再起動  p.170 本機を再起動します。	・使用しているソフトウェアで指示があった場合 ・ソフトウェアや Windows の動作が不安定になったとき
ソフトウェアの強制終了  p.171 ソフトウェアを強制終了します。	・ソフトウェアや Windows が、キーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなったとき
セーフモードで起動  p.171 必要最低限の状態での Windows を起動します。	・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
常駐ソフトの停止  p.172 不具合のある常駐ソフトを停止します。	・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
システムの復元  p.172 Windows を以前に作成した復元ポイントの状態に戻します。	・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
前回正常起動時の構成で起動  p.173 Windows を前回正常起動できた状態に戻します。	・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードでも起動できないとき）
UEFI の初期化  p.130 UEFI の設定を初期値に戻します。	・UEFI の設定を誤って本機が起動しなくなったとき、動作が不安定になったとき
リチウム電池の交換  p.173 リチウム電池を交換します。	・日時や時間がおかしくなる ・UEFI で設定した値が変わってしまう
Windows 回復環境 (Windows RE)  p.174 Windows を修復します。	・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
ソフトウェアの再インストール  p.147 本機を購入時の状態に戻します。	・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（上記項目の対処をしても起動できないとき）
システム診断ツール  p.176 ハードウェアに不具合があるかどうかを診断します。	・不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを調べたいとき

再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windows の動作が不安定になった場合

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックします。

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。


ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアや Windows がキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
- 2** 表示された項目から「タスクマネージャーの起動」をクリックします。
「Windows タスクマネージャー」が起動します。
- 3** 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して「タスクの終了」をクリックします。
ソフトウェアが終了します。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源スイッチ（）を 3 秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

セーフモードでの起動


本機を正常に起動できない場合は、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切り、20 秒程放置します。
- 2** 本機の電源を入れ、すぐに **F8** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対処してください。

常駐ソフトの停止

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、を押します。
- 2** 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
- 3** 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。

常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行って Windows を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されます。

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「システムの復元」画面に「推奨される復元」か「別の復元ポイントを選択する」の選択肢が表示された場合は、「推奨される復元」を選択します。
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択します。
- 3** [次へ] をクリックします。
- 4** 復元ポイントの一覧が表示された場合は、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。
- 5** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。
- 6** 「いったんシステムの復元を開始したら…」と表示されたら、[はい] をクリックします。
本機が再起動します。
- 7** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。

これでシステムの復元は完了です。

前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **F8** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 2** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、**↵** を押します。

リチウム電池の交換

「UEFI Setup ユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上のリチウム電池により保持されています。

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、AC アダプターやバッテリーからの電力供給がまったく無い場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。

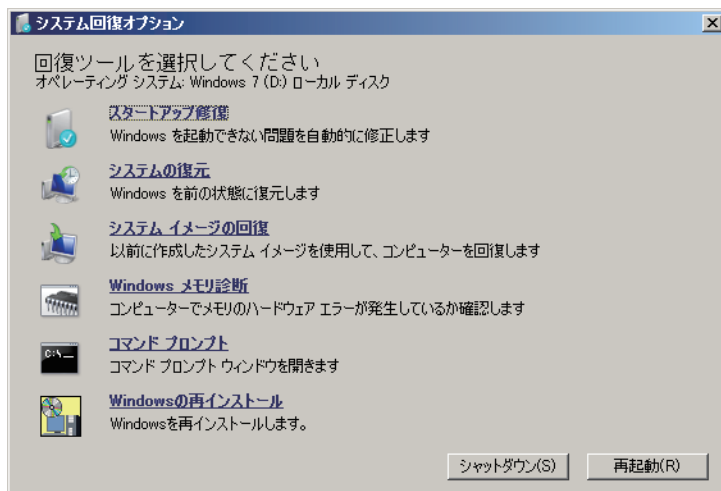
日付や時間がおかしくなったり、UEFI で設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。[別冊](#)『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。なり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

Windows回復環境(Windows RE)を使う

本機のHDD/SSD内と「Windows 7リカバリーDVD」には、「Windows回復環境(Windows RE)」が設定されています。Windows REを使用して、修復を行っててください。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。



<イメージ>

● スタートアップ修復

Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行っててください。問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行ってください。

● システムの復元

コンピューターの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。Windowsの動作が不安定な場合に行ってください。

 p.172 「システムの復元」


問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行ってください。

● システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windowsやソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。

 「PCお役立ちナビ」－【お役立ち】－「カテゴリから選ぶ」－「Windowsの操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成」のデータを復元する方法

● Windowsメモリ診断

メモリーにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

● コマンドプロンプト

コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

HDD/SSD 内の Windows RE を起動する

HDD/SSD 内の Windows RE を手動で起動する方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切り、20 秒程放置します。
- 2** 本機の電源を入れ、すぐに **[F8]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピューターの修復」を選択し、**[←]** を押します。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
- 5** 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には、「パスワード」にパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。
- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.174 「Windows RE の項目」

DVD の Windows RE を起動する

Windows RE は、「Windows 7 リカバリー DVD」にも収録されています。HDD/SSD 内に設定されている Windows RE を消去してしまった場合などに使用してください。

※ 作業には、USB 光ディスクドライブが必要です。

DVD に収録されている Windows RE の起動方法は、次のとおりです。

- 1** 「Windows 7 リカバリー DVD」を光ディスクドライブにセットして、本機を再起動します。
- 2** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
- 3** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
- 4** オペレーティングシステムの一覧が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
- 5** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.174 「Windows RE の項目」

システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、ハードウェアに不具合が発生しているかどうかを診断することができます。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2種類があります。

- PC お役立ちナビから起動するシステム診断ツール

PC お役立ちナビからシステム診断を行うことができます。Windows を起動できる場合に使用します。

- CD から起動するシステム診断ツール

Windows が起動できない場合に、「リカバリーツール CD」からツールを起動してシステム診断を行います。光ディスクドライブの接続が必要です。

システム診断を実行する

Windows を起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。


Windows を起動できる場合

PC お役立ちナビからシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「PC お役立ちナビ」アイコンをダブルクリックします。



< PC お役立ちナビアイコン >


- 2** PC お役立ちナビが起動したら、[トラブル解決] - [システム診断ツール起動] をクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい (続行)] をクリックします。
- 4** システム診断ツールが起動したら、診断したい項目をクリックします。
該当項目の診断が開始されます。
- 5** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。
「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。
 **別冊** 『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

Windows を起動できない場合

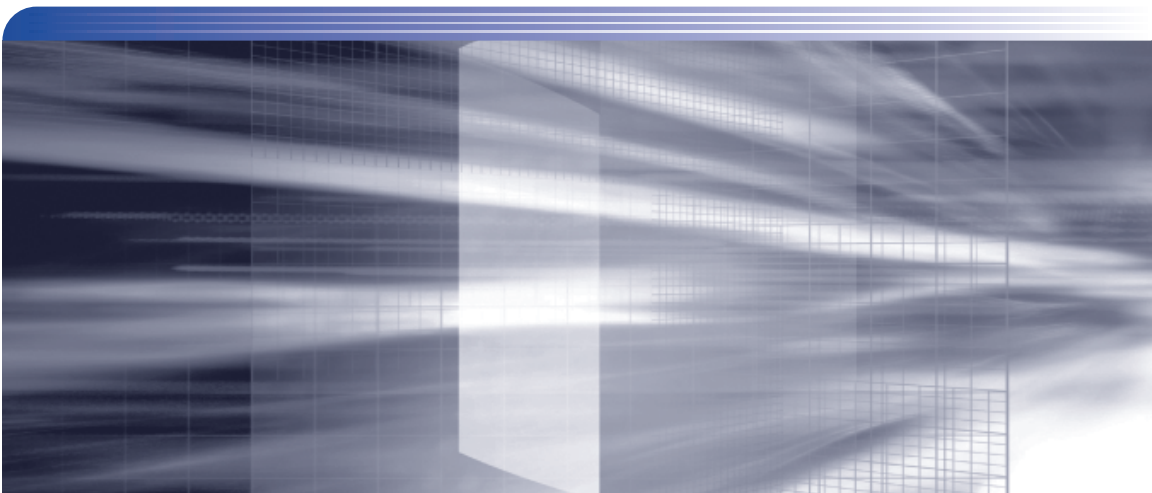
「リカバリーツール CD」からシステム診断ツールを起動します。

※ 作業には、USB 光ディスクドライブが必要です。

実行方法は、次のとおりです。

- 1** 「リカバリーツール CD」を光ディスクドライブにセットして、本機を再起動します。
- 2** 黒い画面に「Kernel Loading . . . Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 3** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。
「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。
 『別冊』『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 4** 光ディスクドライブから CD を取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。





付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

お手入れ	180
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化...	181
消去禁止領域のデータをバックアップする	183
HDD/SSD 領域の変更	185
コンピューターを廃棄するときは	189
機能仕様一覧	192

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。



- 本機をたたいたり、硬いものでこすったりしないでください。変形やキズ、破損の原因となります。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD 画面

LCD 画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティーチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。

TPM のセキュリティー機能の使用方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」



制限

TPM のセキュリティー機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPM のセキュリティー機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティー機能使用前の準備

TPM のセキュリティー機能を使用するには、UEFI の設定と「セキュリティーチップユーティリティー」のインストールが必要です。

UEFI の設定

UEFI の設定は、「UEFI Setup ユーティリティー」で行い、場合により作業が異なります。

 p.126 「UEFI Setup ユーティリティーの操作」

 p.142 「Security メニュー画面」

初めて TPM を使用する場合

- 1 TPM の情報を初期化します。
「Security」メニュー画面 - 「TPM Function」 - 「Clear Trusted Platform Module」 - 「Yes」 (初期化の実行)
- 2 **[F10]** を押して、UEFI Setup ユーティリティーを終了します。
本機が起動したら、**[F2]** を「トン、トン、トン…」と断続的に押して、再度 UEFI Setup ユーティリティーを起動します。
- 3 初期化によって TPM 機能が無効「Disabled」になりますので、有効「Enabled」に設定します。
「Security」メニュー画面 - 「TPM Function」 - 「Trusted Platform Module」: 「Enabled」 (有効)

Windows を再インストールした場合

TPM 機能が有効「Enabled」に設定されていることを確認します。

「Security」メニュー画面 - 「TPM Function」 - 「Trusted Platform Module」: 「Enabled」 (有効)

セキュリティーチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティーチップユーティリティ」はインストールされていません。TPMのセキュリティー機能を使用するには、UEFIの設定後にセキュリティーチップユーティリティのインストールを行う必要があります。インストール方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルビューワ」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」

消去禁止領域のデータをバックアップする

HDD/SSD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、USB 記憶装置にバックアップすることができます。

HDD/SSD が故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一に備え、バックアップをおすすめします。

バックアップ方法

バックアップはリカバリーツールを使用して行います。

バックアップ方法は次のとおりです。

1 本機の電源を入れ、USB 記憶装置（空き容量 8GB 以上）をセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、閉じておきます。

2 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。

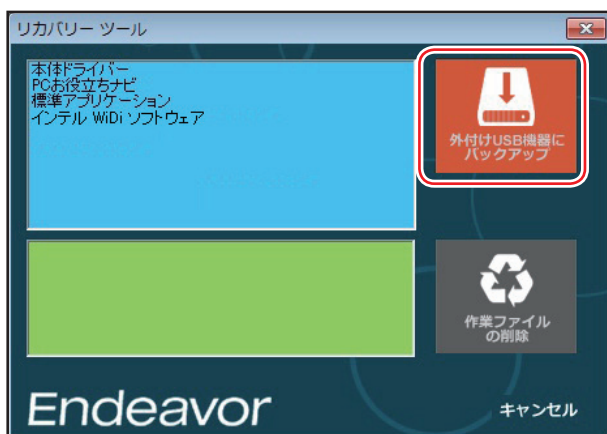


<リカバリーツールアイコン>

3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

4 リカバリーツールが起動したら、[外付け USB 機器にバックアップ] をクリックします。

5 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、[外付け USB 機器にバックアップ] をクリックします。



<イメージ>

以降は画面の指示に従って書き込みを行ってください。

※ ファイルの保存先は、USB 記憶装置内のフォルダーに設定します。フォルダーがない場合は、新規作成してください。フォルダー名は必ず半角英数字にしてください。

バックアップデータからインストールを行うには

バックアップデータからドライバーやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。

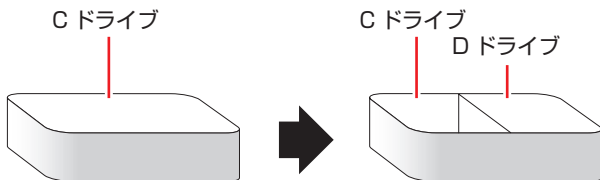
- 1** バックアップデータの入った USB 記憶装置を本機にセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「USB 機器」をダブルクリックして開きます。
- 3** USB 記憶装置内のデータが表示されたら、バックアップデータフォルダー内の「EPSONInst.exe」をダブルクリックします。
- 4** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 5** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、インストールしたい項目を選択して [インストール] をクリックします。
以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

HDD/SSD 領域の変更

ここでは、HDD/SSD 領域の変更方法について説明します。

HDD/SSD領域を分割して使用する(概要)

HDD/SSD 領域は、いくつかかに分割して使用することができます。分割したひとつひとつの領域を「パーティション」と言います。また、Windows で使えるように作成した領域を「ドライブ」と言います。



参考

消去禁止領域

「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアなどを再インストールするためのデータと「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

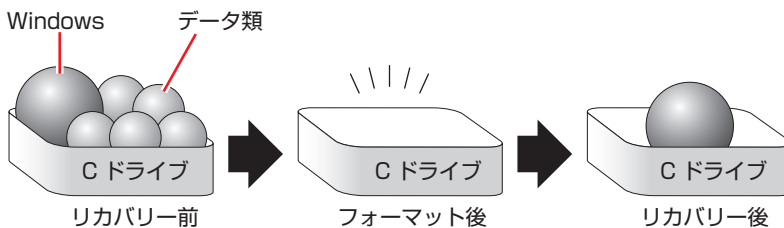
HDD/SSD 領域分割のメリットとデメリット

HDD/SSD 領域を分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。HDD/SSD 領域を分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

メリット

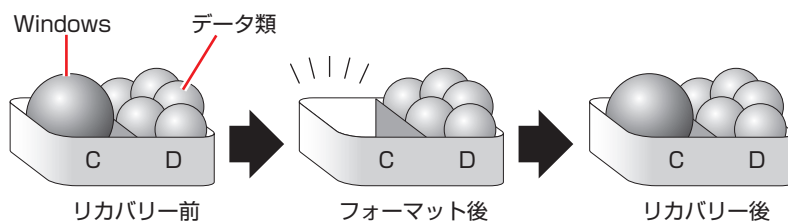
HDD/SSD 領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、Windows の再インストール(リカバリー)時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD/SSD 領域が 1 つの場合



リカバリーを行うと、C ドライブのデータはすべて消去されます。

HDD/SSD 領域を分割した場合



たとえば、Windows やソフトウェアは C ドライブに、作成したデータなどは D ドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリーを行うと、消去されるのは C ドライブのみとなるため、D ドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。

制限

リカバリーを行うときは、万に備え、C ドライブ以外のドライブの重要なデータもバックアップしておくことをおすすめします。

デメリット

- HDD/SSD 領域変更の際、ドライブを削除すると、ドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD/SSD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

HDD/SSD領域の変更(拡張/縮小/削除/作成)

HDD/SSD 領域の変更は、Windows の「ディスクの管理」で行います。C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) の領域変更も、「ディスクの管理」で行うことができます。

参考

Windows の再インストール中に領域変更する

HDD/SSD 領域の変更は、Windows の再インストール中に行うこともできます。

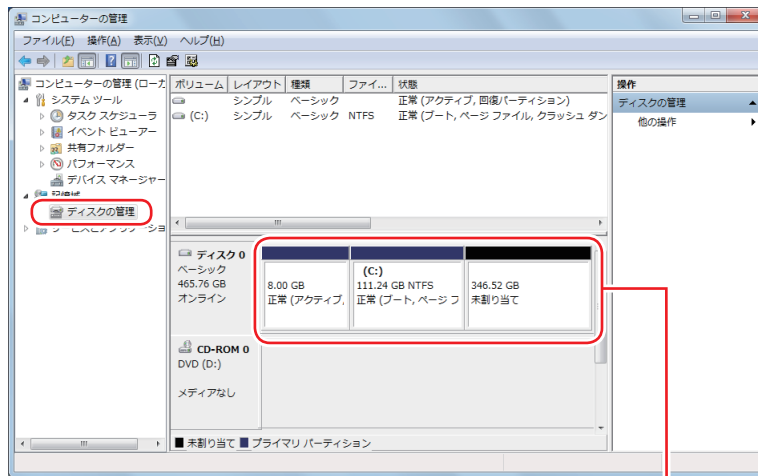
[🔗](#) p.151 「Windows のインストール」
ドライブの作成は、「ディスクの管理」で行ってください。

制限

- 作業の前に、重要なデータは外付け HDD などにバックアップしてください。
- 拡張は、ドライブのすぐ後ろ (右隣) に「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。
- 縮小できるサイズには限界があります。
- C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) は削除できません。
- ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。
- 作成は、「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。

HDD/SSD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとセキュリティ」 – 「管理ツール」 – 「コンピューターの管理」 – 「ディスクの管理」を開きます。



<イメージ>

HDD/SSD 領域の状態

- 2 HDD/SSD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）を行います。

ドライブを拡張する場合

- 1 拡張するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの拡張」をクリックします。
- 2 「ボリュームの拡張ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ディスクの選択」と表示されたら、「ディスク領域 (MB) を選択」で拡張する容量を入力し、[次へ] をクリックします。
- 4 「ボリュームの拡張ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
ドライブが拡張され、ドライブの容量が増えます。

ドライブを縮小する場合

- 1 縮小するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの縮小」をクリックします。
- 2 「(ドライブ文字) の縮小」画面が表示されたら、「縮小する領域のサイズ」を入力し、[縮小] をクリックします。
ドライブが縮小され、「未割り当て」領域が増えます。
※ C ドライブの目安：80GB (80000MB) 以上

ドライブを削除する場合

- 1 削除するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。
- 2 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。
ドライブが削除され、「未割り当て」領域が増えます。

ドライブを作成する場合

- 1 「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 2 「新しいシンプルボリュームウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 4 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 5 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、ドライブが使用できるようになります。

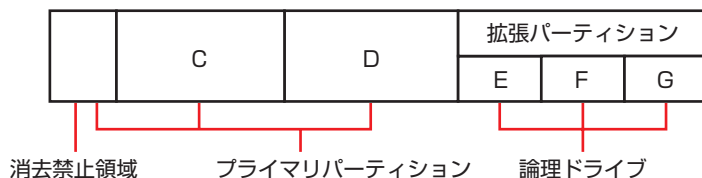


参考

パーティションの種類

- パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1 つの HDD/SSD に作成できるパーティションは最大で 4 つです。
- 「消去禁止領域」もパーティションの 1 つです。
- パーティションを作成すると、自動的に 3 つ目まではプライマリパーティションとなり、4 つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>



コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄する際の注意事項や、HDD/SSD のデータ消去方法について説明します。
パソコン回収サービスについては、下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

コンピューターの廃棄・譲渡時のHDD/SSD上のデータ消去に関するご注意

コンピューターは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピューターの中のHDD/SSDという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのコンピューターを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このHDD/SSD内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ 付属のリカバリー CD/DVD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、HDD/SSD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このコンピューターのHDD/SSD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

コンピューターユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、HDD/SSD上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、HDD/SSDに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（有償）を利用するか、HDD/SSD上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、HDD/SSD上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくコンピューターを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

HDD/SSDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD/SSD のデータを消去してください。

リカバリーツール CD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD/SSD 内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDD/SSD のデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD/SSD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD/SSD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

※ 外付けの光ディスクドライブが必要です。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリーツール CD を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 黒い画面に「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で消去したい HDD/SSD のドライブを選択して  を押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。
- 8** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。
- 9** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。消去には、しばらく時間がかかります。実際にかかる時間は「Estimated」に表示されます。

- 10** 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、次の作業を行います。

他の HDD/SSD のデータを消去する場合

- ① どれかキーを押します。
- ② システム診断ツールの画面が表示されたら、どれかキーを押します。
- ③ ⑧ ~ ⑫ を行います。

終了する場合

- ① リカバリーツール CD を光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。

これでデータの消去は終了です。

機能仕様一覧

型番	NA511E	
CPU *1	購入時の選択による	
チップセット	CPU 内蔵	
UEFI	AMI UEFI (BIOS モードで使用)	
メインメモリー *2	規格	PC3L-12800 SODIMM (DDR3L-1600 SDRAM)
	搭載可能容量 (最大)	Windows 7 32bit 版 : 4GB (システム上利用できるのは約 3GB まで) Windows 7 64bit 版 : 16GB
	スロット	SODIMM スロット (204 ピン) × 2
ビデオコントローラー	インテル HD グラフィックス 4400	
ビデオメモリー (メインメモリーと共用)	最大 790MB ~ 1696MB	
液晶タイプ、表示解像度 (最大)	13.3 型 HD 液晶 1366 × 768 *3	
外部ディスプレイ表示解像度 (最大) *4	1600 × 1200、1920 × 1200 (ワイドディスプレイ接続時のみ)	
HDD または SSD	シリアル ATA300MB/s (または 600MB/s) 対応 2.5 型 HDD (容量は購入時の選択による)	
	シリアル ATA 600MB/s 対応 M.2 SSD (容量は購入時の選択による)	
メモリーカードスロット *5	1 : SD メモリーカード (SDHC/SDXC 対応)、マルチメディアカード *6	
サウンド機能	ハイ・デフィニション・オーディオ対応コントローラー REALTEK 製 ALC269、モノラルスピーカ (出力 1W)、モノラルマイク	
ネットワーク機能	1000Base-T/100Base-TX/10Base-T 対応 Intel 製 I218-V コントローラー	
無線 LAN / Bluetooth (オプション)	Intel Dual Band Wireless-AC 7260 + Bluetooth [WiFi CERTIFIED] モジュール	
キーボード	日本語対応 86 キー	
ポインティングデバイス	タッチパッド	
カメラ	92 万画素	
インタフェース	USB	3 : USB3.0 × 2 (右側面)、USB2.0 × 1 (左側面)
	LAN	1 : RJ-45
	サウンド	ヘッドホン出力 × 1、マイク入力 × 1
	ディスプレイ	VGA ミニ D-SUB 15 ピン × 1、HDMI TypeA 19 ピン × 1 (オプションの HDMI-DVI 変換アダプター使用で、HDMI をデジタル DVI-D 24 ピンに変換)
セキュリティーチップ (TPM)	TPM1.2 対応 Infineon SLB9660TT1.2 コントローラー	
電源	AC アダプター *7 (ADP-40PH)	入力 : AC100V ~ 240V ± 10% (50/60Hz)、1.2A 出力 : DC19V、2.1A、40W 質量 : 約 228g (電源コード含む)
	バッテリー (BT4103-B)	容量 : 2000mAh リチウムイオンポリマー 14.8V 駆動時間 *8 : 約 5.6 時間
本体寸法 (幅 × 奥行き × 高さ)	319 × 226 × 21mm	
本体質量 (バッテリー含む)	約 1.2kg	
消費電力 (AC 側)	最大定格出力時 (理論値) : 46.9W	
動作環境	動作温度 : 10 ~ 35℃、動作湿度 : 20 ~ 80% (ただし、結露しないこと)	

*1 プログラムの負荷によって動作周波数が低下することがあります。

*2 新規メモリー追加や最大搭載可能容量変更の可能性あり (当社ホームページ参照)。

*3 ビデオコントローラーのデザイン機能により約 1,677 万色を実現。True Color 32 ビット。

*4 本機搭載のビデオコントローラー出力解像度 (実際の表示は接続するディスプレイの仕様による)。

*5 SD メモリーカードの著作権保護機能には非対応。

*6 記載は対応規格であり、すべてのカードでの動作を保証するものではありません。

*7 AC100V 用 (日本仕様)。本製品は国内専用のため、海外での使用は保証対象外。

*8 動作時間は JEITA 測定方法 Ver.2.0 に基づく測定値 (システム構成や使用環境により異なる)。最小構成時。

本書に記載している仕様は製品発売時の情報です。最新情報は次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - 「FAQ 番号で検索」 - FAQ 番号 : 17849

無線機能(オプション)

本機の無線機能について記載します。

Bluetooth

本機の Bluetooth* の仕様は次のとおりです。

準拠規格	Bluetooth 標準規格 Ver. 4.0+EDR
転送速度 (規格値)	3 Mbps

- * 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：7260NGW
認証番号：003-130045

無線 LAN

本機の無線 LAN*¹ の仕様は次のとおりです。

準拠規格	IEEE802.11ac/a/n 無線 LAN 標準プロトコル、ARIB STD-T71 IEEE802.11b/g 無線 LAN 標準プロトコル、ARIB STD-T66
データ転送速度 (規格値) * ²	IEEE802.11a/g：54Mbps IEEE802.11b：11Mbps IEEE802.11n：300Mbps(2x) IEEE802.11ac：867Mbps(2x)
変調方式	DS-SS 方式、OFDM 方式
伝送距離 (理論値) * ³	IEEE802.11a：12m IEEE802.11b：40m IEEE802.11g：25m
セキュリティー * ⁴	IEEE802.11a/b/g：WPA2、AES-CCMP、IEEE802.1x 認証に対応 IEEE802.11ac/n：WPA (AES のみ)、WPA2 (AES のみ)、IEEE802.1x 認証に対応
使用無線チャンネル	IEEE802.11ac/a/n：36/40/44/48ch (W52)、52/56/60/64ch (W53)、 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140 ch (W56) IEEE802.11b/g/n：1～13ch

- *¹ 本機には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。

認証製品名：7260NGW
認証番号：003-130045


- *² 無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

- *³ 屋内におけるアクセスポイントとの通信距離です。実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windows などの使用条件によって短くなります。

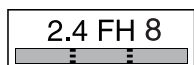
- *⁴ IEEE802.1xについて、Windows Server 2012とのIEEE802.1x Radius Server(EAP-TLS 対応認証サーバー) + WPA (TKIP) の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

電波に関するご注意

本機には認証を取得した無線設備が内蔵されており、5GHz または 2.4GHz の周波数帯を使用します。

- 本機の無線設備は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として技術基準適合証明を受けているため、本機を分解／改造しないでください。なお、日本国内でのみ使用できます。
- 5GHz (W52、W53) の周波数帯は、電波法の規定により屋外では使用できません。
- 2.4GHz の周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と称す）が運用されています。
 - (1) 本機の無線設備をご使用になる前に、近くで「他の無線局」が使用されていないことを確認してください。
 - (2) 万一、本機の無線設備と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所または使用無線チャンネルを変えるか、運用（電波の発射）を停止してください。
 - (3) 電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときには、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

<Bluetooth>



変調方式として GFSK 方式を採用しており、与干渉距離は 80m です。
使用無線チャンネルは変更できません。

<無線LAN>



変調方式として DS-SS および OFDM 方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。

MEMO

エプソンダイレクト ユーザーサポートページ

www.epsondirect.co.jp/support/